

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長 殿
【提出日】	平成27年2月17日 提出
【発行者名】	農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高谷 正伸
【本店の所在の場所】	東京都千代田区平河町二丁目7番9号
【事務連絡者氏名】	後藤田 晋
【電話番号】	03-5210-8500
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	J A 資産設計ファンド（安定型） J A 資産設計ファンド（成長型） J A 資産設計ファンド（積極型）
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】	発行価額の総額 各ファンドにつき各上限1兆円
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【証券情報】

（１）【ファンドの名称】

ＪＡ資産設計ファンド（安定型）

ＪＡ資産設計ファンド（成長型）

ＪＡ資産設計ファンド（積極型）

以上を総称して、またはそれぞれを「ＪＡ資産設計ファンド」または「ファンド」という場合があります。

（２）【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託（振替内国投資信託受益権）

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関及び当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託者である農林中金全共連アセットマネジメント株式会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社の依頼により、信用格付業者（金融商品取引法第2条第36項に規定する信用格付業者をいう。以下同じ。）から提供され、若しくは閲覧に供された信用格付（金融商品取引法第2条第34項に規定する信用格付をいう。以下同じ。）又は信用格付業者から提供され、若しくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

（３）【発行（売出）価額の総額】

各ファンドにつき、1兆円を上限とします。

（４）【発行（売出）価格】

各ファンドにつき、取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

基準価額とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権総口数で除した1口当りの価額をいいます。基準価額は、組入有価証券等の値動きなどにより日々変動します。

なお、基準価額は、便宜上、1万口当りに換算した価額で表示する場合があります。

基準価額は、原則として委託者の営業日において日々算出され、委託者（下記参照）または販売会社^{（注）}に問い合わせることにより知ることができます。

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社のお問い合わせ窓口

<フリーダイヤル>0120-439-244（営業日の午前9時から午後5時まで）

<ホームページアドレス><http://www.ja-asset.co.jp/>

（注）委託者、委託者の指定する第一種金融商品取引業者および登録金融機関を総称してまたはそれぞれを「販売会社」ということがあります。（以下同じ。）

なお、販売会社と販売会社以外の第一種金融商品取引業者および登録金融機関が取次契約を結ぶことにより、当ファンドの申し込みを販売会社に取り次ぐ場合があります。

（５）【申込手数料】

<通常（確定拠出年金制度に基づく申込の取扱いは除きます。以下同じ。）の申込>の場合

申込手数料は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に販売会社が個別に定める手数料率を乗じて得た額とします。

本書提出日現在、手数料率の上限は1.62%（税抜1.5%）となっております。

詳しくは、委託者（下記参照）または販売会社にお問い合わせください。

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社のお問い合わせ窓口 <フリーダイヤル> 0120-439-244（営業日の午前9時から午後5時まで） <ホームページアドレス> http://www.ja-asset.co.jp/
--

上記申込手数料率には、申込手数料に係る消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する金額が含まれております。

スイッチング^{（注）}による取得申込の場合および収益分配金を再投資する場合の申込手数料は、無手数料となります。

（注）「スイッチング」とは、各ファンドの一部解約金の手取金をもって、当該一部解約の請求と同時に、当該ファンド以外の「JA資産設計ファンド」の受益権の取得を申し込む場合をいいます。（以下同じ。）

販売会社によっては、償還乗換え優遇措置等の適用が受けられる場合があります。

<確定拠出年金制度に基づく申込^{（注）}>の場合

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社・・・無手数料

（注）「確定拠出年金制度に基づく申込」とは、確定拠出年金法に規定する加入者等の行った運用の指図に基づき、同法に規定する資産管理機関または連合会（同法に基づき連合会が事務を委託した者を含みます。）が行う申込をいいます。（以下同じ。）

（6）【申込単位】

<通常の申込>の場合

販売会社が個別に定める単位とします。

詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

ただし、スイッチングによる取得申込の場合および収益分配金を再投資する場合の申込単位は、1口の整数倍とします。

<確定拠出年金制度に基づく申込>の場合

各ファンドにつき、1円以上1円単位とします。

（7）【申込期間】

平成27年2月18日から平成28年2月16日までとします。（継続申込期間）

上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

（8）【申込取扱場所】

<通常の申込>の場合

当ファンドの申込取扱場所（販売会社）については下記の照会先までお問い合わせください。

照会先

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社のお問い合わせ窓口 <フリーダイヤル> 0120-439-244（営業日の午前9時から午後5時まで） <ホームページアドレス> http://www.ja-asset.co.jp/
--

<確定拠出年金制度に基づく申込>の場合

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社

（9）【払込期日】

取得申込者は、申込代金を販売会社の指定する日までに販売会社に支払うものとします。

振替受益権に係る各取得申込日の発行価額の総額は、追加信託を行う日に販売会社により委託者である農林中金全共連アセットマネジメント株式会社の指定する口座を経由して受託者である三菱UFJ信託銀行株式会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

「申込代金」とは、申込金額(取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数)に販売会社が個別に定める申込手数料および当該申込手数料に係る消費税等に相当する金額を加算した額をいいます。

(10)【払込取扱場所】

上記「(8)申込取扱場所」に同じです。

受益権の取得申込者は、申込代金を販売会社において支払うものとします。

(11)【振替機関に関する事項】

ファンドの受益権に係る振替機関は下記の通りです。

株式会社 証券保管振替機構

(12)【その他】

a. 申し込みの方法

< 通常の申込 > の場合

当ファンドの取得申込については、原則として午後3時までに取得の申し込みが行われ、かつ、当該取得申込の受け付けに係る販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日の申し込みとします。

取得申込の受け付けは、販売会社の営業日に限り行われます。

なお、金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、受益権の取得申込の受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた取得申込を取り消す場合があります。

当ファンドは、収益分配を行った場合、税金を差し引いた後、収益分配金を無手数料で再投資を行う「分配金再投資(累積投資)」専用のファンドです。

このため、取得申込者は、販売会社との間で、「J A資産設計ファンド累積投資規定」に従った分配金再投資に関する契約(「累積投資契約」)を締結します。

「J A資産設計ファンド累積投資規定」に従った分配金再投資に関する契約(「累積投資契約」)については、別の名称で同様の権利義務内容を定める契約または規定が用いられることがあり、この場合には、当該別の名称に読み替えるものとします。(以下同じ。)

当ファンドを保有している場合、スイッチングの申し込みを受け付けます。

スイッチングの申し込みの際は、一部解約の実行を請求するファンドと取得申込を行うファンドをご指示ください。

この場合の一部解約の実行の請求と取得申込は、通常の場合と同様となりますが、申込単位は、1口単位とし、申込手数料はかかりません。

振替受益権について

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、上記「(11)振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則にしたがって取り扱われるものとします。

ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および上記「(11)振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

< 確定拠出年金制度に基づく申込 > の場合

確定拠出年金制度に係る手続きが必要になります。

b. 日本以外の地域における発行

該当事項はありません。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

各ファンド（安定型、成長型、積極型）は、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

一般社団法人 投資信託協会の指針に基づく商品分類は、各ファンドとも同じ以下の分類です。

商品分類：追加型投信 / 内外 / 資産複合

属性区分：その他資産（投資信託証券：資産複合（資産配分固定型：株式・債券・円短期金融商品）） / 年1回 / グローバル（含む日本） / ファミリーファンド / 為替ヘッジなし

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載していません。

商品分類および属性区分 一覧表

（各ファンドが該当する部分を網掛け表示しています。定義などの詳細については、一般社団法人 投資信託協会のホームページ <<http://www.toushin.or.jp/>> をご覧ください。）

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式
	海外	債券
追加型投信		内外
		資産複合

追加型投信:一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。

内 外:目論見書又は投資信託約款において、国内及び海外の資産による主たる投資収益が実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

資産複合:目論見書又は投資信託約款において、株式、債券、不動産投信（リート）、その他資産のうち複数の資産による投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。

属性区分表

(当ファンドは、ファミリーファンド方式の為、募集分類(表紙)と属性区分における投資対象資産は異なります。)

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式	年1回	グローバル (含む日本)	ファミリー ファンド	あり ()
		日本		
	年2回	北米		
債券	年4回	欧州		
		年6回 (隔月)	アジア	
	年12回 (毎月)	オセアニア		
中南米				
不動産投信	日々	アフリカ	なし	
その他資産 (投資信託証券:資産複合(資産配分固定型 :株式・債券・円短期金融商品))		中近東 (中東)		
資産複合()	その他 ()	エマージング		
資産配分固定型				
資産配分変異型				

※属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

その他資産:組入れている資産を記載するものとする。

年 1 回:目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。

グ ロー バ ル:目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、「世界の資産」の中に「日本」を含むか含まないかを明確に記載するものとする。

ファミリーファンド:目論見書又は投資信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。）を投資対象として投資するものをいう。

為替ヘッジなし:目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行なわない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

< 信託金の限度額 >

各ファンドにつき、委託者は、受託者と合意のうえ、金1兆円を限度として信託金を追加できるものとし、追加信託が行われたときは、受託者はその引受けを証する書面を委託者に交付します。

委託者は、受託者と合意のうえ、上記の限度額を変更することができます。（信託の目的、金額および信託金の限度額（約款第2条））

< ファンドの特色 >

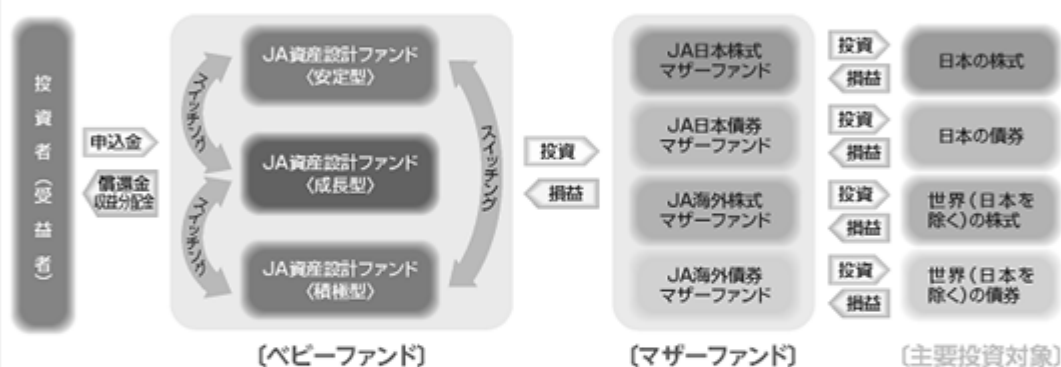
1 国内株式・国内債券・外国株式・外国債券の各資産への分散投資によって、信託財産の中長期的な成長を目指します。

- 各ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。
- 各資産への投資は、資産別のマザーファンドへの投資を通じて、国内株式、国内債券、外国株式および外国債券の各資産に分散投資を行います。

ファンドの仕組み

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。

ファミリーファンド方式とは、投資者(受益者)から投資された資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドに投資して、実質的な運用をマザーファンドで行うものです。



- ◎ 各ファンド間でスイッチングが可能です。

分配方針

毎年11月16日(休業日の場合は翌営業日)に諸経費等を控除後の利子・配当収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

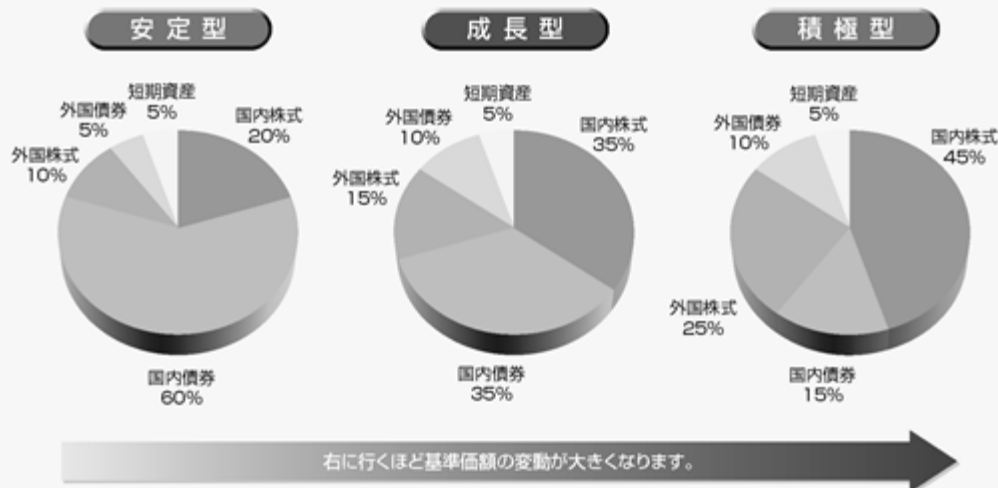
※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

主な投資制限

- ◎ 親投資信託への投資割合には、制限を設けません。
- ◎ 外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の50%未満とします。
- ◎ 株式への実質投資割合は、安定型と成長型は、信託財産の純資産総額の70%未満とし、積極型は、制限を設けません。

2 お客様のライフサイクルやリスクの許容度に応じて、3つのファンド(安定型、成長型、積極型)から選択いただけます。

- 3つのファンド(安定型、成長型、積極型)の各資産(資産別のマザーファンド)への基本配分比率は次のとおりとします。
- 基本配分比率は、市況動向等の中長期的な変化を考慮し、見直しを行う場合があります。
- 実際の運用に伴う各資産への配分比率の変動は、基本配分比率から原則として±5%の範囲内に抑えるように努めます。



※委託者が運用にあたって想定しているリスク度合を相対的に明示したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

また、上記の各資産の基本配分比率は、各マザーファンドの組入比率を表わしています。

運用委託先

JA海外株式マザーファンドおよびJA海外債券マザーファンドの外貨建資産等の運用指図に関する権限を、ウエリントン・マネージメントに委託します。

- 米国有数の運用会社であるウエリントン・マネージメントが、ファンダメンタルズ分析と計量分析を併用した手法により運用を行い、安定的な超過収益の獲得を目指します。

ウエリントン・マネージメントの概要

名称：ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー

所在地：米国 マサチューセッツ州 ボストン

特徴：●世界で最古の運用機関のひとつ ■1928年に創業の長い歴史を持つ独立系投資運用会社

●世界で有数の運用機関のひとつ

●グローバルな事業展開

■ボストンに本拠を構え、ロンドン、シンガポール、香港、シドニー、東京等に拠点、世界50カ国以上の2,000を超える顧客に資産運用サービスを提供

3 当社が独自に指数化した合成インデックスを中長期的に上回る成果を目指します。

- 各ファンドは、それぞれに合成インデックスをベンチマーク*とします。

*「ベンチマーク」とは、ファンドの運用目標となる指標であり、また運用成果を検証する際の基準となります。

合成インデックスの基本構成

	国内株式	国内債券	外国株式	外国債券	短期資産
安定型	20%	60%	10%	5%	5%
成長型	35%	35%	15%	10%	5%
積極型	45%	15%	25%	10%	5%

「当社が独自に指数化した合成インデックス」とは、「国内株式:TOPIX(東証株価指数)*1」、「国内債券:NOMURA-BPI総合*2」、「外国株式:MSCI KOKUSAI-インデックス(当社円換算ベース)*3」、「外国債券:シティ世界国債インデックス(除く日本、当社円換算ベース)*4」および「短期資産」の各数値を、各ファンドにおける上記合成インデックスの基本構成比率に基づいて合成・指数化したものです。

- ※1 「TOPIX(東証株価指数)」とは、東京証券取引所第一部に上場しているすべての日本企業の株式(内国株式)の時価総額を基にした株価指数です。なお、同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。また、東京証券取引所は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ※2 「NOMURA-BPI総合」とは、国内債券市場で公募発行され一定の条件を満たす利付債の時価総額を基に野村證券株式会社が公表している指数で、野村證券株式会社の知的財産です。また、野村證券株式会社は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任ありません。
- ※3 「MSCI KOKUSAI-インデックス(当社円換算ベース)」とは、MSCI Inc.が開発した日本を除く世界主要国の主要銘柄の時価総額を基にした株価指数で、同インデックス(米ドルベース)を基に、MSCI Inc.の許諾を得て、当社が独自に円換算したものです。
- ※4 「シティ世界国債インデックス(除く日本、当社円換算ベース)」とは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスで、同インデックス(米ドルベース)を基に、シティグループ証券株式会社の許諾を得て、当社が独自に円換算したものです。

4 各マザーファンドの特色

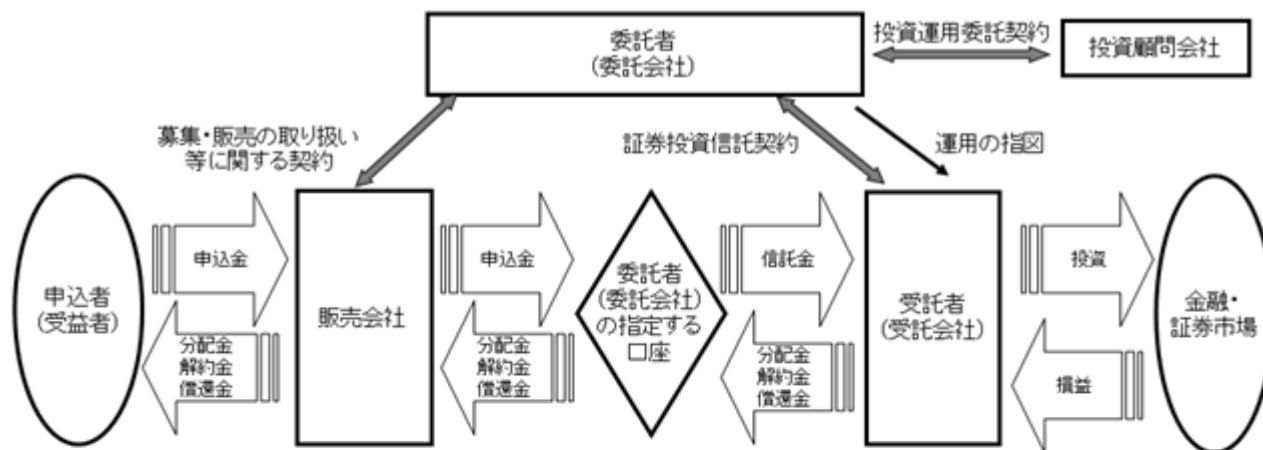
	JA日本株式マザーファンド	JA日本債券マザーファンド	JA海外株式マザーファンド	JA海外債券マザーファンド
運用会社	農林中金全連アセットマネジメント			
(外部委託)	—	—	ウエリントン・マネージメント	
主要投資対象	日本の株式	日本の債券	日本を除く世界先進各国の株式	日本を除く世界各國の債券
ベンチマーク	TOPIX(東証株価指数)	NOMURA-BPI総合	MSCI KOKUSAI-インデックス(当社円換算ベース)	シティ世界国債インデックス(除く日本、当社円換算ベース)
運用手法(ベンチマークに対する超過収益の追求方法)	定量分析と定性分析による個別銘柄選択	デュレーション調整、イールドカーブ調整、セクター配分、個別銘柄選択	定量分析と定性分析による個別銘柄選択	国別配分、デュレーション調整、イールドカーブ調整、通貨配分、セクター配分、個別銘柄選択

資金動向・市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(2) 【ファンドの沿革】

平成13年1月19日 有価証券届出書の提出
 平成13年2月5日 募集開始日
 平成13年2月20日 信託契約締結日、ファンドの設定および運用開始日
 平成19年1月4日 振替制度へ移行

(3) 【ファンドの仕組み】



＜委託者＞農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(委託会社)

①信託財産の運用指図
 ②目論見書および運用報告書の作成 等
 (注)委託者は、当ファンドにおいて販売会社としての役割も有しています。

＜販売会社＞

①ファンドの募集の取扱い・販売および一部解約の請求の受付
 ②目論見書および運用報告書の交付
 ③収益分配金、償還金および一部解約金の支払い 等

＜受託者＞三菱UFJ信託銀行株式会社(受託会社) (再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社)

①信託財産の保管・管理・計算
 ②追加信託に係る振替機関への通知 等

＜投資顧問会社＞ウエルリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー
 (Wellington Management Company LLP)

委託者から外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限の委託を受け、「JA海外株式マザーファンド」ならびに「JA海外債券マザーファンド」における運用の指図、投資判断、発注等を行います。

委託者（委託会社）の概況（平成26年12月30日現在）

資本金の額

34億2千万円

沿 革

平成5年9月28日 農中投信株式会社設立 資本金15億円

10月8日 証券投資信託委託業の免許取得

10月13日 営業開始

平成8年8月20日 投資顧問業務の登録

9月30日 投資一任業務認可取得

10月1日 エヌケイユー投資顧問株式会社と合併し、同日付で「農中投信投資顧問株式会社」へ商号変更 資本金19億2千万円

平成12年10月1日 「農林中金全共連アセットマネジメント株式会社」へ商号変更

平成19年9月30日 金融商品取引業の登録

平成24年7月26日 A種種類株式15,000株を発行し15億円増資（資本金34億2千万円）

大株主の状況

株主名	住所	持株数 (株)	持株比率 (%)
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町1丁目13番2号	19,550	36.61
全国共済農業協同組合連合会	東京都千代田区平河町2丁目7番9号	18,850	35.30
農中信託銀行株式会社	東京都千代田区内神田1丁目1番12号	15,000	28.09

(注) 農林中央金庫及び全国共済農業協同組合連合会が保有する株式はすべて普通株式であり、農中信託銀行株式会社が保有する株式はすべて議決権を有しないA種種類株式です。

なお、議決権保有比率の状況は次のとおりです。

農林中央金庫	50.91%
全国共済農業協同組合連合会	49.09%

(参考)

ウエリントン・マネージメントの概要

名称： ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー

所在地： 米国 マサチューセッツ州 ボストン

特徴： 世界で最古の運用機関のひとつ 1928年に創業の長い歴史を持つ独立系投資運用会社

世界で有数の運用機関のひとつ

グローバルな事業展開

ボストンに本拠を構え、ロンドン、シンガポール、香港、シドニー、東京等に拠点、世界50カ国以上の2,000を超える顧客に資産運用サービスを提供

2【投資方針】

JA資産設計ファンド（安定型）

JA資産設計ファンド（成長型）

JA資産設計ファンド（積極型）

(1)【投資方針】

a. 基本方針（運用の基本方針）

この投資信託は、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

「運用の基本方針」および「約款第 条」とは、信託約款の条項等と対応しております。

また、信託約款の条項等は特に記載がない場合、上記各ファンド共通となっております。（以下同じ。）

b. 運用方法

投資対象

JA日本株式マザーファンド受益証券、JA日本債券マザーファンド受益証券、JA海外株式マザーファンド受益証券およびJA海外債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。

投資態度

(イ) 主として上記 の各親投資信託の受益証券に投資を行うことにより、国内株式、国内債券、外国株式および外国債券に分散投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

運用にあたっては、当社が独自に指数化した合成インデックスをベンチマーク¹とします。

なお、安定型・成長型・積極型ごとに、「各資産(資産別のマザーファンド)への基本配分比率」(下表において と表記しています。)および「ベンチマークとする合成インデックスの構成割合」(下表において と表記しています。)は、次のとおりとします。

	J A日本株式 マザーファンド	J A日本債券 マザーファンド	J A海外株式 マザーファンド	J A海外債券 マザーファンド	短期 資産
	TOPIX(東証株価指数) ²	NOMURA - BPI総合 ³	MSCI KOKUSAI・インデックス(当社円換算ベース) ⁴	シティ世界国債インデックス(除く日本、当社円換算ベース) ⁵	短期 資産
安定型	20%	60%	10%	5%	5%
成長型	35%	35%	15%	10%	5%
積極型	45%	15%	25%	10%	5%

1 「ベンチマーク」とは・・・

ファンドの運用目標となる指標であり、また運用成果を検証する際の基準となります。

2 「TOPIX(東証株価指数)」とは・・・

東京証券取引所第一部に上場されているすべての日本企業の株式(内国株式)の時価総額を基にした株価指数です。

なお、同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。また、東京証券取引所は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

3 「NOMURA - BPI総合」とは・・・

国内債券市場で公募発行され一定の条件を満たす利付債の時価総額を基に野村證券株式会社が公表している指数で、野村證券株式会社の知的財産です。また野村證券株式会社は当ファンドの運用成果等に関して一切責任ありません。

4 「MSCI KOKUSAI・インデックス(当社円換算ベース)」とは・・・

MSCI Inc.が開発した日本を除く世界主要国の主要銘柄の時価総額を基にした株価指数で、同インデックス(米ドルベース)を基に、MSCI Inc.の許諾を得て、当社が独自に円換算したものです。

5 「シティ世界国債インデックス(除く日本、当社円換算ベース)」とは・・・

Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスで、同インデックス(米ドルベース)を基に、シティグループ証券株式会社の許諾を得て、当社が独自に円換算したものです。

(ロ) 運用にあたっては、基本配分比率から原則として±5%以内の乖離に抑制するように努めます。なお、基本配分比率は、市況動向等の中長期的な変化を考慮し、見直しを行う場合があります。

(ハ) 実質組入外貨建資産については、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行いません。

(ニ) 資金動向、信託財産の規模、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(2) 【投資対象】

a. 投資の対象とする資産の種類(約款第15条)

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

次に掲げる特定資産(「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。)

イ. 有価証券

ロ. デリバティブ取引に係る権利(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第21条、第22条および第23条に定めるものに限りません。)

ハ. 金銭債権

ニ. 約束手形

次に掲げる特定資産以外の資産

イ．為替手形

b．運用の指図範囲等（約款第16条第1項から第3項）

委託者は、信託金を、主として次の第1号から第4号（下記1．～4．）までに掲げる農林中金全共連アセットマネジメント株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者として締結された親投資信託（以下、各々を総称して「親投資信託」といいます。）の受益証券のほか、第5号から第26号（下記5．～26．）までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

- 1．JA日本株式マザーファンド受益証券
- 2．JA日本債券マザーファンド受益証券
- 3．JA海外株式マザーファンド受益証券
- 4．JA海外債券マザーファンド受益証券
- 5．株券または新株引受権証書
- 6．国債証券
- 7．地方債証券
- 8．特別の法律により法人の発行する債券
- 9．社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
- 10．特定目的会社に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
- 11．特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
- 12．協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
- 13．特定目的会社に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
- 14．コマーシャル・ペーパー
- 15．新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
- 16．外国または外国の者の発行する本邦通貨表示の証券または証書で第5号から第15号（上記5．～15．）の証券または証書の性質を有するもの
- 17．投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
- 18．投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
- 19．外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
- 20．オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限りません。）
- 21．預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
- 22．外国法人が発行する譲渡性預金証書
- 23．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。）
- 24．抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
- 25．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
- 26．外国の者に対する権利で第25号（上記25．）の有価証券の性質を有するもの

なお、第5号（上記5．）の証券または証書および第16号（上記16．）ならびに第21号（上記21．）の証券または証書のうち第5号（上記5．）の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第6号から第10号（上記6．～10．）までの証券および第

16号（上記16.）ならびに第21号（上記21.）の証券または証券のうち第6号から第10号（上記6.～上記10.）までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、第17号（上記17.）の証券および第18号（上記18.）の証券を以下「投資信託証券」といいます。

委託者は、信託金を、第1項（上記 ）に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。以下本条において同じ。）により運用することを指図することができます。

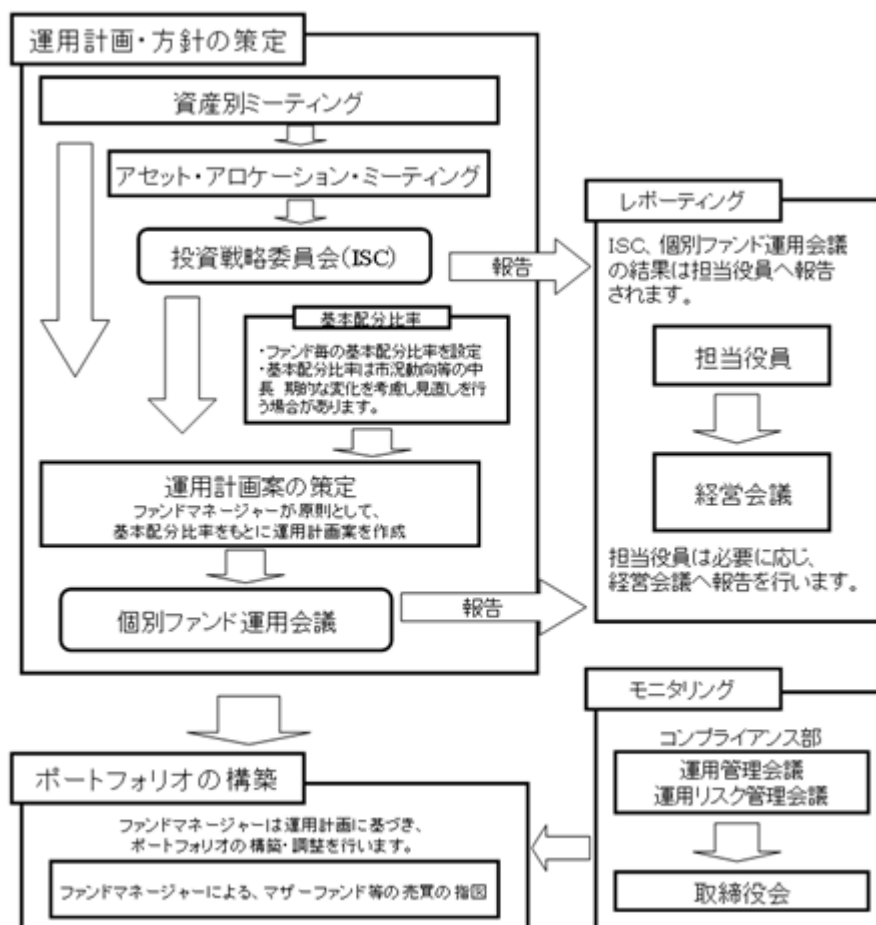
1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号（上記 5.）の権利の性質を有するもの

第1項（上記 ）の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は、信託金を第2項第1号から第6号（上記 1.～6.）までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

（3）【運用体制】

1. 運用体制

J A資産設計ファンドは、以下の投資プロセスに基づいた組織的運用を行います。



資産別ミーティング

月1回以上開催。資産ごとの市場分析・シナリオ案の作成を行います。

アセット・アロケーション・ミーティング（AAM）

月1回以上開催。資産間のリスク・リターン相対比較分析等を行い、資産配分案を作成します。

投資戦略委員会（ISC）

原則月1回以上開催し、資産配分の決定や各市場の基本シナリオの承認を行います。

個別ファンド運用会議

原則月1回以上開催し、個別ファンドの運用計画を決定（承認）します。

2. ファンドの運用に携わる人員等

部署	人員
運用部	30名程度 （うち 投資判断に携わる者 25名程度）
トレーディング部	10名程度
コンプライアンス部	10名程度

3. ファンドの関係者に対する管理体制等

委託者は、ファンドの関係法人である受託会社およびJ A海外株式マザーファンドならびにJ A海外債券マザーファンドにおいて運用の指図に関する権限を一部委託するウエリントン・マネージメントについて、その財務状況、管理体制、法令遵守体制等について定期的にモニタリングを行うとともに、必要に応じ適宜ヒアリング等を実施します。

運用体制は、本書提出日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

（4）【分配方針】

a. 収益分配方針（運用の基本方針 3. 収益分配方針）

毎決算時（毎年11月16日、休業日に該当する場合は翌営業日となります。）に、原則として以下の方針に基づき収益分配を行います。

分配対象額の範囲

諸経費等を控除後の利子・配当収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

分配対象額についての分配方針

分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

原則として、親投資信託に帰属する利子・配当収益のうち、信託財産に帰属する利子・配当収益を中心に分配を行います。

ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

留保益の運用方針

留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

b. 収益の分配方式（約款第42条）

信託財産から生じる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

1. 配当金、利子、貸付有価証券に係る品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額（以下「配当等収益」といいます。）は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の配当金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
2. 売買損益に評価損益を加減した利益金額（以下「売買益」といいます。）は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。

す。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができません。

毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

c. 収益分配金の再投資等(約款第43条)

受託者が委託者の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金(委託者の自らの募集に係る受益権に帰属する収益分配金を除きます。)が販売会社に交付されます。

販売会社は、別に定める契約(累積投資契約)に基づき、各受益者に対し遅滞なく、第1項(上記)の収益分配金の再投資に係る受益権の取得の申込に応じるものとします。当該取得の申込により、増加した受益権は、約款第9条第3項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。

委託者は、委託者の自らの募集に係る受益権に帰属する収益分配金をこの信託の受益権の取得申込金として、各受益者毎に当該収益分配金の再投資に係る受益権の取得の申込に応じたものとします。当該取得の申込により増加した受益権は、約款第9条第3項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。

約款第48条第2項により信託の一部解約が行われた場合に、当該受益権に帰属する収益分配金があるときは、第2項(上記)および第3項(上記)の規定にかかわらず、そのつど、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から受益者に支払います。

収益分配金に係る収益調整金は、原則として、各受益者毎の信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとします。

第5項(上記)および約款第46条第5項に規定する「収益調整金」は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、各受益者毎の信託時の受益権の価額と元本との差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。また、「各受益者毎の信託時の受益権の価額等」とは、原則として、各受益者毎の信託時の受益権の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。

(5)【投資制限】

a. 親投資信託への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3)投資制限)

各親投資信託(JA日本株式マザーファンド、JA日本債券マザーファンド、JA海外株式マザーファンドおよびJA海外債券マザーファンド)の受益証券への投資割合には、制限を設けません。

b. 株式への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3)投資制限)

JA資産設計ファンド(安定型、成長型)

株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の70%未満とします。

JA資産設計ファンド(積極型)

株式への実質投資割合には、制限を設けません。

c. 新株引受権証券および新株予約権証券への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3)投資制限、約款第16条)

委託者は、取得時において信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額と親投資信託の信託財産に属する当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

上記において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に、親投資信託の信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

d. 投資信託証券への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3)投資制限、約款第16条)

委託者は、信託財産に属する投資信託証券の時価総額と親投資信託の信託財産に属する当該投資信託証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

上記において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に、親投資信託の信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

e. 投資する株式等の範囲（約款第18条）

委託者が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。）に上場されている株式の発行会社の発行するもの、取引所に準じる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとし、ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。

第1項（上記）の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託者が投資することを指図することができるものとします。

f. 同一銘柄の株式等への投資制限（運用の基本方針 2. 運用方法（3）投資制限、約款第19条）

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額と親投資信託の信託財産に属する当該同一銘柄の株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額と親投資信託の信託財産に属する当該同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の時価総額と親投資信託の信託財産に属する当該同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

第1項、第2項および第3項（上記、および上記）において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に、親投資信託の信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

g. 信用取引の指図範囲（約款第20条）

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けるとの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができます。

第1項（上記）の信用取引の指図は、当該売付けに係る建玉の時価総額と親投資信託の信託財産に属する当該売付けに係る建玉の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額（信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に、親投資信託の信託財産の純資産総額に占める当該売付けに係る建玉の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。）との合計額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

信託財産の一部解約等の事由により、第2項（上記）の売付けに係る建玉の時価総額の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

h. 先物取引等の運用指図（運用の基本方針 2. 運用方法（3）投資制限、約款第21条）

委託者は、わが国の取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）ならびに有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）および外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取り扱うものとします（以下同じ。）。

委託者は、わが国の取引所における通貨に係る先物取引ならびに外国の取引所における通貨に係る先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。

委託者は、わが国の取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

i. スワップ取引の運用指図（運用の基本方針 2. 運用方法（3）投資制限、約款第22条）

委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。

スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が原則として約款第3条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額と親投資信託の信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額（以下「スワップ取引の想定元本の合計額」といいます。以下、本項において同じ。）が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少してスワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。

第3項（上記）において、親投資信託の信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に、親投資信託の信託財産の純資産総額に占める当該スワップ取引の想定元本の総額の割合を乗じて得た額をいいます。

スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利などをもとに算出した価額で評価するものとします。

委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受け入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受け入れの指図を行うものとします。

j. 金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図（運用の基本方針 2. 運用方法（3）投資制限、約款第23条）

委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。

金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として約款第3条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。

委託者は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受け入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受け入れの指図を行うものとします。

k. デリバティブ取引等に係る投資制限（運用の基本方針 2. 運用方法（3）投資制限）

デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会の規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

l. 有価証券の貸し付けの指図および範囲（約款第24条）

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の第1号（下記1.）および第2号（下記2.）の範囲内で貸し付けの指図をすることができます。

1. 株式の貸し付けは、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
2. 公社債の貸し付けは、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。

第1項第1号（上記1.）および第2号（上記2.）に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

委託者は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受け入れの指図を行うものとします。

m. 外貨建資産への投資制限（運用の基本方針 2. 運用方法（3）投資制限、約款第25条）

委託者は、信託財産に属する外貨建資産の時価総額と親投資信託の信託財産に属する外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額について、信託財産の純資産総額の100分の50以上となる投資の指図をしません。ただし、有価証券の値上がり等により、100分の50以上となった場合には、速やかにこれを調整します。

第1項（上記）において、親投資信託の信託財産に属する外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に、親投資信託の信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

n. 特別の場合の外貨建有価証券への投資制限（約款第26条）

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

o. 外国為替予約の指図および範囲（運用の基本方針 2. 運用方法（3）投資制限、約款第27条）

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。

第1項（上記）の予約取引の指図は、信託財産に係る為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産と親投資信託の信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額（信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に、親投資信託の信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。）との合計額について、為替変動リスクを回避するために行う当該予約取引の指図については、この限りではありません。

第2項（上記）の限度額を超えることとなった場合には、委託者は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

p. 一部解約の請求および有価証券売却等の指図（約款第33条）

委託者は、信託財産に属する親投資信託の受益証券に係る信託契約の一部解約の請求および信託財産に属する有価証券の売却等の指図ができます。

q. 再投資の指図（約款第34条）

委託者は、約款第33条（上記p.）の規定による一部解約の代金および売却代金、有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

r. 資金の借入れ（約款第35条）

委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含み

ます。)を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

第1項(上記)の一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間、または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないものとします。

第1項(上記)の収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

借入金の利息は信託財産中より支弁します。

s. デリバティブ取引に係る制限(金融商品取引法第42条の2第7号、金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号)

委託者は、運用財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ金融商品取引業者等が定めた合理的な方法により算出した額が当該運用財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引(新株予約権証券、新投資口予約権証券又はオプションを表示する証券若しくは証書に係る取引及び選択権付債券売買を含む。)を行い、又は継続することを内容とした運用を行わないこととなっております。

t. 同一の法人の発行する株式(投資信託及び投資法人に関する法律第9条及び同法施行規則第20条)

委託者は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式に係る議決権(株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法(平成17年法律第86号)第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含む。)の総数が、当該株式に係る議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、投資信託財産をもって取得することを受託者に指図しないこととなっております。

(参考)

「J A日本株式マザーファンドの概要」

(1) 投資方針

a. 基本方針(運用の基本方針)

この投資信託は、信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。

b. 運用方法

投資対象

わが国の金融商品取引所に上場されている銘柄および店頭登録銘柄を主要投資対象とします。

投資態度

(イ) わが国の金融商品取引所に上場されている銘柄および店頭登録銘柄を主要投資対象とし、東証株価指数(以下「TOPIX」といいます。)を上回る投資成果を目指します。

(ロ) 運用にあたりまして、ボトムアップ型の個別銘柄選択の効果によりTOPIXに対しての超過収益の獲得に努めます。

(ハ) 株式の組入比率は原則として高位に保ちます。株式以外への資産の投資は、原則として信託財産総額の50%以下とします。

- (二) 組入銘柄・業種の選定にあたりましては、特定のテーマ・業種に偏ることがないように、分散投資を行うことを心がけます。
- (ホ) 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
- (ヘ) 外貨建資産につきましては、投資を行いません。

(2) 投資対象

運用の指図範囲等(約款第10条第1項から第3項)

委託者は、信託金を、主として第1号から第21号(下記1.~21.)までの有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。ただし、私募により発行された有価証券に投資することを指図しません。

1. 株券または新株引受権証券
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人の発行する債券
5. 社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。))の新株引受権証券を除きます。)
6. 特定目的会社に係る特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
8. 協同組織金融機関に係る優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
9. 特定目的会社に係る優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
10. コマーシャル・ペーパー
11. 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。))および新株予約権証券
12. 外国または外国の者の発行する本邦通貨表示の証券または証書で、第1号から第6号(上記1.~6.)までの証券または証書および第10号(上記10.)の証券の性質を有するもの
13. 証券投資信託または外国証券投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
14. 投資証券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
15. 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
16. オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限りません。)
17. 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
18. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。)
19. 抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)
20. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
21. 外国の者に対する権利で第20号(上記20.)の有価証券の性質を有するもの

なお、第1号(上記1.)の証券または証書、第12号(上記12.)ならびに第17号(上記17.)の証券または証書のうち第1号(上記1.)の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第2号から第6号(上記2.~6.)までの証券および第12号(上記12.)ならびに第17号(上記17.)の証券または証書のうち第2号から第6号(上記2.~

6.)までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、第13号(上記13.)の証券および第14号(上記14.)の証券を以下「投資信託証券」といいます。

委託者は、信託金を、第1項(上記)に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。以下本条において同じ。)により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号(上記 5.)の権利の性質を有するもの

第1項(上記)の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は、信託金を、第2項第1号から第6号(上記 1.~6.)までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(3) 投資制限

a. 株式への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限)

株式への投資割合には、制限を設けません。

b. 新株引受権証券および新株予約権証券への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第10条第4項)

委託者は、取得時において信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

c. 投資信託証券への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第10条第5項)

委託者は、信託財産に属する投資信託証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

d. 外貨建資産への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限)

外貨建資産への投資は行いません。

e. 投資する株式等の範囲(約款第12条)

委託者が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、わが国の取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。)に上場されている株式の発行会社の発行するもの、取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとし、ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。

第1項(上記)の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託者が投資することを指図することができるものとします。

f. 同一銘柄の株式等への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第13条)

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがあ

る新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。)の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

g. 信用取引の指図範囲(約款第14条)

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができますものとしします。

第1項(上記)の信用取引の指図は、当該売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

信託財産の一部解約等の事由により、第2項(上記)の売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をしますものとしします。

h. 先物取引等の運用指図(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第15条)

委託者は、わが国の取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)ならびに有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。)および外国の取引所におけるわが国の有価証券に係るこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めて取り扱うものとしします(以下同じ。)

委託者は、わが国の取引所における金利に係る先物取引ならびにオプション取引および外国の取引所におけるわが国の金利に係るこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

i. スワップ取引の運用指図・目的・範囲(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第16条)

委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するためならびに価格変動リスクを回避するため、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。

スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が原則として約款第3条に定める信託期間を超えないものとしします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額が、信託財産の純資産総額を超えないものとしします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとしします。

スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利などをもとに算出した価額で評価するものとしします。

委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受け入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受け入れの指図を行うものとしします。

j. 金利先渡取引の運用指図(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第17条)

委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するためならびに価格変動リスクを回避するため、金利先渡取引を行うことの指図をすることができます。

金利先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として約款第3条に定める信託期間を超えないものとしします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

金利先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとしします。

委託者は、金利先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受け入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受け入れの指図を行うものとしします。

k. デリバティブ取引等に係る投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限)

デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会の規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

1. 有価証券の貸付の指図および範囲（約款第18条）

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を第1号および第2号（下記1.および下記2.）の範囲内で貸付けることの指図をすることができます。

1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。

第1項第1号および第2号（上記1.および上記2.）に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

委託者は、有価証券の貸付にあたって必要と認めたときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

本書提出日の直近日（平成26年12月30日）現在において、「J A日本株式マザーファンド」を投資対象とするファンドは以下のとおりです。

なお、「J A日本株式マザーファンド」を投資対象とする他のファンドが設定されることがあります。

ファンド名
J A日本株式ファンド
J A日本株式私募ファンド（適格機関投資家専用）
J A資産設計ファンド（安定型）
J A資産設計ファンド（成長型）
J A資産設計ファンド（積極型）
J Aグローバルバランス私募ファンド（適格機関投資家専用）

（参考）

「J A日本債券マザーファンドの概要」

（1）投資方針

a. 基本方針（運用の基本方針）

この投資信託は、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

b. 運用方法

投資対象

わが国の公社債を主要投資対象とします。

投資態度

（イ）主にわが国の公社債に投資を行うことにより、インカムゲインの確保とキャピタルゲインの獲得に努め、ノムラ・ボンド・パフォーマンス・インデックス総合（以下「NOMURA - BPI総合」といいます。）を上回る投資成果を目指します。

（ロ）運用にあたりまして、主にセクター別のアロケーションを行うこと、デュレーションの調整を行うことなどにより、NOMURA - BPI総合に対しての超過収益の獲得に努めます。なお、当ファンドが投資を行う公社債は流動性を考慮しつつ、原則としてBBBマイナス格相当以上の格付を有しているものとします。また、公社債の組入比率は原則として高位に保ちます。

（ハ）組入銘柄の選定、デュレーションの決定などはミクロ経済分析・ファンダメンタルズ分析等に基づいて行います。

（ニ）資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

（ホ）外貨建資産につきましては、投資を行いません。

（２）投資対象

運用の指図範囲等（約款第10条第1項から第3項）

委託者は、信託金を、主として第1号から第20号（下記1．～20．）までの有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

- 1．株券または新株引受権証書
- 2．国債証券
- 3．地方債証券
- 4．特別の法律により法人の発行する債券
- 5．社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
- 6．特定目的会社に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
- 7．特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
- 8．協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
- 9．特定目的会社に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
- 10．コマーシャル・ペーパー
- 11．新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
- 12．外国または外国の者の発行する本邦通貨表示の証券で、第2号から第6号（上記2．～6．）までの証券および第10号（上記10．）の証券の性質を有するもの
- 13．証券投資信託または外国証券投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
- 14．投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
- 15．外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
- 16．預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
- 17．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
- 18．抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
- 19．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
- 20．外国の者に対する権利で第19号（上記19．）の有価証券の性質を有するもの

なお、第1号（上記1．）の証券または証書、第16号（上記16．）の証書のうち第1号（上記1．）の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第2号から第6号（上記2．～6．）までの証券および第12号（上記12．）ならびに第16号（上記16．）の証券または証書のうち第2号から第6号（上記2．～6．）までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、第13号（上記13．）の証券および第14号（上記14．）の証券を以下「投資信託証券」といいます。

委託者は、信託金を、第1項（上記 ）に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。以下本条において同じ。）により運用することを指図することができます。

- 1．預金
- 2．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- 3．コール・ローン

- 4．手形割引市場において売買される手形
 - 5．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
 - 6．外国の者に対する権利で前号（上記 5．）の権利の性質を有するもの
- 第1項（上記 ）の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は、信託金を、第2項第1号から第6号（上記 1．～6．）までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

（3）投資制限

- a．株式への投資制限（運用の基本方針 2．運用方法（3）投資制限、約款第10条第4項）

委託者は、信託財産に属する株式の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- b．新株引受権証券および新株予約権証券への投資制限（運用の基本方針 2．運用方法（3）投資制限、約款第10条第5項）

委託者は、取得時において信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- c．投資信託証券への投資制限（運用の基本方針 2．運用方法（3）投資制限、約款第10条第6項）

委託者は、信託財産に属する投資信託証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- d．外貨建資産への投資制限（運用の基本方針 2．運用方法（3）投資制限）

外貨建資産への投資は行いません。
- e．投資する株式等の範囲（約款第12条）

委託者が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、わが国の取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。）に上場されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。
- f．同一銘柄の株式等への投資制限（運用の基本方針 2．運用方法（3）投資制限、約款第13条）

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- g．信用取引の指図範囲（約款第14条）

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けすることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができます。

第1項（上記 ）の信用取引の指図は、当該売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

信託財産の一部解約等の事由により、第2項（上記 ）の売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。
- h．先物取引等の運用指図（運用の基本方針 2．運用方法（3）投資制限、約款第15条）

委託者は、わが国の取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)ならびに有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。)および外国の取引所におけるわが国の有価証券に係るこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めて取り扱うものとします(以下同じ。)

委託者は、わが国の取引所における金利に係る先物取引ならびにオプション取引および外国の取引所におけるわが国の金利に係るこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

i. スワップ取引の運用指図・目的・範囲(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第16条)

委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するためならびに価格変動リスクを回避するため、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。

スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が原則として約款第3条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。

スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利などをもとに算出した価額で評価するものとします。

委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受け入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受け入れの指図を行うものとします。

j. 金利先渡取引の運用指図(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第17条)

委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するためならびに価格変動リスクを回避するため、金利先渡取引を行うことの指図をすることができます。

金利先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として約款第3条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

金利先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。

委託者は、金利先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受け入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受け入れの指図を行うものとします。

k. デリバティブ取引等に係る投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限)

デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会の規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

l. 有価証券の貸付の指図および範囲(約款第18条)

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を第1号および第2号(下記1.および下記2.)の範囲内で貸付けることの指図をすることができます。

1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。

2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。

第1項第1号および第2号(上記1.および上記2.)に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

委託者は、有価証券の貸付にあたって必要と認めたときは、担保の受入れの指図を行うものとし、

本書提出日の直近日（平成26年12月30日）現在において、「J A日本債券マザーファンド」を投資対象とするファンドは以下のとおりです。

なお、「J A日本債券マザーファンド」を投資対象とする他のファンドが設定されることがあります。

ファンド名
J A日本債券ファンド
J A日本債券私募ファンド（適格機関投資家専用）
J A資産設計ファンド（安定型）
J A資産設計ファンド（成長型）
J A資産設計ファンド（積極型）
J Aグローバルバランス私募ファンド（適格機関投資家専用）

（参考）

「J A海外株式マザーファンドの概要」

（1）投資方針

a．基本方針（運用の基本方針）

この投資信託は、信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。

b．運用方法

投資対象

日本を除く世界先進各国の株式を主要投資対象とします。

投資態度

（イ）主にモルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル・コクサイ・インデックス（以下「MSCI KOKUSAI・インデックス」といいます。）に採用されている世界先進各国（日本を除く）の株式に積極的に投資を行うことにより、当社が円ベースに換算したMSCI KOKUSAI・インデックスを上回る投資成果を目指します。

（ロ）運用にあたりましては、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーに外貨建資産の運用の指図に関する権限を委託します。

この投資信託は、原則として、ファンダメンタルズ分析と計量分析を併用した手法により銘柄選択を行い、当社が円ベースに換算したMSCI KOKUSAI・インデックスに対しての超過収益の獲得に努めます。

なお、株式の組入比率は原則として高位に保ちます。

（ハ）組入外貨建資産につきましては、原則として為替変動リスクの回避を図るための為替ヘッジは行いません。

（二）資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

（2）投資対象

運用の指図範囲等（約款第10条第1項から第3項）

委託者（約款第12条に規定する委託者から委託を受けたものを含みます。以下、約款第11条、約款第13条から約款第18条まで、約款第21条および約款第27条から約款第29条までについて同じ。）は、信託金を、主として第1号から第22号（下記1．～22．）までの有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。ただし、私募により発行された有価証券に投資することを指図しません。

1．株券または新株引受権証書

2．国債証券

3．地方債証券

4. 特別の法律により法人の発行する債券
 5. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
 6. 特定目的会社に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
 7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
 8. 協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
 9. 特定目的会社に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
 10. コマーシャル・ペーパー
 11. 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
 12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、第1号から第11号（上記1.～11.）の証券または証書の性質を有するもの
 13. 証券投資信託または外国証券投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
 14. 投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
 15. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
 16. オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。）
 17. 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
 18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
 19. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
 20. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
 21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
 22. 外国の者に対する権利で第21号（上記21.）の有価証券の性質を有するもの
- なお、第1号（上記1.）の証券または証書、第12号（上記12.）ならびに第17号（上記17.）の証券または証書のうち第1号（上記1.）の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第2号から第6号（上記2.～6.）までの証券および第12号（上記12.）ならびに第17号（上記17.）の証券または証書のうち第2号から第6号（上記2.～6.）までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、第13号（上記13.）の証券および第14号（上記14.）の証券を以下「投資信託証券」といいます。
- 委託者は、信託金を、第1項（上記 ）に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。以下本条において同じ。）により運用することを指図することができます。
1. 預金
 2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
 3. コール・ローン
 4. 手形割引市場において売買される手形
 5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
 6. 外国の者に対する権利で前号（上記 5.）の権利の性質を有するもの

第1項(上記)の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は、信託金を、第2項第1号から第6号(上記 1.~6.)までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(3) 投資制限

a. 株式への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限)

株式への投資割合には、制限を設けません。

b. 新株引受権証券および新株予約権証券への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第10条第4項)

委託者は、取得時において信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

c. 投資信託証券への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第10条第5項)

委託者は、信託財産に属する投資信託証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

d. 外貨建資産への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限)

外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

e. 投資する株式等の範囲(約款第13条)

委託者が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。)に上場されている株式の発行会社の発行するもの、取引所に準ずるものとして委託者が定める市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。

第1項(上記)の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託者が投資することを指図することができるものとします。

f. 同一銘柄の株式等への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第14条)

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。)の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

g. 信用取引の指図範囲(約款第15条)

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。

第1項(上記)の信用取引の指図は、当該売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

信託財産の一部解約等の事由により、第2項(上記)の売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

h. 先物取引等の運用指図(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第16条)

委託者は、わが国の取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）ならびに有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）および外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めて取り扱うものとします（以下同じ。）。

委託者は、わが国の取引所における通貨に係る先物取引ならびにオプション取引および外国の取引所における通貨に係るこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

委託者は、わが国の取引所における金利に係る先物取引ならびにオプション取引および外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

i．スワップ取引の運用指図・目的・範囲（運用の基本方針 2．運用方法（3）投資制限、約款第17条）

委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するためならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。

スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が原則として約款第3条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。

スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利などをもとに算出した価額で評価するものとします。

委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受け入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受け入れの指図を行うものとします。

j．金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図（運用の基本方針 2．運用方法（3）投資制限、約款第18条）

委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するためならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。

金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として約款第3条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。

委託者は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受け入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受け入れの指図を行うものとします。

k．デリバティブ取引等に係る投資制限（運用の基本方針 2．運用方法（3）投資制限）

デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会の規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

l．有価証券の貸付の指図および範囲（約款第19条）

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を第1号および第2号（下記1．および下記2．）の範囲内で貸付けることの指図をすることができます。

1．株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。

2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。

第1項第1号および第2号（上記 1. および上記 2. ）に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

委託者は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

m. 特別の場合の外貨建有価証券への投資制限（約款第20条）

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

n. 外国為替予約の指図（約款第21条）

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。

第1項（上記 ）の予約取引の指図は、信託財産に係る為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産について、為替変動リスクを回避するために行う当該予約取引の指図については、この限りではありません。

第2項（上記 ）の限度額を超えることとなった場合には、委託者は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

本書提出日の直近日（平成26年12月30日）現在において、「JA海外株式マザーファンド」を投資対象とするファンドは以下のとおりです。

なお、「JA海外株式マザーファンド」を投資対象とする他のファンドが設定されることがあります。

ファンド名
JA海外株式ファンド
JA海外株式私募ファンド（適格機関投資家専用）
JA資産設計ファンド（安定型）
JA資産設計ファンド（成長型）
JA資産設計ファンド（積極型）
JAグローバルバランス私募ファンド（適格機関投資家専用）

（参考）

「JA海外債券マザーファンドの概要」

（1）投資方針

a. 基本方針（運用の基本方針）

この投資信託は、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

b. 運用方法

投資対象

日本を除く世界各国の公社債を主要投資対象とします。

投資態度

（イ）主として日本を除く世界各国の公社債、アセットバック証券およびモーゲージ証券等に投資を行うことにより、当社が円ベースに換算したシティ世界国債インデックス（除く日本）を上回る投資成果を目指します。

（ロ）運用にあたりましては、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーに外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限を委託します。

この投資信託は、原則としてファンダメンタルズ分析と計量分析を併用した手法により、割安銘柄の発掘および投資ならびに各通貨間での為替運用を行い、当社が円ベースに換算したシティ世界国債インデックス（除く日本）に対しての超過収益の獲得に努め

ます。また、投資対象とする公社債は、ＢＢＢマイナス格相当以上の格付を有する投資適格債とし、格付の低下により投資不適格となった場合には、該当銘柄の流動性を考慮しつつ、速やかに売却するよう指図を行います。

なお、公社債等の主要投資証券の組入比率は原則として高位に保ちます。

(八) 組入外貨建資産につきましては、原則として為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは行いません。また、通貨に関して、外国為替の売買の予約取引を行うことにより、収益の追求に努めることもあります。

(二) 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(2) 投資対象

運用の指図範囲等（約款第10条第1項から第3項）

委託者（約款第12条に規定する委託者から委託を受けたものを含みます。以下、約款第11条、約款第13条から約款第18条まで、約款第21条および約款第27条から約款第29条までについて同じ。）は、信託金を、主として第1号から第18号（下記1．～18．）までの有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

- 1．株券または新株引受権証書
- 2．国債証券
- 3．地方債証券
- 4．特別の法律により法人の発行する債券
- 5．社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券、転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）を除きます。）
- 6．特定目的会社に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
- 7．特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
- 8．協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
- 9．特定目的会社に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
- 10．コマーシャル・ペーパー
- 11．外国または外国の者の発行する証券または証書で、第1号から第10号（上記1．～10．）の証券または証書の性質を有するもの
- 12．外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
- 13．預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
- 14．外国法人が発行する譲渡性預金証書
- 15．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
- 16．抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
- 17．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
- 18．外国の者に対する権利で第17号（上記17．）の有価証券の性質を有するもの

なお、第1号（上記1．）の証券または証書、第11号（上記11．）ならびに第13号（上記13．）の証券または証書のうち第1号（上記1．）の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第2号から第6号（上記2．～6．）までの証券および第11号（上記

11.) ならびに第13号(上記13.)の証券または証書のうち第2号から第6号(上記2.~6.)までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といいます。

委託者は、信託金を、第1項(上記)に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。以下本条において同じ。)により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号(上記 5.)の権利の性質を有するもの

第1項(上記)の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は、信託金を、第2項第1号から第6号(上記 1.~6.)までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(3) 投資制限

- a. 株式への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第10条第4項)

委託者は、信託財産に属する株式の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

- b. 外貨建資産への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限)

外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

- c. 投資する株式の範囲(約款第13条)

委託者が投資することを指図する株式は、取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。)に上場されている株式の発行会社の発行するものとし、ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式については、この限りではありません。

- d. 同一銘柄の株式への投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第14条)

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

- e. 信用取引の指図範囲(約款第15条)

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。

第1項(上記)の信用取引の指図は、当該売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

信託財産の一部解約等の事由により、第2項(上記)の売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

- f. 先物取引等の運用指図(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第16条)

委託者は、わが国の取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)ならびに有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。)および外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めて取り扱うものとします(以下同じ。)

委託者は、わが国の取引所における通貨に係る先物取引ならびにオプション取引および外国の取引所における通貨に係るこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

委託者は、わが国の取引所における金利に係る先物取引ならびにオプション取引および外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

g. スワップ取引の運用指図・目的・範囲(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第17条)

委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するためならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。

スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が原則として約款第3条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。

スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利などをもとに算出した価額で評価するものとします。

委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受け入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受け入れの指図を行うものとします。

h. 金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限、約款第18条)

委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するためならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。

金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として約款第3条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。

委託者は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受け入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受け入れの指図を行うものとします。

i. デリバティブ取引等に係る投資制限(運用の基本方針 2. 運用方法(3) 投資制限)

デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会の規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

j. 有価証券の貸付の指図および範囲(約款第19条)

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を第1号(下記1.)および第2号(下記2.)の範囲内で貸付けることの指図をすることができます。

1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。

2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。

第1項第1号(上記1.)および第2号(上記2.)に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

委託者は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受け入れの指図を行うものとします。

k. 特別の場合の外貨建有価証券への投資制限(約款第20条)

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

1. 外国為替予約の指図（約款第21条）

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。

第1項（上記）の予約取引の指図は、信託財産に係る為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産について、為替変動リスクを回避するために行う当該予約取引の指図については、この限りではありません。

第2項（上記）の限度額を超えることとなった場合には、委託者は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

本書提出日の直近日（平成26年12月30日）現在において、「JA海外債券マザーファンド」を投資対象とするファンドは以下のとおりです。

なお、「JA海外債券マザーファンド」を投資対象とする他のファンドが設定されることがあります。

ファンド名
JA海外債券ファンド
JA海外債券私募ファンド（適格機関投資家専用）
JA資産設計ファンド（安定型）
JA資産設計ファンド（成長型）
JA資産設計ファンド（積極型）
JAグローバルバランス私募ファンド（適格機関投資家専用）
JA海外債券ファンド（隔月分配型）

3【投資リスク】

(1) 投資リスク

当ファンドの取得申込者には、慎重に投資判断を行うために、当ファンドの投資目的、リスクおよび留意事項を認識することが求められます。当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて実質的に株式や債券など値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、**受益者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。また、投資信託は、預貯金と異なります。**

当ファンドが有する主なリスクは以下のとおりです。

株価変動リスク

一般に、株式は国内外の景気、政治、経済、社会情勢等の影響を受け、また、個別企業の業績や株式市場全体の動向を反映して価格が大きく変動します。ファンドに組入れている株式の価格が下落した場合には、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、ファンドが投資する企業が業績悪化や倒産等に陥った場合は、その企業の株式の価格が大きく下落しあるいは無価値となるため、ファンドに重大な損失が生じることがあります。

金利変動リスク

一般に、債券は市場金利の変動の影響を受け価格が変動します。市場金利が上昇した場合には、ファンドに組入れている債券の価格が下落し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。債券価格の下落幅は債券の残存期間、発行体および債券の種類等によって異なります。

為替変動リスク

一般に、外貨建資産は当該通貨の円に対する外国為替相場の変動（円高・円安）の影響を受け、その円換算した価値も変動します。外国為替相場が外貨建資産の当該通貨に対して円

高となった場合には、ファンドに組入れている外貨建資産の円換算した価値が下落し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、外国為替相場は、外国為替市場の需給、世界各国の投資環境・金利動向のほか、各国政府・中央銀行の介入・通貨政策等によって短期間に大きく変動することもありますので、当該通貨に対して極端に円高が進行する場合には、ファンドの基準価額も大きく下落することがあります。

信用リスク

一般に、債券、コマーシャル・ペーパーおよび短期金融商品等の発行体(国・企業等)の財政難や業績不振等により当該債券等の信用力(信用格付)が低下した場合や当該債券等の利息や元金の支払いが遅延・不能となる等のデフォルト(債務不履行)が生じた場合には、ファンドに組入れている債券、コマーシャル・ペーパーおよび短期金融商品等の価格が大きく下落しあるいは無価値となり、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

カントリーリスク

一般に、外国証券(債券・株式等)は当該国・地域の政治・経済・社会情勢、通貨規制、資本規制等による影響を受けます。当該国・地域の政治・経済・社会情勢の変化により金融・証券市場が混乱した場合には、ファンドに組入れている外国証券の価格が下落し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、一般に新興経済国・発展途上国のカントリーリスクは先進国と比べて高いものとなります。

流動性リスク

市場規模が小さい場合や取引量が少ない場合、有価証券等を売却する際に市場実勢から期待される価格で売却できず、不測の損失を被るリスクがあります。

また、大口の解約申込があった場合など、解約資金を手当てするためにファンドで保有する有価証券等を大量に換金しなければならないことがあります。その際、市場動向や取引量の状況によっては、当該換金にかかる取引自体が市場実勢を押し下げ、通常よりも不利な状況での取引となり、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

(2) その他の留意事項

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

収益分配金に関する留意点として、以下の事項にご注意ください。

- ・分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

- ・受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

当ファンドはベンチマークを中長期的に上回る成果を目指しますが、仮にファンドがベンチマークを上回る成果を上げていたとしてもベンチマーク自体が下落している場合には、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

実質的な外貨建資産について原則として為替ヘッジを行わないことから、基準価額は大きく変動することもあります。

当ファンドが投資対象とするマザーファンドを同じく投資対象としている他のベビーファンドにおいて、設定・解約や資産構成の変更等によりマザーファンドの組入有価証券等に売

買が生じた場合、その売買による組入有価証券等の価格の変化や売買手数料等の負担がマザーファンドの基準価額に影響を及ぼすことがあります。

これにより、マザーファンドの基準価額が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。

「為替ヘッジ」とは、「為替変動リスク」を軽減するために行う外国為替取引を意味します。

(3) 投資リスクに対する管理体制

フロントにおけるリスク管理体制

フロント部門(運用部)では、担当ファンドマネージャーが日次ベースでポジションリスク管理およびパフォーマンス管理を行い、適宜、直属管理者に報告しています。

また、決定された運用計画に基づいた運用(あるいはポジション組成)となっているか否かを日次ベースで担当ファンドマネージャーおよび直属管理者が管理を行っています。

ミドルにおけるリスク管理体制

ミドル部門(コンプライアンス部)は、ファンド運用状況の日々のモニタリングや定期的なフィードバックを行いフロント部門を牽制することにより、受益者の負託に応える適正な運用プロセスを構築しています。

具体的には、不正な取引から顧客の利益を保護し、ファンド運用の適正性を確保する観点から、ファンドが法令等のルールや組織的に決定された運用計画に従って運用されるよう、日常的な管理を行うほか、運用管理会議を開催してこれらの遵守状況を検証しています。

また、信託財産の運用者として、適切なファンドの運用責任を果たす観点から、市場リスクをはじめとする各種運用リスクとパフォーマンスの計測・管理を行うほか、運用リスク管理会議を開催してこれらの管理状況を検証しています。

[運用管理会議]

原則として月1回開催し、ファンドの法令等(法令、協会ルール、信託約款等)や運用計画の遵守状況について報告・審議を行います。その結果は取締役会に報告されます。

[運用リスク管理会議]

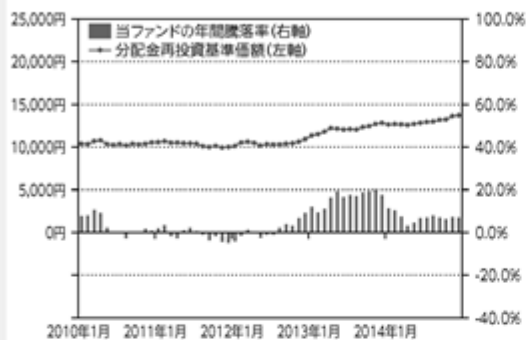
原則として月1回開催し、運用リスクや運用パフォーマンスの状況について報告・審議を行います。その結果は取締役会に報告されます。

投資リスクに対する管理体制は、本書提出日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

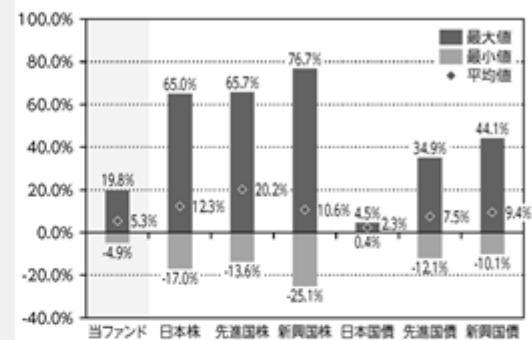
【参考情報】

当ファンドの年間騰落率及び
分配金再投資基準価額の推移

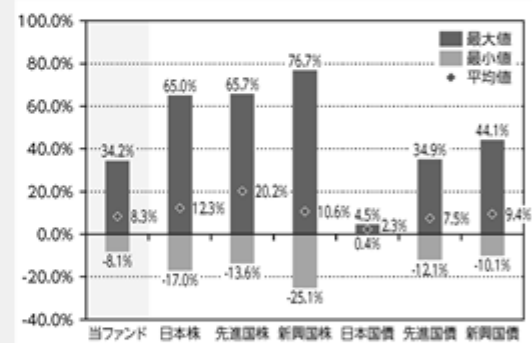
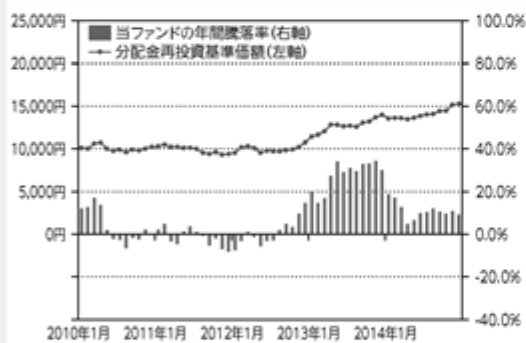
【安定型】



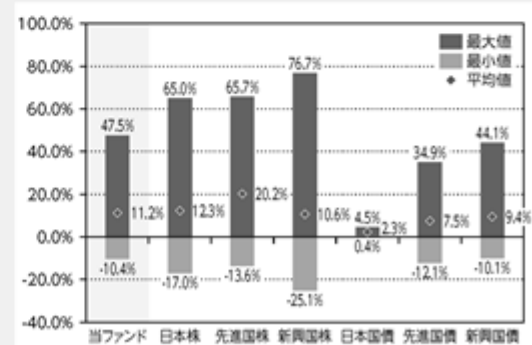
当ファンドと他の代表的な資産クラスとの
騰落率の比較



【成長型】



【積極型】



※各グラフの説明は、次ページをご参照ください。

当ファンドの年間騰落率及び 分配金再投資基準価額の推移

- *2010年1月～2014年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率及び分配金再投資基準価額の推移について表示したものです。
- *当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- *分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額が記載されていますので、実際の基準価額とは異なる場合があります。

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの 騰落率の比較

- *2010年1月～2014年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンド及び代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。
- *当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- *各資産クラスの指数
 - 日本株・・・ 東証株価指数(TOPIX) (配当込み)
 - 先進国株・・・ MSCIコクサイ・インデックス(税引き前配当込み、円ベース)
 - 新興国株・・・ MSCIエマージング・マーケット・インデックス(円換算ベース)
 - 日本国債・・・ NOMURA-BPI国債
 - 先進国債・・・ シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
 - 新興国債・・・ シティ新興国市場国債インデックス(円ベース)
- (注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

- 東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(株東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数(TOPIX)の商標又は標章に関するすべての権利は(株東京証券取引所)が有しています。なお、本商品は、(株東京証券取引所)により提供、保証又は販売されるものではなく、(株東京証券取引所)は、本件商品の発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」、「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、同指数に対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
- 「シティ世界国債インデックス」、「シティ新興国市場国債インデックス」はCitigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

< 通常の申込 > の場合

申込手数料は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に販売会社が個別に定める手数料率を乗じて得た額とします。

本書提出日現在、手数料率の上限は1.62%（税抜1.5%）となっております。

詳しくは、委託者（下記参照）または販売会社にお問い合わせください。

農林中金全連アセットマネジメント株式会社のお問い合わせ窓口
 <フリーダイヤル> 0120-439-244（営業日の午前9時から午後5時まで）
 <ホームページアドレス> <http://www.ja-asset.co.jp/>

上記申込手数料率には、申込手数料に係る消費税等に相当する金額が含まれております。スイッチングによる取得申込の場合および収益分配金を再投資する場合の申込手数料は、無手数料となります。

販売会社によっては、償還乗換え優遇措置等の適用が受けられる場合があります。

< 確定拠出年金制度に基づく申込 > の場合

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社・・・無手数料

申込手数料は、商品および投資環境の説明や情報提供、ならびに事務手続き等に係る費用の対価として、販売会社に支払われます。

(2) 【換金（解約）手数料】

換金（解約）手数料はかかりませんが、換金（解約）時に、一部解約実行の請求日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額（当該基準価額に0.20%を乗じて得た額）が差し引かれます。

「信託財産留保額」とは、信託期間満了前の解約に対し、解約申込者から徴収される一定の金額をいいます。この信託財産留保額は、解約に際し発生する売買委託手数料等の費用について、受益者間の公平を確保するため、信託財産に留保されます。

(3) 【信託報酬等】

信託報酬等の額および支弁の方法

委託者および受託者の信託報酬（消費税等に相当する金額を含みます。）の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に下記の率を乗じて得た額とします。

JA資産設計ファンド（安定型）年率 1.08%（税抜1.00%）

JA資産設計ファンド（成長型）年率1.188%（税抜1.10%）

JA資産設計ファンド（積極型）年率1.404%（税抜1.30%）

上記の信託報酬は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日（当該終了日が休業日の場合はその翌営業日とします。）および毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁するものとし、当該信託報酬の配分は以下のとおり（税抜）とします。

JA資産設計ファンド（安定型）（年率）

信託財産の純資産総額	委託者	販売会社	受託者	合計
300億円以下	0.40%	0.50%	0.10%	1.00%
300億円超500億円以下	0.42%	0.50%	0.08%	1.00%
500億円超	0.44%	0.50%	0.06%	1.00%

JA資産設計ファンド（成長型）（年率）

信託財産の純資産総額	委託者	販売会社	受託者	合計
300億円以下	0.50%	0.50%	0.10%	1.10%
300億円超500億円以下	0.52%	0.50%	0.08%	1.10%
500億円超	0.54%	0.50%	0.06%	1.10%

JA資産設計ファンド（積極型）（年率）

信託財産の純資産総額	委託者	販売会社	受託者	合計
300億円以下	0.70%	0.50%	0.10%	1.30%
300億円超500億円以下	0.72%	0.50%	0.08%	1.30%
500億円超	0.74%	0.50%	0.06%	1.30%

信託報酬の委託者への配分は、委託した資金の運用への対価です。

信託報酬の販売会社への配分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等への対価です。これらの業務に対する代行手数料は、委託者が一旦収受した後、販売会社に対して支払うものとします。また、委託者による直接募集に係る部分は販売会社配分相当額を委託者が収受します。

信託報酬の受託者への配分は、運用財産の管理、委託者からの指図の実行への対価です。

運用の指図範囲等（約款第16条）に規定する「JA海外株式マザーファンド」の運用の指図に関する権限の委託を受けたものが受ける報酬額は、上記に基づいて委託者が受ける報酬から支弁するものとし、その支弁の時期は、親投資信託の毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときから2ヵ月以内の委託者の指定する日とします。

上記に規定する報酬額は、親投資信託の計算期間を通じて毎日、親投資信託の信託財産の純資産総額に年率0.75%以内の率を乗じて得た報酬の総額に、親投資信託の受益権総口数に占める信託財産に属する親投資信託の受益権口数の持分割合を乗じて得た額とします。

運用の指図範囲等（約款第16条）に規定する「JA海外債券マザーファンド」の運用の指図に関する権限の委託を受けたものが受ける報酬額は、上記に基づいて委託者が受ける報酬から支弁するものとし、その支弁の時期は、親投資信託の毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときから2ヵ月以内の委託者の指定する日とします。

上記に規定する報酬額は、親投資信託の計算期間を通じて毎日、親投資信託の信託財産の純資産総額に年率0.50%以内の率を乗じて得た報酬の総額に、親投資信託の受益権総口数に占める信託財産に属する親投資信託の受益権口数の持分割合を乗じて得た額とします。

（４）【その他の手数料等】

信託財産の組入有価証券を売買する際に発生する売買委託手数料、当該売買委託手数料に係る消費税等に相当する金額および先物取引・オプション取引等に要する費用および外国における資産の保管時に要する費用は、信託財産中から支弁するものとします。

信託財産に関する租税および信託財産の財務諸表の監査に要する監査費用（消費税等に相当する金額を含みます。）等の信託事務の処理に要する諸費用および受託者の立て替えた立替金の利息（以下「諸経費」といいます。）は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

監査法人等に支払う監査費用は計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に一定率（年率0.00324%（税抜0.003%））を乗じて計算し、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。

委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、信託財産において一部解約金の支払資金に不足額が生じるときは資金借り入れの指図をすることができます。借入金の利息は信託財産中より支弁します。

その他の手数料等については、運用状況等により変動するものであり、監査費用を除き、事前に料率、上限等を表示することができません。

（１）から（４）の手数料等の合計額については、ファンドの保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

（５）【課税上の取扱い】

通常の申込に係る課税上の取扱いは、以下のとおりです。

なお、確定拠出年金制度に基づく申込の場合は、同制度に係る税制が適用されます。

< 個人、法人別の課税の取扱いについて >

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。

配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

所得税については、平成25年1月1日から平成49年12月31日までの間、別途、所得税の額に対し、2.1%の金額が復興特別所得税として徴収されます。

個人の受益者に対する課税

収益分配金に対する課税

公募株式投資信託の分配金（普通分配金のみ）については、税率20.315%（所得税15.315%、地方税5%）が適用されます。（原則として確定申告不要です。）

確定申告を行い、申告分離課税または総合課税を選択することもできます。

一部解約時・償還時における課税

公募株式投資信託の一部解約・償還により交付を受ける金銭等は、その全額を譲渡収入とみなして課税されます。

一部解約・償還による譲渡益（解約価額、償還価額から取得費用（申込手数料および当該手数料にかかる消費税等相当分を含みます。）を控除した差益額）は、税率20.315%（所得税15.315%、地方税5%）が適用されます。（源泉徴収ありの特定口座は、原則として確定申告不要です。）

損益通算について

公募株式投資信託や上場株式等の譲渡損失については譲渡益および公募株式投資信託の分配金や上場株式等の配当金等との損益通算が可能です。

利益 損失	株式配当金 株式投資信託分配金	株式投資信託 解約・償還益	株式譲渡益	株式投資信託譲渡益
株式投資信託 解約・償還損	○	○	○	○
株式投資信託 譲渡損	○	○	○	○
株式譲渡損	○	○	○	○

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

法人の受益者に対する課税

法人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15.315%、地方税の源泉徴収はありません。）の税率で源泉徴収され法人の受取額となります。

収益分配金のうち、所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）には課税されません。なお、税額控除が適用されます。

< 個別元本について >

追加型株式投資信託について、各受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料に係る消費税等に相当する金額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行う都度、当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については、各販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数の支店等で同一ファンドを取得する場合は、当該支店等毎に個別元本の算出が行われることがあります。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「元本払戻金（特別分配金）」については、下記の<収益分配金の課税について>を参照ください。）

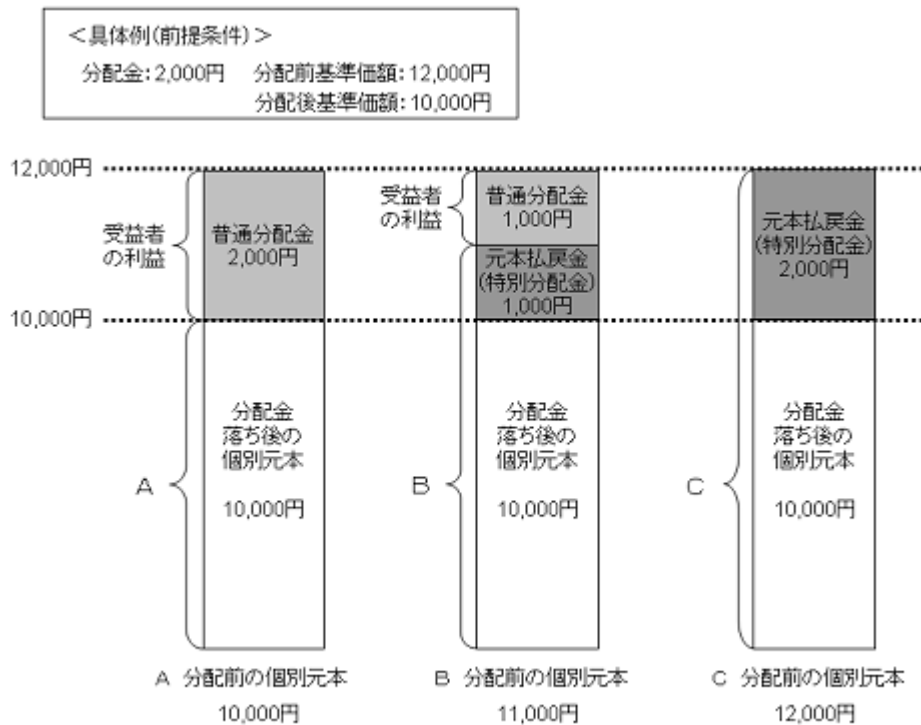
< 収益分配金の課税について >

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者の元本の払い戻しに相当する部分）の区分があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額または当該受益者の個別元本を上回る場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回る場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した残額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

＜収益分配時の個別元本のイメージ図＞



※上記はあくまでもイメージ図であり、基準価額の水準および収益分配金等を約束するものではありません。

（注意）

一部解約は、スイッチングによる解約を含みます。

当ファンドは、一定の条件に該当する場合の少額貯蓄非課税制度（マル優制度）の対象とはなっておりません。

販売会社によっては、受益権を買い取る場合があります。

法人受益者に対する課税方法、税額控除に関する事項は法人の形態により異なることもありますので、販売会社に確認のうえ処理してください。

税制が改正された場合等には、上記の内容が変更となることがあります。詳しくは、販売会社、税務署等へお問い合わせください。

課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

平成26年12月30日現在の運用状況は、以下のとおりです。

表示単位未満の端数が生じる場合には、金額は各々切り捨て、比率は各々四捨五入により記載しております。したがって、表示の合計値が個別数値と一致しない場合もあります。

なお、投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

【JA資産設計ファンド（安定型）】

(1)【投資状況】

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	435,794,999	92.91
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		33,241,110	7.09
合計(純資産総額)		469,036,109	100.00

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ. 評価額上位銘柄明細

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資信託 受益証券	JA日本債券マザーファンド	204,371,429	1.3078	267,281,632	1.3265	271,098,700	57.80
2	日本	親投資信託 受益証券	JA日本株式マザーファンド	68,548,934	1.3147	90,124,446	1.3534	92,774,127	19.78
3	日本	親投資信託 受益証券	JA海外株式マザーファンド	20,363,693	2.2417	45,649,865	2.3527	47,909,660	10.21
4	日本	親投資信託 受益証券	JA海外債券マザーファンド	7,993,779	2.9093	23,256,372	3.0039	24,012,512	5.12

ロ. 種類別投資比率

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	92.91
合計	92.91

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3)【運用実績】

【純資産の推移】

期別	純資産総額(円)		1万口当たり純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第5計算期間末 (2005年11月16日)	396,970,373	402,673,549	10,934	11,092
第6計算期間末 (2006年11月16日)	522,847,822	530,252,844	11,115	11,272
第7計算期間末 (2007年11月16日)	555,888,900	564,758,827	11,131	11,309
第8計算期間末 (2008年11月17日)	536,719,534	536,719,534	9,338	9,338
第9計算期間末 (2009年11月16日)	612,591,510	612,591,510	9,837	9,837

第10計算期間末	(2010年11月16日)	642,034,017	642,034,017	9,966	9,966
第11計算期間末	(2011年11月16日)	633,424,105	633,424,105	9,554	9,554
第12計算期間末	(2012年11月16日)	612,886,608	612,886,608	9,985	9,985
第13計算期間末	(2013年11月18日)	612,645,494	621,410,043	11,883	12,053
第14計算期間末	(2014年11月17日)	471,422,816	476,683,458	12,546	12,686
	2013年12月末日	557,549,480		12,098	
	2014年 1月末日	549,892,868		11,916	
	2月末日	556,217,057		11,962	
	3月末日	551,708,516		11,936	
	4月末日	537,665,162		11,873	
	5月末日	538,718,139		11,974	
	6月末日	544,819,193		12,105	
	7月末日	542,511,286		12,191	
	8月末日	478,539,701		12,242	
	9月末日	478,140,307		12,421	
	10月末日	480,950,627		12,462	
	11月末日	477,871,268		12,702	
	12月末日	469,036,109		12,789	

【分配の推移】

期	計算期間	1万口当たりの分配金（円）
第5計算期間末	2004年11月17日～2005年11月16日	160
第6計算期間末	2005年11月17日～2006年11月16日	160
第7計算期間末	2006年11月17日～2007年11月16日	180
第8計算期間末	2007年11月17日～2008年11月17日	0
第9計算期間末	2008年11月18日～2009年11月16日	0
第10計算期間末	2009年11月17日～2010年11月16日	0
第11計算期間末	2010年11月17日～2011年11月16日	0
第12計算期間末	2011年11月17日～2012年11月16日	0
第13計算期間末	2012年11月17日～2013年11月18日	170
第14計算期間末	2013年11月19日～2014年11月17日	140

【収益率の推移】

期	計算期間	収益率（％）
第5計算期間末	2004年11月17日～2005年11月16日	10.2
第6計算期間末	2005年11月17日～2006年11月16日	3.1
第7計算期間末	2006年11月17日～2007年11月16日	1.7
第8計算期間末	2007年11月17日～2008年11月17日	16.1
第9計算期間末	2008年11月18日～2009年11月16日	5.3
第10計算期間末	2009年11月17日～2010年11月16日	1.3
第11計算期間末	2010年11月17日～2011年11月16日	4.1

第12計算期間末	2011年11月17日～2012年11月16日	4.5
第13計算期間末	2012年11月17日～2013年11月18日	20.7
第14計算期間末	2013年11月19日～2014年11月17日	6.8

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額(分配落ち)に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額(分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。)を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

(4)【設定及び解約の実績】

期	計算期間	設定口数(口)	解約口数(口)	発行済み口数(口)
第5計算期間末	2004年11月17日～2005年11月16日	94,419,468	166,835,628	363,045,643
第6計算期間末	2005年11月17日～2006年11月16日	237,262,728	129,908,104	470,400,267
第7計算期間末	2006年11月17日～2007年11月16日	174,460,026	145,463,721	499,396,572
第8計算期間末	2007年11月17日～2008年11月17日	137,224,917	61,849,042	574,772,447
第9計算期間末	2008年11月18日～2009年11月16日	103,315,854	55,368,032	622,720,269
第10計算期間末	2009年11月17日～2010年11月16日	83,425,083	61,901,125	644,244,227
第11計算期間末	2010年11月17日～2011年11月16日	78,127,732	59,405,423	662,966,536
第12計算期間末	2011年11月17日～2012年11月16日	65,071,000	114,226,249	613,811,287
第13計算期間末	2012年11月17日～2013年11月18日	59,432,730	157,682,289	515,561,728
第14計算期間末	2013年11月19日～2014年11月17日	60,617,413	200,418,968	375,760,173

【JA資産設計ファンド（成長型）】

（１）【投資状況】

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	686,651,131	95.77
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		30,346,965	4.23
合計（純資産総額）		716,998,096	100.00

（２）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ. 評価額上位銘柄明細

順位	国／地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資信託 受益証券	JA日本株式マザーファンド	177,320,863	1.3151	233,201,579	1.3534	239,986,055	33.47
2	日本	親投資信託 受益証券	JA日本債券マザーファンド	177,093,849	1.3079	231,624,470	1.3265	234,914,990	32.76
3	日本	親投資信託 受益証券	JA海外株式マザーファンド	57,217,976	2.2420	128,287,626	2.3527	134,616,732	18.78
4	日本	親投資信託 受益証券	JA海外債券マザーファンド	25,677,737	2.9097	74,716,700	3.0039	77,133,354	10.76

ロ. 種類別投資比率

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	95.77
合計	95.77

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

【純資産の推移】

期別	純資産総額（円）		1万口当たり純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第5計算期間末 (2005年11月16日)	529,261,614	536,830,274	11,595	11,760
第6計算期間末 (2006年11月16日)	676,884,479	687,265,588	12,105	12,291
第7計算期間末 (2007年11月16日)	756,940,567	770,078,440	11,871	12,077
第8計算期間末 (2008年11月17日)	619,889,735	619,889,735	8,835	8,835
第9計算期間末 (2009年11月16日)	750,496,564	750,496,564	9,498	9,498
第10計算期間末 (2010年11月16日)	796,055,085	796,055,085	9,554	9,554
第11計算期間末 (2011年11月16日)	759,327,779	759,327,779	8,917	8,917
第12計算期間末 (2012年11月16日)	781,608,936	781,608,936	9,476	9,476
第13計算期間末 (2013年11月18日)	790,473,390	802,304,317	12,695	12,885
第14計算期間末 (2014年11月17日)	708,230,304	717,469,424	13,798	13,978

2013年12月末日	758,668,754		13,137
2014年 1月末日	726,167,542		12,746
2月末日	732,571,596		12,799
3月末日	726,276,721		12,778
4月末日	716,107,031		12,648
5月末日	723,782,428		12,808
6月末日	732,438,332		13,027
7月末日	731,097,762		13,175
8月末日	728,899,320		13,232
9月末日	743,044,856		13,553
10月末日	729,093,158		13,593
11月末日	727,894,624		14,070
12月末日	716,998,096		14,155

【分配の推移】

期	計算期間	1万口当たりの分配金（円）
第5計算期間末	2004年11月17日～2005年11月16日	170
第6計算期間末	2005年11月17日～2006年11月16日	190
第7計算期間末	2006年11月17日～2007年11月16日	210
第8計算期間末	2007年11月17日～2008年11月17日	0
第9計算期間末	2008年11月18日～2009年11月16日	0
第10計算期間末	2009年11月17日～2010年11月16日	0
第11計算期間末	2010年11月17日～2011年11月16日	0
第12計算期間末	2011年11月17日～2012年11月16日	0
第13計算期間末	2012年11月17日～2013年11月18日	190
第14計算期間末	2013年11月19日～2014年11月17日	180

【収益率の推移】

期	計算期間	収益率（％）
第5計算期間末	2004年11月17日～2005年11月16日	17.8
第6計算期間末	2005年11月17日～2006年11月16日	6.0
第7計算期間末	2006年11月17日～2007年11月16日	0.2
第8計算期間末	2007年11月17日～2008年11月17日	25.6
第9計算期間末	2008年11月18日～2009年11月16日	7.5
第10計算期間末	2009年11月17日～2010年11月16日	0.6
第11計算期間末	2010年11月17日～2011年11月16日	6.7
第12計算期間末	2011年11月17日～2012年11月16日	6.3
第13計算期間末	2012年11月17日～2013年11月18日	36.0
第14計算期間末	2013年11月19日～2014年11月17日	10.1

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

(4) 【設定及び解約の実績】

期	計算期間	設定口数(口)	解約口数(口)	発行済み口数(口)
第5計算期間末	2004年11月17日～2005年11月16日	84,565,904	104,392,581	456,472,431
第6計算期間末	2005年11月17日～2006年11月16日	240,791,941	138,083,810	559,180,562
第7計算期間末	2006年11月17日～2007年11月16日	248,940,400	170,480,017	637,640,945
第8計算期間末	2007年11月17日～2008年11月17日	154,076,291	90,061,594	701,655,642
第9計算期間末	2008年11月18日～2009年11月16日	128,464,993	39,944,901	790,175,734
第10計算期間末	2009年11月17日～2010年11月16日	100,174,870	57,098,062	833,252,542
第11計算期間末	2010年11月17日～2011年11月16日	94,131,504	75,866,300	851,517,746
第12計算期間末	2011年11月17日～2012年11月16日	74,176,597	100,828,715	824,865,628
第13計算期間末	2012年11月17日～2013年11月18日	58,367,539	260,552,793	622,680,374
第14計算期間末	2013年11月19日～2014年11月17日	55,165,812	164,561,703	513,284,483

【JA資産設計ファンド（積極型）】

（１）【投資状況】

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	759,863,607	94.77
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		41,899,898	5.23
合計(純資産総額)		801,763,505	100.00

（２）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ. 評価額上位銘柄明細

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資信託 受益証券	JA日本株式マザーファンド	263,014,765	1.3148	345,819,555	1.3534	355,964,182	44.40
2	日本	親投資信託 受益証券	JA海外株式マザーファンド	86,758,967	2.2414	194,468,683	2.3527	204,117,821	25.46
3	日本	親投資信託 受益証券	JA日本債券マザーファンド	89,516,403	1.3078	117,070,827	1.3265	118,743,508	14.81
4	日本	親投資信託 受益証券	JA海外債券マザーファンド	26,977,628	2.9090	78,479,824	3.0039	81,038,096	10.11

ロ. 種類別投資比率

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	94.77
合計	94.77

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

【純資産の推移】

期別	純資産総額（円）		1万口当たり純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第5計算期間末 (2005年11月16日)	519,924,109	527,456,907	11,899	12,072
第6計算期間末 (2006年11月16日)	662,234,480	671,797,860	12,697	12,881
第7計算期間末 (2007年11月16日)	705,421,865	718,211,452	12,313	12,536
第8計算期間末 (2008年11月17日)	543,687,366	543,687,366	8,007	8,007
第9計算期間末 (2009年11月16日)	672,736,463	672,736,463	8,750	8,750
第10計算期間末 (2010年11月16日)	695,577,839	695,577,839	8,772	8,772
第11計算期間末 (2011年11月16日)	666,542,842	666,542,842	8,044	8,044
第12計算期間末 (2012年11月16日)	731,945,526	731,945,526	8,657	8,657
第13計算期間末 (2013年11月18日)	887,558,741	901,502,171	12,731	12,931

第14計算期間末	(2014年11月17日)	781,591,252	793,077,497	14,290	14,500
	2013年12月末日	840,892,630		13,313	
	2014年 1月末日	780,270,156		12,765	
	2月末日	787,423,186		12,870	
	3月末日	785,060,742		12,850	
	4月末日	772,232,825		12,672	
	5月末日	781,667,336		12,891	
	6月末日	792,949,353		13,190	
	7月末日	793,726,817		13,393	
	8月末日	801,112,308		13,469	
	9月末日	805,096,075		13,917	
	10月末日	788,265,954		13,961	
	11月末日	801,476,353		14,639	
	12月末日	801,763,505		14,706	

【分配の推移】

期	計算期間	1万口当たりの分配金（円）
第5計算期間末	2004年11月17日～2005年11月16日	180
第6計算期間末	2005年11月17日～2006年11月16日	190
第7計算期間末	2006年11月17日～2007年11月16日	230
第8計算期間末	2007年11月17日～2008年11月17日	0
第9計算期間末	2008年11月18日～2009年11月16日	0
第10計算期間末	2009年11月17日～2010年11月16日	0
第11計算期間末	2010年11月17日～2011年11月16日	0
第12計算期間末	2011年11月17日～2012年11月16日	0
第13計算期間末	2012年11月17日～2013年11月18日	200
第14計算期間末	2013年11月19日～2014年11月17日	210

【収益率の推移】

期	計算期間	収益率（％）
第5計算期間末	2004年11月17日～2005年11月16日	24.5
第6計算期間末	2005年11月17日～2006年11月16日	8.3
第7計算期間末	2006年11月17日～2007年11月16日	1.3
第8計算期間末	2007年11月17日～2008年11月17日	35.0
第9計算期間末	2008年11月18日～2009年11月16日	9.3
第10計算期間末	2009年11月17日～2010年11月16日	0.3
第11計算期間末	2010年11月17日～2011年11月16日	8.3
第12計算期間末	2011年11月17日～2012年11月16日	7.6
第13計算期間末	2012年11月17日～2013年11月18日	49.4
第14計算期間末	2013年11月19日～2014年11月17日	13.9

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額(分配落ち)に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額(分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。)を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

(4)【設定及び解約の実績】

期	計算期間	設定口数(口)	解約口数(口)	発行済み口数(口)
第5計算期間末	2004年11月17日～2005年11月16日	102,522,020	208,778,511	436,935,352
第6計算期間末	2005年11月17日～2006年11月16日	157,202,510	72,578,483	521,559,379
第7計算期間末	2006年11月17日～2007年11月16日	193,950,332	142,600,780	572,908,931
第8計算期間末	2007年11月17日～2008年11月17日	171,514,467	65,393,537	679,029,861
第9計算期間末	2008年11月18日～2009年11月16日	129,369,362	39,544,227	768,854,996
第10計算期間末	2009年11月17日～2010年11月16日	100,729,146	76,610,148	792,973,994
第11計算期間末	2010年11月17日～2011年11月16日	89,555,835	53,911,831	828,617,998
第12計算期間末	2011年11月17日～2012年11月16日	79,368,846	62,535,135	845,451,709
第13計算期間末	2012年11月17日～2013年11月18日	62,096,723	210,376,893	697,171,539
第14計算期間末	2013年11月19日～2014年11月17日	57,580,274	207,787,726	546,964,087

(参考)

J A 日本株式マザーファンド

投資状況

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
株式	日本	23,144,610,920	99.74
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		61,079,279	0.26
合計(純資産総額)		23,205,690,199	100.00

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ. 評価額上位銘柄明細

順位	国/地域	種類	銘柄名	業種	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	241,200	6,215.54	1,499,188,248	7,558.00	1,822,989,600	7.86
2	日本	株式	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	1,616,600	612.06	989,456,196	664.50	1,074,230,700	4.63
3	日本	株式	ソフトバンク	情報・通信業	106,500	7,086.97	754,762,305	7,210.00	767,865,000	3.31
4	日本	株式	三菱商事	卸売業	339,500	2,245.22	762,252,190	2,217.00	752,671,500	3.24
5	日本	株式	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	148,600	4,186.58	622,125,788	4,375.00	650,125,000	2.80
6	日本	株式	日立製作所	電気機器	607,000	779.80	473,338,600	900.70	546,724,900	2.36
7	日本	株式	日本電産	電気機器	68,200	6,608.50	450,699,700	7,851.00	535,438,200	2.31
8	日本	株式	オリックス	その他金融業	336,600	1,573.74	529,720,884	1,523.50	512,810,100	2.21
9	日本	株式	東芝	電気機器	930,000	478.24	444,763,200	512.40	476,532,000	2.05
10	日本	株式	三井不動産	不動産業	134,000	3,268.52	437,981,680	3,255.00	436,170,000	1.88
11	日本	株式	アステラス製薬	医薬品	244,100	1,499.77	366,093,857	1,686.50	411,674,650	1.77
12	日本	株式	村田製作所	電気機器	28,600	10,426.79	298,206,194	13,250.00	378,950,000	1.63

13	日本	株式	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1,770,100	196.51	347,842,351	202.50	358,445,250	1.54
14	日本	株式	ブリヂストン	ゴム製品	85,300	4,233.57	361,123,521	4,199.00	358,174,700	1.54
15	日本	株式	花王	化学	75,100	4,447.68	334,020,768	4,757.00	357,250,700	1.54
16	日本	株式	三菱電機	電気機器	232,000	1,352.12	313,691,840	1,446.00	335,472,000	1.45
17	日本	株式	ソニー	電気機器	132,300	2,155.79	285,211,017	2,472.50	327,111,750	1.41
18	日本	株式	野村ホールディングス	証券・商品先物取引業	466,100	642.00	299,236,200	690.20	321,702,220	1.39
19	日本	株式	クボタ	機械	173,000	1,631.13	282,185,490	1,761.00	304,653,000	1.31
20	日本	株式	日本特殊陶業	ガラス・土石製品	82,100	3,160.92	259,511,532	3,675.00	301,717,500	1.30
21	日本	株式	大成建設	建設業	435,000	617.76	268,725,600	687.00	298,845,000	1.29
22	日本	株式	三菱地所	不動産業	116,000	2,838.96	329,319,360	2,555.50	296,438,000	1.28
23	日本	株式	デンソー	輸送用機器	52,000	5,287.55	274,952,600	5,652.00	293,904,000	1.27
24	日本	株式	清水建設	建設業	349,000	851.86	297,299,140	823.00	287,227,000	1.24
25	日本	株式	味の素	食料品	126,000	1,862.19	234,635,940	2,243.00	282,618,000	1.22
26	日本	株式	日東電工	化学	40,300	5,142.49	207,242,347	6,773.00	272,951,900	1.18
27	日本	株式	住友化学	化学	538,000	415.14	223,345,320	479.00	257,702,000	1.11
28	日本	株式	総合警備保障	サービス業	88,000	2,575.34	226,629,920	2,926.00	257,488,000	1.11
29	日本	株式	K D D I	情報・通信業	33,700	6,264.69	211,120,053	7,637.00	257,366,900	1.11
30	日本	株式	S M C	機械	8,000	29,814.06	238,512,512	31,970.00	255,760,000	1.10

□.種類別及び業種別の投資比率

種類	国内 / 外国	業種	投資比率 (%)
株式	国内	建設業	2.53
		食料品	4.12
		繊維製品	0.86
		化学	6.09
		医薬品	4.41
		ゴム製品	1.54
		ガラス・土石製品	1.63
		鉄鋼	0.63
		非鉄金属	2.93
		機械	5.18
		電気機器	14.03
		輸送用機器	11.47
		精密機器	0.43
		その他製品	2.05
		電気・ガス業	2.07
		陸運業	3.78
		海運業	0.28
		空運業	1.21
		情報・通信業	6.72
卸売業	4.13		
小売業	4.11		

	銀行業	8.98
	証券、商品先物取引業	1.39
	保険業	1.44
	その他金融業	2.21
	不動産業	3.16
	サービス業	2.39
合計		99.74

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

JA日本債券マザーファンド

投資状況

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
国債証券	日本	38,125,619,500	68.97
地方債証券	日本	5,903,641,132	10.68
特殊債券	日本	5,237,278,270	9.47
社債券	日本	5,731,271,000	10.37
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		283,677,163	0.51
合計(純資産総額)		55,281,487,065	100.00

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ. 評価額上位銘柄明細

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
1	日本	国債証券	第113回利付 国債(5年)	3,300,000,000	100.72	3,323,760,000	101.07	3,335,310,000	0.3	2018/6/20	6.03
2	日本	国債証券	第117回利付 国債(5年)	2,600,000,000	100.46	2,612,180,000	100.84	2,621,840,000	0.2	2019/3/20	4.74
3	日本	国債証券	第348回利付 国債(2年)	2,500,000,000	100.22	2,505,575,000	100.25	2,506,250,000	0.1	2017/1/15	4.53
4	日本	国債証券	第118回利付 国債(5年)	2,300,000,000	100.51	2,311,753,000	100.84	2,319,435,000	0.2	2019/6/20	4.20
5	日本	特殊債券	第193回政府 保証預金保険機 構債	2,100,000,000	100.32	2,106,882,000	100.34	2,107,140,000	0.2	2017/10/20	3.81
6	日本	国債証券	第148回利付 国債(20年)	1,600,000,000	101.77	1,628,432,000	108.57	1,737,248,000	1.5	2034/3/20	3.14
7	日本	国債証券	第115回利付 国債(5年)	1,600,000,000	100.31	1,604,976,000	100.77	1,612,448,000	0.2	2018/9/20	2.92

8	日本	国債証券	第122回利付 国債（5年）	1,600,000,000	100.29	1,604,672,000	100.37	1,605,936,000	0.1	2019/12/20	2.91
9	日本	国債証券	第320回利付 国債（10年）	1,400,000,000	104.96	1,469,566,000	106.28	1,488,032,000	1	2021/12/20	2.69
10	日本	国債証券	第116回利付 国債（5年）	1,400,000,000	100.28	1,403,990,000	100.81	1,411,340,000	0.2	2018/12/20	2.55
11	日本	国債証券	第72回利付国 債（20年）	1,200,000,000	115.37	1,384,504,000	117.19	1,406,328,000	2.1	2024/9/20	2.54
12	日本	国債証券	第334回利付 国債（10年）	1,200,000,000	100.76	1,209,228,000	102.94	1,235,352,000	0.6	2024/6/20	2.23
13	日本	地方債証券	第8回東京都公 募公債	1,000,000,000	118.04	1,180,400,000	120.91	1,209,150,000	2.36	2026/3/19	2.19
14	日本	国債証券	第103回利付 国債（20年）	900,000,000	118.64	1,067,787,000	122.76	1,104,885,000	2.3	2028/6/20	2.00
15	日本	国債証券	第107回利付 国債（20年）	900,000,000	115.83	1,042,542,000	120.24	1,082,178,000	2.1	2028/12/20	1.96
16	日本	国債証券	第315回利付 国債（10年）	1,000,000,000	106.35	1,063,500,000	107.36	1,073,610,000	1.2	2021/6/20	1.94
17	日本	国債証券	第321回利付 国債（10年）	1,000,000,000	106.37	1,063,740,000	106.31	1,063,190,000	1	2022/3/20	1.92
18	日本	国債証券	第330回利付 国債（10年）	1,000,000,000	103.01	1,030,190,000	104.95	1,049,530,000	0.8	2023/9/20	1.90
19	日本	社債券	第134回株式 会社三菱東京U FJ銀行無担保 社債（特定社債 間限）	1,000,000,000	100.70	1,007,010,000	100.47	1,004,700,000	0.41	2017/4/20	1.82
20	日本	国債証券	第119回利付 国債（5年）	1,000,000,000	99.98	999,880,000	100.40	1,004,000,000	0.1	2019/6/20	1.82
21	日本	特殊債券	第171号商工 債（3年）	1,000,000,000	100.16	1,001,660,000	99.99	999,910,000	0.2	2017/4/27	1.81
22	日本	特殊債券	第158号商工 債（3年）	1,000,000,000	100.00	1,000,080,000	99.93	999,390,000	0.15	2016/3/25	1.81
23	日本	社債券	第29回株式 会社みずほコー ポレート銀行無担 保社債	900,000,000	100.71	906,462,000	100.60	905,481,000	0.46	2017/4/21	1.64
24	日本	社債券	第4回日本高速 道路保有・債務 返済機構債券	600,000,000	114.51	687,114,000	123.70	742,230,000	2.59	2035/12/20	1.34
25	日本	国債証券	第5回利付国債 （40年）	600,000,000	105.67	634,050,000	119.34	716,082,000	2	2052/3/20	1.30
26	日本	国債証券	第124回利付 国債（20年）	600,000,000	113.38	680,322,000	118.74	712,446,000	2	2030/12/20	1.29
27	日本	国債証券	第73回利付国 債（20年）	600,000,000	114.97	689,820,000	116.48	698,916,000	2	2024/12/20	1.26
28	日本	地方債証券	平成22年度第 1回福岡県公募 公債（20年）	600,000,000	109.00	654,054,000	114.19	685,158,000	1.77	2030/8/19	1.24
29	日本	地方債証券	第21回地方公 共団体金融機構 債券（20年）	600,000,000	107.16	642,978,000	113.24	679,446,000	1.812	2032/4/28	1.23
30	日本	社債券	第39回中日本 高速道路株式 会社社債	600,000,000	104.32	625,956,000	105.82	634,920,000	1.057	2021/12/20	1.15

□.種類別投資比率

種類	投資比率（%）
国債証券	68.97
地方債証券	10.68

特殊債券	9.47
社債券	10.37
合計	99.49

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

J A 海外株式マザーファンド

投資状況

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
株式	アメリカ	16,898,099,801	59.26
	カナダ	919,407,282	3.22
	ドイツ	1,257,039,752	4.41
	イタリア	82,490,150	0.29
	フランス	1,002,405,545	3.52
	オランダ	418,106,231	1.47
	オーストリア	45,092,404	0.16
	アイルランド	774,052,579	2.71
	イギリス	3,038,136,838	10.65
	スイス	1,026,437,676	3.60
	スウェーデン	271,785,120	0.95
	ノルウェー	81,850,834	0.29
	デンマーク	189,787,697	0.67
	オーストラリア	302,835,352	1.06
	バミューダ	95,537,665	0.34
	ニュージーランド	100,355,747	0.35
	香港	624,020,821	2.19
	シンガポール	188,484,527	0.66
イスラエル	397,380,055	1.39	
	小計	27,713,306,076	97.18
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		803,795,528	2.82
合計(純資産総額)		28,517,101,604	100.00

その他の資産の投資状況

資産の種類	建別	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
為替予約取引	買建		43,084,537	0.15
	売建		260,197,884	0.91

(注)為替予約取引は、わが国における対顧客先物相場の仲値で評価しています。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ. 評価額上位銘柄明細

順位	国/地域	種類	銘柄名	業種	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	アメリカ	株式	BRISTOL-MYERS SQUIBB CO	医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	115,800	6,021.47	697,286,516	7,210.09	834,929,059	2.93
2	アメリカ	株式	PNC FINANCIAL SERVICES GROUP	銀行	72,614	10,244.74	743,912,029	11,171.36	811,197,752	2.84
3	アメリカ	株式	APPLE INC	テクノロ ジー・ ハード ウェアお よび機器	57,800	12,135.76	701,447,419	13,731.85	793,700,959	2.78
4	アメリカ	株式	CVS HEALTH CORP	食品・生 活必需品 小売り	64,300	9,793.48	629,720,893	11,759.65	756,145,656	2.65
5	アメリカ	株式	MICROSOFT CORP	ソフト ウェア・ サービス	129,800	5,596.99	726,490,397	5,720.09	742,468,656	2.60
6	イギリス	株式	ASTRAZENECA PLC	医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	85,959	8,502.94	730,904,769	8,522.95	732,624,869	2.57
7	アメリカ	株式	DIRECTV	メディア	68,100	10,480.61	713,730,018	10,455.30	712,006,032	2.50
8	イギリス	株式	IMPERIAL TOBACCO GROUP PLC	食品・飲 料・タバ コ	127,436	5,157.57	657,260,839	5,332.22	679,517,463	2.38
9	アメリカ	株式	PINNACLE WEST CAPITAL	公益事業	79,300	6,841.21	542,508,152	8,514.44	675,195,608	2.37
10	アメリカ	株式	MONSTER BEVERAGE CORP	食品・飲 料・タバ コ	48,900	10,849.50	530,540,550	13,407.57	655,630,222	2.30
11	フランス	株式	CAP GEMINI SA	ソフト ウェア・ サービス	73,205	8,506.68	622,732,071	8,833.43	646,651,331	2.27
12	アメリカ	株式	LOCKHEED MARTIN CORP	資本財	27,400	21,168.58	580,019,092	23,584.40	646,212,615	2.27
13	アメリカ	株式	RAYTHEON COMPANY	資本財	47,900	12,237.03	586,153,762	13,285.81	636,390,563	2.23
14	アメリカ	株式	MERCK & CO. INC.	医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	91,000	7,142.68	649,984,381	6,959.35	633,300,987	2.22
15	イギリス	株式	MARKS & SPENCER GROUP PLC	小売	670,813	789.26	529,450,296	903.72	606,233,134	2.13
16	アメリカ	株式	ROSS STORES INC	小売	52,400	9,035.22	473,445,659	11,343.75	594,412,762	2.08

17	アメリカ	株式	WALGREEN CO	食品・生活必需品 小売り	63,400	7,648.85	484,937,709	9,257.03	586,895,987	2.06
18	アメリカ	株式	INGREDION INC	食品・飲料・タバコ	55,200	9,328.15	514,914,376	10,408.28	574,537,442	2.01
19	アメリカ	株式	ELI LILLY & CO	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	65,114	7,858.65	511,708,429	8,450.55	550,249,438	1.93
20	ドイツ	株式	PROSIEBEN SAT.1 MEDIA AG-REG	メディア	103,706	4,564.10	473,324,688	5,105.45	529,466,171	1.86
21	ドイツ	株式	DEUTSCHE ANNINGTON IMMOBILIEN	不動産	123,811	3,346.06	414,280,144	4,101.65	507,829,958	1.78
22	アイルランド	株式	XL GROUP PLC	保険	120,400	4,043.24	486,806,939	4,158.97	500,740,590	1.76
23	アメリカ	株式	AUTOZONE INC	小売	6,400	63,960.21	409,345,367	75,282.26	481,806,525	1.69
24	アメリカ	株式	UNITEDHEALTH GROUP INC	ヘルスケア機器・サービス	36,293	10,370.91	376,391,672	12,335.88	447,706,147	1.57
25	アメリカ	株式	AETNA INC	ヘルスケア機器・サービス	39,700	9,899.56	393,012,770	10,819.36	429,528,691	1.51
26	スイス	株式	ZURICH FINANCIAL SERVICES AG	保険	11,108	34,116.18	378,962,528	38,330.46	425,774,750	1.49
27	アメリカ	株式	PUBLIC SERVICE ENTERPRISE GP	公益事業	70,100	4,451.91	312,078,996	5,247.54	367,852,659	1.29
28	アメリカ	株式	TJX COMPANIES INC	小売	44,600	7,184.78	320,441,188	8,242.00	367,593,356	1.29
29	アメリカ	株式	CITIGROUP INC	各種金融	55,500	6,391.23	354,713,275	6,597.70	366,172,433	1.28
30	アメリカ	株式	MOOG INC-CLASS A	資本財	39,400	8,326.26	328,054,646	9,031.60	355,845,276	1.25

ロ. 種類別及び業種別の投資比率

種類	国内 / 外国	業種	投資比率 (%)
株式	外国	エネルギー	5.97
		素材	2.70
		資本財	7.54
		商業・専門サービス	0.25
		運輸	1.11
		消費者サービス	0.69
		メディア	5.44
		小売	7.92
		食品・生活必需品小売り	5.68
		食品・飲料・タバコ	8.92
		家庭用品・パーソナル用品	0.94
		ヘルスケア機器・サービス	3.08
		医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	12.44
		銀行	5.88
		各種金融	1.96
		保険	5.39
不動産	4.11		

	ソフトウェア・サービス	6.53
	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	3.95
	電気通信サービス	1.87
	公益事業	4.81
合計		97.18

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

資産の種類	通貨	買建 / 売建	数量	帳簿価額 (円)	評価額 (円)	投資比率 (%)
為替予約取引	米ドル	買建	357,429.38	43,199,425	43,084,537	0.15
	米ドル	売建	1,800,000.00	216,882,000	216,972,000	0.76
	オーストラリアドル	売建	440,990.46	43,199,425	43,225,884	0.15

(注)為替予約取引は、わが国における対顧客先物相場の仲値で評価しています。

J A 海外債券マザーファンド

投資状況

資産の種類	国 / 地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
国債証券	アメリカ	6,670,367,805	31.57
	カナダ	487,573,284	2.31
	メキシコ	219,308,714	1.04
	ドイツ	1,426,964,427	6.75
	イタリア	2,050,722,122	9.71
	フランス	2,029,753,417	9.61
	オランダ	477,006,530	2.26
	スペイン	1,085,808,975	5.14
	ベルギー	644,974,895	3.05
	オーストリア	314,651,897	1.49
	フィンランド	161,114,136	0.76
	アイルランド	177,950,923	0.84
	イギリス	1,971,173,050	9.33
	スイス	50,405,224	0.24
	スウェーデン	106,601,840	0.50
	ノルウェー	67,053,869	0.32
	デンマーク	171,649,766	0.81
	ポーランド	122,376,528	0.58
	オーストラリア	397,294,377	1.88
	シンガポール	257,825,705	1.22
南アフリカ	82,398,593	0.39	

	小計	18,972,976,077	89.81
特殊債券	フランス	58,727,370	0.28
	国際機関	77,710,748	0.37
	小計	136,438,118	0.65
社債券	アメリカ	984,473,068	4.66
	カナダ	116,801,075	0.55
	オランダ	46,972,584	0.22
	イギリス	111,770,494	0.53
	小計	1,260,017,221	5.96
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		756,192,826	3.58
合計(純資産総額)		21,125,624,242	100.00

その他の資産の投資状況

資産の種類	建別	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
為替予約取引	買建		4,638,515,702	21.96
	売建		4,635,802,312	21.94

(注)為替予約取引は、わが国における対顧客先物相場の仲値で評価しています。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ. 評価額上位銘柄明細

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
1	アメリカ	国債証券	T-NOTE 0.875 161231	15,180,000	12,121.57	1,840,055,450	12,090.78	1,835,381,659	0.875	2016/12/31	8.69
2	アメリカ	国債証券	T-NOTE 1.0 190930	13,795,000	11,766.15	1,623,141,718	11,691.46	1,612,837,785	1	2019/9/30	7.63
3	アメリカ	国債証券	T-NOTE 2.5 240515	7,565,000	12,416.99	939,346,034	12,371.44	935,899,720	2.5	2024/5/15	4.43
4	アメリカ	国債証券	T-NOTE 1.5 180831	6,400,000	12,245.24	783,695,550	12,089.84	773,750,179	1.5	2018/8/31	3.66
5	イタリア	国債証券	BTPS 2.5 190501	3,455,000	15,590.39	538,647,996	15,609.44	539,306,180	2.5	2019/5/1	2.55
6	ドイツ	国債証券	OBL 0.5 190412	2,770,000	14,936.80	413,749,551	14,983.71	415,048,907	0.5	2019/4/12	1.96
7	アメリカ	国債証券	T-BOND 3.625 440215	2,875,000	13,771.58	395,932,960	14,120.36	405,960,361	3.625	2044/2/15	1.92
8	フランス	国債証券	OAT 1.0 190525	2,600,000	15,183.00	394,758,244	15,225.50	395,863,156	1	2019/5/25	1.87
9	イギリス	国債証券	GILT 1.75 190722	1,925,000	19,082.40	367,336,301	19,149.44	368,626,733	1.75	2019/7/22	1.74
10	フランス	国債証券	OAT 2.25 240525	2,175,000	16,282.79	354,150,728	16,650.60	362,150,713	2.25	2024/5/25	1.71
11	ドイツ	国債証券	BUND 1.5 240515	2,235,000	15,645.18	349,669,849	15,986.04	357,288,185	1.5	2024/5/15	1.69
12	アメリカ	国債証券	T-BOND 3.625 430815	2,375,000	13,857.30	329,110,880	14,110.94	335,134,887	3.625	2043/8/15	1.59
13	イタリア	国債証券	BTPS 3.5 300301	1,875,000	15,533.24	291,248,250	16,279.12	305,233,661	3.5	2030/3/1	1.44
14	イギリス	国債証券	GILT 3.25 440122	1,350,000	20,533.27	277,199,220	21,293.36	287,460,434	3.25	2044/1/22	1.36

15	フランス	国債証券	OAT 5.0 161025	1,740,000	16,144.31	280,911,025	15,994.84	278,310,233	5	2016/10/25	1.32
16	イギリス	国債証券	GILT 2.75 240907	1,345,000	19,937.59	268,160,593	20,251.98	272,389,163	2.75	2024/9/7	1.29
17	アメリカ	国債証券	T-BOND 4.5 360215	1,690,000	15,553.83	262,859,872	16,025.61	270,832,902	4.5	2036/2/15	1.28
18	イタリア	国債証券	BTPS 2.75 161115	1,765,000	15,298.77	270,023,397	15,250.56	269,172,461	2.75	2016/11/15	1.27
19	イギリス	国債証券	GILT 4.25 360307	1,100,000	23,771.51	261,486,643	24,283.97	267,123,727	4.25	2036/3/7	1.26
20	イギリス	国債証券	GILT 2.0 200722	1,260,000	19,160.40	241,421,046	19,296.25	243,132,866	2	2020/7/22	1.15
21	フランス	国債証券	OAT 0.5 191125	1,560,000	14,807.33	230,994,357	14,888.46	232,260,038	0.5	2019/11/25	1.10
22	スペイン	国債証券	SPA GOVT 5.5 210430	1,235,000	18,601.78	229,732,077	18,559.29	229,207,244	5.5	2021/4/30	1.08
23	オランダ	国債証券	NETHER 1.25 190115	1,450,000	15,350.72	222,585,489	15,378.64	222,990,284	1.25	2019/1/15	1.06
24	アメリカ	国債証券	T-NOTE 1.625 190331	1,820,000	12,261.14	223,152,757	12,075.71	219,778,095	1.625	2019/3/31	1.04
25	ドイツ	国債証券	BUND 4.75 340704	915,000	22,942.30	209,922,066	23,787.83	217,658,719	4.75	2034/7/4	1.03
26	ドイツ	国債証券	BUND 3.5 190704	1,185,000	17,035.27	201,868,009	16,980.32	201,216,822	3.5	2019/7/4	0.95
27	アメリカ	国債証券	T-NOTE 0.75 171231	1,585,000	11,938.21	189,220,742	11,902.42	188,653,498	0.75	2017/12/31	0.89
28	イタリア	国債証券	BTPS 3.75 240901	1,085,000	16,397.82	177,916,412	16,985.45	184,292,148	3.75	2024/9/1	0.87
29	シンガ ポール	国債証券	SINGAPORE 2.375 170401	1,885,000	9,521.98	179,489,413	9,444.96	178,037,553	2.375	2017/4/1	0.84
30	スペイン	国債証券	SPA GOVT 4.5 180131	1,080,000	16,482.08	178,006,534	16,374.37	176,843,300	4.5	2018/1/31	0.84

□.種類別投資比率

種類	投資比率（％）
国債証券	89.81
特殊債券	0.65
社債券	5.96
合計	96.42

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

資産の種類	通貨	買建 / 売建	数量	帳簿価額 (円)	評価額 (円)	投資比率 (％)
為替予約取引	米ドル	買建	20,489,541.92	2,412,182,420	2,469,399,572	11.69
	カナダドル	買建	1,685,000.00	176,134,208	174,498,600	0.83
	メキシコペソ	買建	7,154,000.00	58,773,534	58,376,640	0.28
	ユーロ	買建	4,154,000.00	612,583,274	608,678,670	2.88
	英ポンド	買建	4,187,000.00	780,549,226	782,801,520	3.71
	スイスフラン	買建	1,118,000.00	136,648,117	136,183,580	0.64
	スウェーデンクローネ	買建	2,318,000.00	36,731,775	35,720,380	0.17

ノルウェークローネ	買建	1,850,000.00	31,308,866	29,877,500	0.14
ポーランドズロチ	買建	56,000.00	1,943,519	1,909,040	0.01
オーストラリアドル	買建	610,000.00	61,461,900	59,737,300	0.28
ニュージーランドドル	買建	1,717,000.00	159,338,900	160,917,240	0.76
シンガポールドル	買建	1,036,000.00	93,675,710	94,348,520	0.45
南アフリカランド	買建	2,521,000.00	26,472,744	26,067,140	0.12
米ドル	売建	18,381,365.77	2,175,621,773	2,215,261,862	10.49
カナダドル	売建	1,384,000.00	144,355,880	143,327,040	0.68
メキシコペソ	売建	14,750,000.00	124,440,200	120,360,000	0.57
ユーロ	売建	1,562,000.00	229,386,430	228,879,860	1.08
英ポンド	売建	5,508,000.00	1,012,320,500	1,029,775,680	4.87
スイスフラン	売建	1,156,000.00	141,320,710	140,812,360	0.67
スウェーデンクローネ	売建	1,970,000.00	31,166,600	30,357,700	0.14
ノルウェークローネ	売建	2,700,000.00	46,750,000	43,605,000	0.21
デンマーククローネ	売建	338,000.00	6,655,220	6,651,840	0.03
オーストラリアドル	売建	2,036,000.00	202,844,730	199,385,480	0.94
ニュージーランドドル	売建	1,717,000.00	158,948,200	160,917,240	0.76
シンガポールドル	売建	3,475,000.00	313,993,950	316,468,250	1.50

(注)為替予約取引は、わが国における対顧客先物相場の仲値で評価しています。

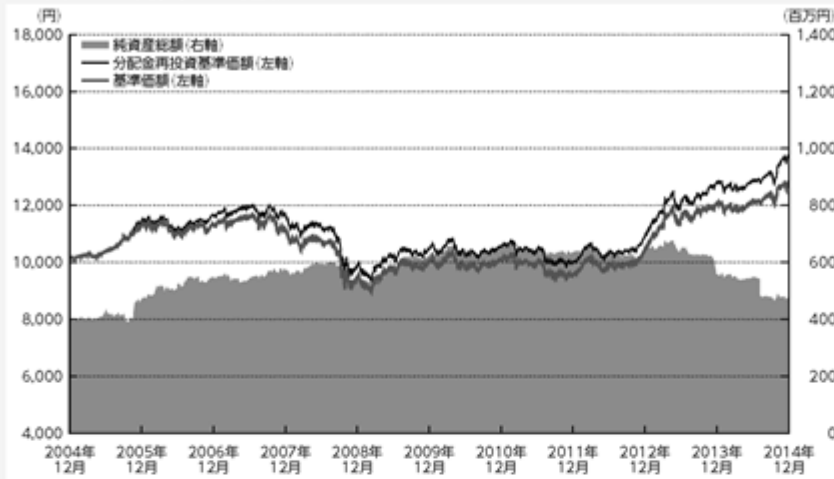
< 参考情報 >

交付目論見書の運用実績（平成26年12月末現在）

2014年12月末現在

【安定型】

基準価額・純資産の推移



・分配金再投資基準価額は、税引前分配金を再投資して算出。

分配の推移

決算期／年月日	分配金
10期 2010年 11月 16日	0円
11期 2011年 11月 16日	0円
12期 2012年 11月 16日	0円
13期 2013年 11月 18日	170円
14期 2014年 11月 17日	140円

設定来累計 810円

・分配金のデータは、1万口当たり、税引前の金額です。

主要な資産の状況

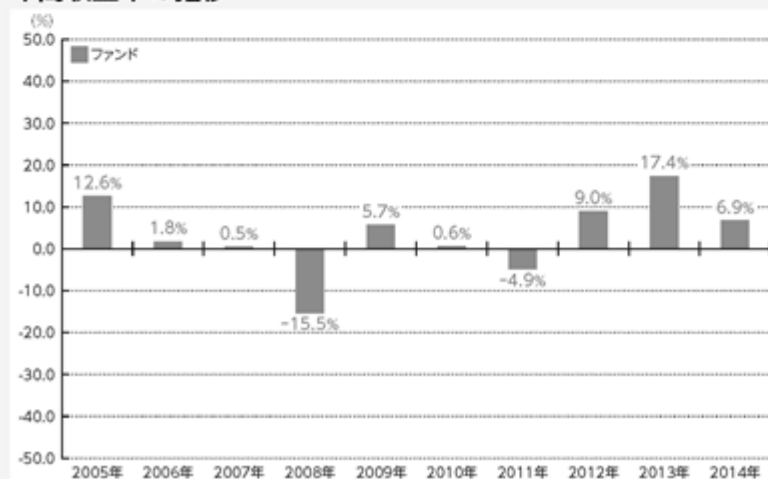
JA資産設計ファンド(安定型)

《資産の組入比率》

資産の種類	組入比率(%)
JA日本株式マザーファンド	19.8
JA日本債券マザーファンド	57.8
JA海外株式マザーファンド	10.2
JA海外債券マザーファンド	5.1
短期資産等	7.1

・組入比率は、ベビーファンドの純資産総額に対する比率です。
・短期資産等は、コール・ローン、CP、CD、未収金、未払金等が含まれます。

年間収益率の推移



・2014年は1月から12月までの騰落率を表示。

・ファンドの収益率は、税引前分配金を再投資して算出。

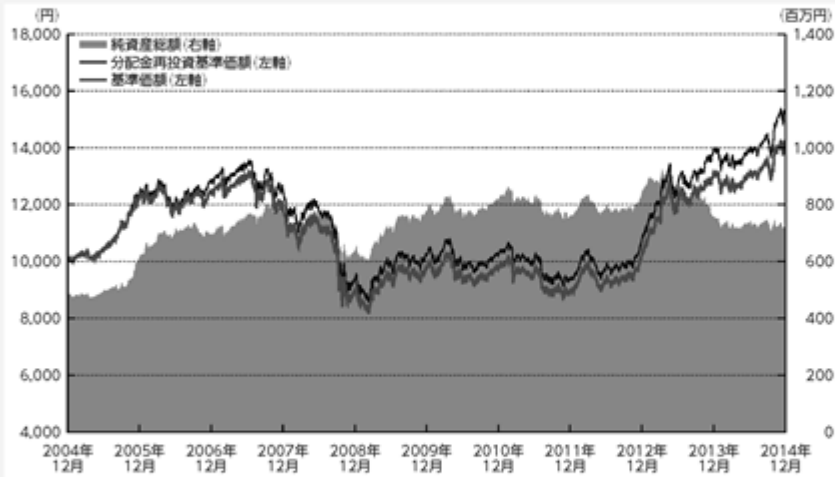
※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

※最新の運用実績は、農林中金全共連アセットマネジメントのホームページでご確認いただけます。

2014年12月末現在

【成長型】

基準価額・純資産の推移



※分配金再投資基準価額は、税引前分配金を再投資して算出。

分配の推移

決算期/年月日	分配金
10期 2010年 11月 16日	0円
11期 2011年 11月 16日	0円
12期 2012年 11月 16日	0円
13期 2013年 11月 18日	190円
14期 2014年 11月 17日	180円

設定来累計 940円

※分配金のデータは、1万口当たり、税引前の金額です。

主要な資産の状況

JA資産設計ファンド(成長型)

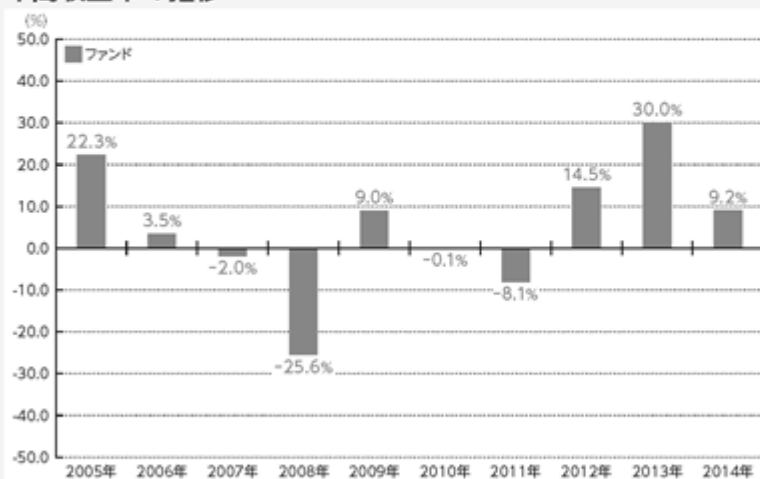
《資産の組入比率》

資産の種類	組入比率(%)
JA日本株式マザーファンド	33.5
JA日本債券マザーファンド	32.8
JA海外株式マザーファンド	18.8
JA海外債券マザーファンド	10.8
短期資産等	4.2

※組入比率は、ベビーファンドの純資産総額に対する比率です。

※短期資産等は、コール・ローン、CP、CD、未収金、未払金等が含まれます。

年間収益率の推移



※2014年は1月から12月までの騰落率を表示。

※ファンドの収益率は、税引前分配金を再投資して算出。

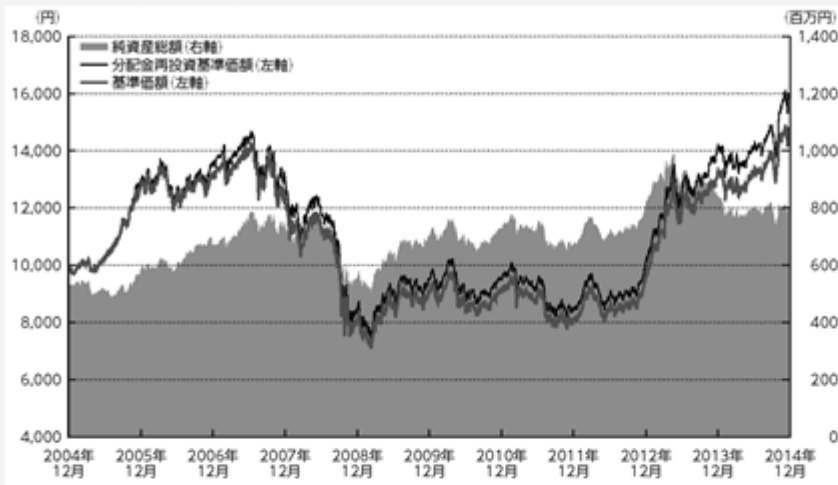
※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

※最新の運用実績は、農林中金全共連アセットマネジメントのホームページでご確認いただけます。

2014年12月末現在

【積極型】

基準価額・純資産の推移



・分配金再投資基準価額は、税引前分配金を再投資して算出。

分配の推移

決算期／年月日	分配金
10期 2010年 11月 16日	0円
11期 2011年 11月 16日	0円
12期 2012年 11月 16日	0円
13期 2013年 11月 18日	200円
14期 2014年 11月 17日	210円
設定来累計	1,010円

・分配金のデータは、1万口当たり、税引前の金額です。

主要な資産の状況

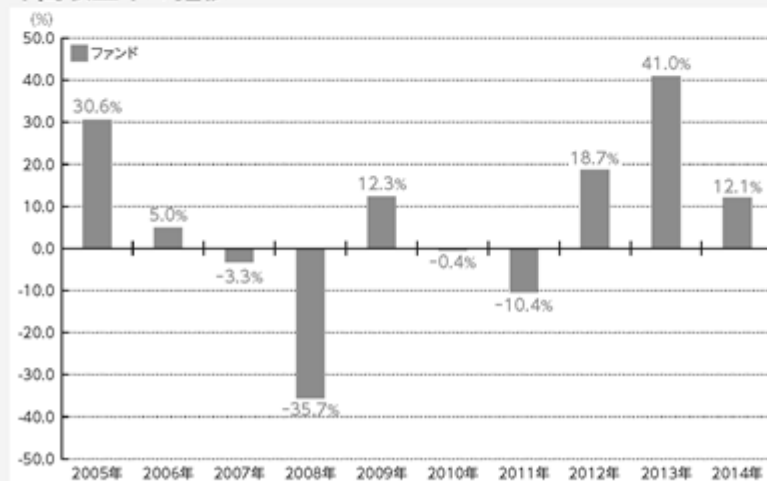
JA資産設計ファンド(積極型)

《資産の組入比率》

資産の種類	組入比率(%)
JA日本株式マザーファンド	44.4
JA日本債券マザーファンド	14.8
JA海外株式マザーファンド	25.5
JA海外債券マザーファンド	10.1
短期資産等	5.2

・組入比率は、ベビーフンドの純資産総額に対する比率です。
 ・短期資産等は、コール・ローン、CP、CD、未収金、未払金等が含まれます。

年間収益率の推移



・2014年は1月から12月までの騰落率を表示。

・ファンドの収益率は、税引前分配金を再投資して算出。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

※最新の運用実績は、農林中金全共連アセットマネジメントのホームページでご確認いただけます。

2014年12月末現在

(参考) マザーファンド

主要な資産の状況

《組入上位10銘柄》

JA日本株式マザーファンド

	銘柄名	業種	組入比率(%)
1	トヨタ自動車	輸送用機器	7.9
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.6
3	ソフトバンク	情報・通信業	3.3
4	三菱商事	卸売業	3.2
5	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.8
6	日立製作所	電気機器	2.4
7	日本電産	電気機器	2.3
8	オリックス	その他金融業	2.2
9	東芝	電気機器	2.1
10	三井不動産	不動産業	1.9

JA日本債券マザーファンド

	銘柄名	クーポン(%)	償還日	組入比率(%)	種類
1	第113回利付国債(5年)	0.3	2018/ 6/20	6.0	国債
2	第117回利付国債(5年)	0.2	2019/ 3/20	4.7	国債
3	第348回利付国債(2年)	0.1	2017/ 1/15	4.5	国債
4	第118回利付国債(5年)	0.2	2019/ 6/20	4.2	国債
5	第193回政府保証預金保険機構債	0.2	2017/10/20	3.8	特殊債
6	第148回利付国債(20年)	1.5	2034/ 3/20	3.1	国債
7	第115回利付国債(5年)	0.2	2018/ 9/20	2.9	国債
8	第122回利付国債(5年)	0.1	2019/12/20	2.9	国債
9	第320回利付国債(10年)	1.0	2021/12/20	2.7	国債
10	第116回利付国債(5年)	0.2	2018/12/20	2.6	国債

JA海外株式マザーファンド

	銘柄名	国名	通貨	業種	組入比率(%)
1	BRISTOL-MYERS SQUIBB CO	アメリカ	米ドル	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.9
2	PNC FINANCIAL SERVICES GROUP	アメリカ	米ドル	銀行	2.8
3	APPLE INC	アメリカ	米ドル	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.8
4	CVS HEALTH CORP	アメリカ	米ドル	食品・生活必需品小売り	2.7
5	MICROSOFT CORP	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	2.6
6	ASTRAZENECA PLC	イギリス	英ポンド	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.6
7	DIRECTV	アメリカ	米ドル	メディア	2.5
8	IMPERIAL TOBACCO GROUP PLC	イギリス	英ポンド	食品・飲料・タバコ	2.4
9	PINNACLE WEST CAPITAL	アメリカ	米ドル	公益事業	2.4
10	MONSTER BEVERAGE CORP	アメリカ	米ドル	食品・飲料・タバコ	2.3

JA海外債券マザーファンド

	銘柄名	国名	通貨	クーポン(%)	償還日	組入比率(%)	種類
1	T-NOTE 0.875 161231	アメリカ	米ドル	0.875	2016/12/31	8.7	国債
2	T-NOTE 1.0 190930	アメリカ	米ドル	1.0	2019/ 9/30	7.6	国債
3	T-NOTE 2.5 240515	アメリカ	米ドル	2.5	2024/ 5/15	4.4	国債
4	T-NOTE 1.5 180831	アメリカ	米ドル	1.5	2018/ 8/31	3.7	国債
5	BTPS 2.5 190501	イタリア	ユーロ	2.5	2019/ 5/ 1	2.6	国債
6	OBL 0.5 190412	ドイツ	ユーロ	0.5	2019/ 4/12	2.0	国債
7	T-BOND 3.625 440215	アメリカ	米ドル	3.625	2044/ 2/15	1.9	国債
8	OAT 1.0 190525	フランス	ユーロ	1.0	2019/ 5/25	1.9	国債
9	GILT 1.75 190722	イギリス	英ポンド	1.75	2019/ 7/22	1.7	国債
10	OAT 2.25 240525	フランス	ユーロ	2.25	2024/ 5/25	1.7	国債

・組入比率は、各マザーファンドの純資産総額に対する比率です。

第 2 【管理及び運営】

1 【申込（販売）手続等】

（ 1 ）申込期間

当ファンドは、原則として継続申込期間中の販売会社の営業日に受益権の募集が行われます。
継続申込期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

（ 2 ）取得申込

< 通常の申込 > の場合

（イ）当ファンドの取得申込については、原則として午後 3 時までに取得の申し込みが行われ、かつ、当該取得申込の受け付けに係る販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日の申し込みとします。

取得申込の受け付けは、販売会社の営業日に限り行われます。

なお、金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、受益権の取得申込の受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた取得申込を取り消す場合があります。

（ロ）当ファンドは、収益分配を行った場合、税金を差し引いた後、収益分配金を無手数料で再投資を行う「分配金再投資（累積投資）」専用のファンドです。

このため、取得申込者は、販売会社との間で、「J A 資産設計ファンド累積投資規定」に従った分配金再投資に関する契約（「累積投資契約」）を締結します。

（ハ）当ファンドを保有している場合、スイッチングの申し込みを受け付けます。スイッチングの申し込みの際は、一部解約の実行を請求するファンドと取得申込を行うファンドをご指示ください。

この場合の一部解約の実行の請求と取得申込は、通常の場合と同様となりますが、申込単位は 1 口単位とし、申込手数料はかかりません。

（ニ）取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたは予め当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託者は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）に定める事項の振替機関への通知を行うものとし、振替機関等は、委託者から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託者は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

< 確定拠出年金制度に基づく申込 > の場合

確定拠出年金制度に係る手続きが必要になります。

（ 3 ）申込単位

< 通常の申込 > の場合

申込単位は、販売会社が個別に定める単位とします。

詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

ただし、スイッチングによる取得申込の場合および収益分配金を再投資する場合の申込単位は、1 口の整数倍とします。

< 確定拠出年金制度に基づく申込 > の場合

各ファンドにつき、1 円以上 1 円単位とします。

（ 4 ）申込手数料

< 通常の申込 > の場合

申込手数料は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に販売会社が個別に定める手数料率を乗じて得た額とします。

本書提出日現在、手数料率の上限は1.62%（税抜1.5%）となっております。

詳しくは、委託者（下記参照）または販売会社にお問い合わせください。

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社のお問い合わせ窓口
<フリーダイヤル> 0120-439-244（営業日の午前9時から午後5時まで）
<ホームページアドレス> <http://www.ja-asset.co.jp/>

上記申込手数料率には、申込手数料に係る消費税等に相当する金額が含まれております。

スイッチングによる取得申込の場合および収益分配金を再投資する場合の申込手数料は、無手数料となります。

販売会社によっては、償還乗換え優遇措置等の適用が受けられる場合があります。

< 確定拠出年金制度に基づく申込 > の場合

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社・・・無手数料

（5）申込価額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

ただし、収益分配金を再投資する場合の申込価額は、各計算期間終了日の基準価額とします。

基準価額は、原則として委託者の営業日において日々算出され、委託者（下記参照）または販売会社にお問い合わせることにより知ることができます。

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社のお問い合わせ窓口
<フリーダイヤル> 0120-439-244（営業日の午前9時から午後5時まで）
<ホームページアドレス> <http://www.ja-asset.co.jp/>

2【換金（解約）手続等】

（1）一部解約申込

< 通常の申込 > の場合

（イ）受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託者に1口単位をもって一部解約の実行を請求することができます。委託者は、一部解約の実行の請求を受け付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。

また、受益者が一部解約の実行の請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行うものとします。

（スイッチングによる一部解約の実行の請求の場合を含みます。）

（ロ）原則として午後3時までに一部解約の実行の請求が行われ、かつ、当該一部解約の実行の請求の受け付けに係る販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日の一部解約の実行の請求として受け付けるものとします。

一部解約の実行の請求の受け付けは、販売会社の営業日に限り行われます。

信託財産の資産管理を円滑に行うために、大口の一部解約の実行の請求の場合は別途制限を設ける場合があります。

（ハ）委託者は、金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた一部解約の実行の請求を取り消す場合があります。

一部解約の実行の請求の受け付けが中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者が当該一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして下記（2）に準じて計算された価額とします。

（ニ）換金の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託者が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権

の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

換金の請求を受益者がするときは、振替受益権をもって行うものとします。

受益証券をお手許で保有されている方は、換金のお申し込みに際して、個別に振替受益権とするための所要の手続きが必要であり、この手続きには時間を要しますので、ご注意ください。

< 確定拠出年金制度に基づく申込 > の場合

確定拠出年金制度に係る手続きに従います。

(2) 解約価額

解約価額¹は、一部解約実行の請求日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額²（当該基準価額に0.20%を乗じて得た額）を差し引いた価額となります。

1 解約価額 = 基準価額 - 信託財産留保額 = 基準価額 - (基準価額 × 0.20%)

2 「信託財産留保額」とは、信託期間満了前の解約に対し、解約申込者から徴収される一定の金額をいいます。この信託財産留保額は、解約に際し発生する売買委託手数料等の費用について、受益者間の公平を確保するため、信託財産に留保されます。

解約価額は、原則として委託者の営業日において日々算出され、委託者（下記参照）または販売会社に問い合わせることにより知ることができます。

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社のお問い合わせ窓口
 < フリーダイヤル > 0120-439-244（営業日の午前9時から午後5時まで）
 < ホームページアドレス > <http://www.ja-asset.co.jp/>

(3) 一部解約金の支払い

一部解約金は、受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として5営業日目から受益者に支払います。一部解約金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとします。

上記のほか、販売会社によっては、受益権を買い取る場合があります。
 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

3 【資産管理等の概要】

(1) 【資産の評価】

a. 基準価額の計算方法（追加信託の価額および口数、基準価額の計算方法（約款第7条））

基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

また、外貨建資産（外国通貨表示の有価証券（以下「外貨建有価証券」といいます。））、預金その他の資産をいいます。以下同じ。）の円換算については、原則として、わが国における当日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。約款第27条に規定する予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算します。

なお、基準価額は、便宜上、1万口当りに換算した価額で表示することがあります。

b. 主要な投資対象資産の評価方法

ファンドの主要な投資対象資産の評価につきましては、法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って、以下のとおり評価しております。

資産の種類	評価方法
親投資信託 受益証券	時価により評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。

株式	原則として、時価により評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所または外国金融商品市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）もしくは第一種金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価します。
公社債等	原則として、時価により評価しております。 時価は、以下のいずれかから入手した価額によっております。 日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値） 金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用いたしません。） 価格情報会社の提供する価額 （注）残存期間が1年以内の組入公社債等については、一部償却原価法による評価を適用することができます。

c. 基準価額の算出頻度等

基準価額は、原則として委託者の営業日において日々算出され、委託者（下記参照）または販売会社に問い合わせることにより知ることができます。

なお、基準価額は、日本経済新聞に掲載されます。

（JA資産設計ファンド（安定型）の表示は、「JA安定」です。）

（JA資産設計ファンド（成長型）の表示は、「JA成長」です。）

（JA資産設計ファンド（積極型）の表示は、「JA積極」です。）

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社のお問い合わせ窓口
 <フリーダイヤル> 0120-439-244（営業日の午前9時から午後5時まで）
 <ホームページアドレス> <http://www.ja-asset.co.jp/>

（2）【保管】

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、受益証券を発行しませんので、受益証券の保管に関する該当事項はありません。

（3）【信託期間】

信託期間（約款第3条）

この信託の期間は、無期限（信託契約締結日から約款第48条第7項、第49条第1項、第50条第1項、第51条第1項および第53条第2項の規定による信託契約終了の日まで）とします。

（4）【計算期間】

信託の計算期間（約款第38条）

a. この信託の計算期間は、原則として毎年11月17日から翌年11月16日までとします。

ただし、第1計算期間は、平成13年2月20日から平成13年11月16日までとします。

b. 上記a.の規定にかかわらず、上記a.の原則により各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、約款第3条に定める信託期間の終了日とします。

（5）【その他】

a. 信託期間の終了

下記の信託約款の条項に規定する場合は、信託期間終了日前に信託契約を解約し、当該信託を終了させる場合があります。

（イ）信託契約の一部解約（約款第48条第7項から第12項）

委託者は、信託契約の一部を解約することにより、受益権の総口数が5億口を下回るようになった場合には、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

委託者は、上記の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

上記の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

上記の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、上記の信託契約の解約をしません。

委託者は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

上記から上記までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

(ロ) 信託契約の解約(約款第49条)

委託者は、約款第3条の規定による信託終了前にこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

委託者は、上記の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

上記の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

上記の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、上記の信託契約の解約をしません。

委託者は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

上記から上記までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

(ハ) 信託契約に関する監督官庁の命令(約款第50条第1項)

委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い、この信託契約を解約し信託を終了させます。

(ニ) 委託者の登録取り消しなどに伴う取り扱い(約款第51条)

委託者が監督官庁より登録の取り消しを受けたとき、解散したとき、または業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

上記の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、約款第54条第4項に該当する場合を除き、当該投資信託委託会社と受託者との間において存続します。

(ホ) 受託者の辞任および解任に伴う取り扱い(約款第53条)

受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託者がその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を請求することができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、約款第54条の規定に従い、新受託者を選任します。

委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

b. 約款の変更

約款の変更は、信託約款の下記の条項により行うものとします。

(イ) 信託契約に関する監督官庁の命令（約款第50条第2項）

委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、約款第54条の規定に従います。

(ロ) 信託約款の変更（約款第54条）

委託者は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

委託者は、上記の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

上記の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

上記の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、上記の信託約款の変更をしません。

委託者は、この信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。

ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

c. その他の契約の変更

< 募集・販売の取扱い等に関する契約 >

委託者と販売会社（取次登録金融機関は除きます。）との間の募集・販売の取扱い等に関する契約は当事者の別段の意思表示がない限り、1年ごとに自動的に更新されます。

当契約は、当事者間の合意により変更することができます。

< 運用の権限委託に関する契約 >

親投資信託の運用における投資顧問会社との投資運用委託契約は、親投資信託の信託期間終了まで継続します。

ただし、委託者、投資顧問会社が法令等に違反したとき、重大な契約違反を行ったとき、その他契約を継続することが困難となった場合には、相手方に通知を行うことにより契約の終了又は契約内容の変更を行うことができます。

上記の終了または変更は、必要に応じて運用報告書に記載する等の方法により受益者に対して通知を行う手配をしますが、必ずしも直ちに受益者全員にこれを知らせるものではありません。

d. 運用報告書等

< 運用報告書 >

委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律の規定に基づき当該信託財産の計算期間の末日毎に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて当該信託財産に係る知られたる受益者に対して交付します。

運用報告書(全体版)は、委託者のホームページで閲覧できます。なお、受益者から運用報告書(全体版)の交付の請求があった場合には、これを交付します。

<有価証券報告書および半期報告書>

委託者は、金融商品取引法第24条第1項の規定に基づき有価証券報告書および同法第24条の5第1項の規定に基づき半期報告書を作成し、関東財務局に提出します。

<臨時報告書>

委託者は、金融商品取引法第24条の5第4項の規定に基づき臨時報告書を作成し、関東財務局に提出します。

e. 委託者の事業の譲渡および承継に伴う取り扱い(約款第52条)

委託者は、事業の全部又は一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

委託者は、分割により事業の全部又は一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

f. 公告(約款第56条)

委託者が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

g. 信託約款に関する疑義の取り扱い(約款第57条)

信託約款の解釈について疑義が生じたときは、委託者と受託者との協議により定めます。

h. 信託事務処理の再信託

受託者は、当ファンドに係る信託事務の処理の一部について日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託に係る契約書類に基づいて所定の事務を行います。

4【受益者の権利等】

受益者は「投資信託及び投資法人に関する法律」ならびに信託約款の規定および本書の記載に従い、以下の権利を有するものとします。

(イ) 収益分配金に対する請求権

受益者は、持分に応じて収益分配金を請求する権利を有します。

当ファンドの収益分配金は、原則として自動的に再投資されます。

受託者が委託者の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金(委託者の自らの募集に係る受益権に帰属する収益分配金を除きます。)が販売会社に交付されます。この場合、販売会社は、累積投資契約に基づき、各受益者に対し遅滞なく、収益分配金の再投資に係る受益権の取得の申込に応じるものとします。当該取得の申込により増加した受益権は、約款第9条第3項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。

委託者は、委託者の自らの募集に係る受益権に帰属する収益分配金をこの信託の受益権の取得申込金として、各受益者毎に当該収益分配金の再投資に係る受益権の取得の申込に応じたものとします。当該取得の申込により増加した受益権は、約款第9条第3項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。

(ロ) 償還金に対する請求権

受益者は、持分に応じて償還金を請求する権利を有します。

償還金（信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権総口数で除した額をいいます。以下同じ。）は、信託終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日（原則として償還日（休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日）までに、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者または販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に支払いを開始するものとします。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託者がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。また、受益証券を保有している受益者に対しては、償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から受益証券と引き換えに当該受益者に支払います。

償還金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとします。

受益者が、信託終了による償還金について、支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託者より交付を受けた金銭は委託者に帰属します。

（八）買戻し（一部解約）請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託者に1口単位をもって一部解約の実行を請求することができます。

（注）金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた一部解約の実行の請求を取り消す場合があります。

一部解約金は、約款第48条第1項の受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として、5営業日目から当該受益者に支払います。

一部解約金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとします。

（二）反対者の買取請求権（約款第55条）

約款第48条もしくは約款第49条に規定する信託契約の解約または約款第54条に規定する信託約款の変更を行う場合において、約款第48条第9項および約款第49条第3項または約款第54条第3項の一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。なお、受益者は当該請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行うものとします。

上記の請求の取り扱いは、委託者と受託者の協議により定めた手続きにより行うものとします。

(ホ) 投資信託財産に関する帳簿書類の閲覧又は謄写請求権(投資信託及び投資法人に関する法律
第15条第2項)

受益者は委託者に対し、その営業時間内に当該受益者に係る投資信託財産に関する帳簿書類
の閲覧又は謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

- (1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第14期計算期間（平成25年11月19日から平成26年11月17日まで）の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

【JA資産設計ファンド（安定型）】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第13期 平成25年11月18日現在	第14期 平成26年11月17日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	29,362,803	35,206,617
親投資信託受益証券	584,665,778	436,560,364
未収入金	13,341,824	7,756,673
未収利息	35	33
流動資産合計	627,370,440	479,523,687
資産合計	627,370,440	479,523,687
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	8,764,549	5,260,642
未払解約金	2,540,333	100,931
未払受託者報酬	339,990	272,246
未払委託者報酬	3,059,887	2,450,124
その他未払費用	20,187	16,928
流動負債合計	14,724,946	8,100,871
負債合計	14,724,946	8,100,871
純資産の部		
元本等		
元本	515,561,728	375,760,173
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	97,083,766	95,662,643
（分配準備積立金）	74,209,106	71,296,634
元本等合計	612,645,494	471,422,816
純資産合計	612,645,494	471,422,816
負債純資産合計	627,370,440	479,523,687

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第13期		第14期	
	自	平成24年11月17日 平成25年11月18日	自	平成25年11月19日 平成26年11月17日
営業収益				
受取利息		14,190		11,037
有価証券売買等損益		126,768,418		38,507,863
営業収益合計		126,782,608		38,518,900
営業費用				
受託者報酬		676,986		568,294
委託者報酬		6,092,771		5,114,537
その他費用		20,187		16,928
営業費用合計		6,789,944		5,699,759
営業利益又は営業損失（ ）		119,992,664		32,819,141
経常利益又は経常損失（ ）		119,992,664		32,819,141
当期純利益又は当期純損失（ ）		119,992,664		32,819,141
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		20,654,629		3,848,702
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		924,679		97,083,766
剰余金増加額又は欠損金減少額		8,110,795		12,423,504
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		8,110,795		12,423,504
剰余金減少額又は欠損金増加額		675,836		37,554,424
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		675,836		37,554,424
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
分配金		8,764,549		5,260,642
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		97,083,766		95,662,643

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1.有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2.収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3.その他	前計算期間末及び当計算期間末に該当する日が休業日のため、当計算期間は平成25年11月19日から平成26年11月17日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第13期 平成25年11月18日現在	第14期 平成26年11月17日現在
1.投資信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	613,811,287円	515,561,728円
期中追加設定元本額	59,432,730円	60,617,413円
期中一部解約元本額	157,682,289円	200,418,968円
2.計算期間の末日における受益権の総数	515,561,728口	375,760,173口
3.一口当たり純資産額 (一万口当たり純資産額)	1.1883円 (11,883円)	1.2546円 (12,546円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第13期 自平成24年11月17日 至平成25年11月18日	第14期 自平成25年11月19日 至平成26年11月17日
1.信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用として、委託者報酬の中から支弁している額	計算期間を通じて毎日、J A 海外株式マザーファンドの信託財産の純資産総額に年10,000分の75以内の率を乗じて得た報酬の総額に、親投資信託の受益権総口数に占める信託財産に属する親投資信託の受益権口数の持分割合を乗じて得た額及び、J A 海外債券マザーファンドの信託財産の純資産総額に年10,000分の50以内の率を乗じて得た報酬の総額に、親投資信託の受益権総口数に占める信託財産に属する親投資信託の受益権口数の持分割合を乗じて得た額とします。	同左
2.分配金の計算過程	計算期間末における費用控除後の配当等収益(8,847,845円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(64,871,936円)、信託約款に規定される収益調整金(52,933,471円)及び分配準備積立金(9,253,874円)より、分配対象収益は135,907,126円(一万口当たり2,636.10円)であり、うち8,764,549円(一万口当たり170円)を分配いたしました。	計算期間末における費用控除後の配当等収益(5,455,046円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(23,515,393円)、信託約款に規定される収益調整金(45,509,753円)及び分配準備積立金(47,586,837円)より、分配対象収益は122,067,029円(一万口当たり3,248.54円)であり、うち5,260,642円(一万口当たり140円)を分配いたしました。

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	第13期 自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日	第14期 自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日
1．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2．金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権であります。 当ファンドが保有する有価証券は全て売買目的で保有しており、これらの詳細は、「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 当該金融商品は、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク、カントリーリスク、流動性リスク等に晒されています。	同左
3．金融商品に係るリスクの管理体制	フロント部門では、ポジションリスク管理及びパフォーマンス管理を行っています。また、決定された運用計画に基づいた運用（あるいはポジション組成）となっているか管理を行っています。 ミドル部門は、ファンド運用状況の日々のモニタリングや定期的なフィードバックを行ないフロント部門を牽制しております。法令等のルールや組織的に決定された運用計画に従って運用されるよう、日常的な管理を行うほか、運用管理会議を開催してこれらの遵守状況を検証しております。また、各種運用リスクとパフォーマンスの計測・管理を行うほか、運用リスク管理会議を開催してこれらの管理状況を検証しております。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	第13期 平成25年11月18日現在	第14期 平成26年11月17日現在
1．貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2．時価の算定方法	親投資信託受益証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権 短期で決済されるため、帳簿価額を時価としております。	同左
3．金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

第13期(自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日)

売買目的有価証券

(単位:円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	92,287,990
合計	92,287,990

第14期(自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日)

売買目的有価証券

(単位:円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	29,631,145
合計	29,631,145

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

(単位：円)

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受益証券	J A 日本株式マザーファンド	70,162,623	92,228,767	
	J A 日本債券マザーファンド	209,373,009	273,838,958	
	J A 海外株式マザーファンド	20,836,820	46,705,732	
	J A 海外債券マザーファンド	8,176,724	23,786,907	
合計		308,549,176	436,560,364	

(注1) 券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【JA資産設計ファンド（成長型）】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

	第13期 平成25年11月18日現在	第14期 平成26年11月17日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	37,862,986	32,432,398
親投資信託受益証券	778,549,972	676,406,660
未収入金	18,714,437	13,082,330
未収利息	45	31
流動資産合計	835,127,440	721,921,419
資産合計	835,127,440	721,921,419
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	11,830,927	9,239,120
未払解約金	27,860,771	113,559
未払受託者報酬	448,696	392,285
未払委託者報酬	4,486,810	3,922,790
その他未払費用	26,846	23,361
流動負債合計	44,654,050	13,691,115
負債合計	44,654,050	13,691,115
純資産の部		
元本等		
元本	622,680,374	513,284,483
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	167,793,016	194,945,821
（分配準備積立金）	133,205,396	155,072,782
元本等合計	790,473,390	708,230,304
純資産合計	790,473,390	708,230,304
負債純資産合計	835,127,440	721,921,419

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第13期 自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日	第14期 自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日
営業収益		
受取利息	18,734	16,248
有価証券売買等損益	270,790,918	79,349,841
営業収益合計	270,809,652	79,366,089
営業費用		
受託者報酬	898,939	782,969
委託者報酬	8,989,225	7,829,557
その他費用	26,846	23,361
営業費用合計	9,915,010	8,635,887
営業利益又は営業損失（ ）	260,894,642	70,730,202
経常利益又は経常損失（ ）	260,894,642	70,730,202
当期純利益又は当期純損失（ ）	260,894,642	70,730,202
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	59,498,506	6,440,709
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	43,256,692	167,793,016
剰余金増加額又は欠損金減少額	21,484,499	16,281,342
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	11,744,318	-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	9,740,181	16,281,342
剰余金減少額又は欠損金増加額	-	44,178,910
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	44,178,910
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	11,830,927	9,239,120
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	167,793,016	194,945,821

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1.有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2.収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3.その他	前計算期間末及び当計算期間末に該当する日が休業日のため、当計算期間は平成25年11月19日から平成26年11月17日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目		第13期 平成25年11月18日現在	第14期 平成26年11月17日現在
1.	投資信託財産に係る元本の状況		
	期首元本額	824,865,628円	622,680,374円
	期中追加設定元本額	58,367,539円	55,165,812円
	期中一部解約元本額	260,552,793円	164,561,703円
2.	計算期間の末日における受益権の総数	622,680,374口	513,284,483口
3.	一口当たり純資産額 (一万口当たり純資産額)	1.2695円 (12,695円)	1.3798円 (13,798円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第13期 自平成24年11月17日 至平成25年11月18日	第14期 自平成25年11月19日 至平成26年11月17日
1.信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用として、委託者報酬の中から支弁している額	計算期間を通じて毎日、J A 海外株式マザーファンドの信託財産の純資産総額に年10,000分の75以内の率を乗じて得た報酬の総額に、親投資信託の受益権総口数に占める信託財産に属する親投資信託の受益権口数の持分割合を乗じて得た額及び、J A 海外債券マザーファンドの信託財産の純資産総額に年10,000分の50以内の率を乗じて得た報酬の総額に、親投資信託の受益権総口数に占める信託財産に属する親投資信託の受益権口数の持分割合を乗じて得た額とします。	同左
2.分配金の計算過程	計算期間末における費用控除後の配当等収益(12,225,044円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(108,051,955円)、信託約款に規定される収益調整金(121,214,545円)及び分配準備積立金(24,759,324円)より、分配対象収益は266,250,868円(一万口当たり4,275.88円)であり、うち11,830,927円(一万口当たり190円)を分配いたしました。	計算期間末における費用控除後の配当等収益(9,549,874円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(54,739,619円)、信託約款に規定される収益調整金(110,104,926円)及び分配準備積立金(100,022,409円)より、分配対象収益は274,416,828円(一万口当たり5,346.29円)であり、うち9,239,120円(一万口当たり180円)を分配いたしました。

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

項目	第13期 自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日	第14期 自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日
1．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2．金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権であります。 当ファンドが保有する有価証券は全て売買目的で保有しており、これらの詳細は、「(重要な会計方針に係る事項に関する注記) 有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 当該金融商品は、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク、カントリーリスク、流動性リスク等に晒されています。	同左
3．金融商品に係るリスクの管理体制	フロント部門では、ポジションリスク管理及びパフォーマンス管理を行っています。また、決定された運用計画に基づいた運用（あるいはポジション組成）となっているか管理を行っています。 ミドル部門は、ファンド運用状況の日々のモニタリングや定期的なフィードバックを行ないフロント部門を牽制しております。法令等のルールや組織的に決定された運用計画に従って運用されるよう、日常的な管理を行うほか、運用管理会議を開催してこれらの遵守状況を検証しております。また、各種運用リスクとパフォーマンスの計測・管理を行うほか、運用リスク管理会議を開催してこれらの管理状況を検証しております。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	第13期 平成25年11月18日現在	第14期 平成26年11月17日現在
1．貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2．時価の算定方法	親投資信託受益証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権 短期で決済されるため、帳簿価額を時価としております。	同左
3．金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

第13期(自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日)

売買目的有価証券

(単位:円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	189,080,139
合計	189,080,139

第14期(自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日)

売買目的有価証券

(単位:円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	69,949,834
合計	69,949,834

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

(単位：円)

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受益証券	J A 日本株式マザーファンド	179,754,753	236,287,622	
	J A 日本債券マザーファンド	179,594,730	234,891,947	
	J A 海外株式マザーファンド	57,826,850	129,618,884	
	J A 海外債券マザーファンド	25,990,240	75,608,207	
合計		443,166,573	676,406,660	

(注1) 券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【JA資産設計ファンド（積極型）】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

	第13期 平成25年11月18日現在	第14期 平成26年11月17日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	48,723,790	44,426,577
親投資信託受益証券	840,643,533	738,538,953
未収入金	21,353,730	24,410,055
未収利息	58	42
流動資産合計	910,721,111	807,375,627
資産合計	910,721,111	807,375,627
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	13,943,430	11,486,245
未払解約金	2,944,098	8,748,493
未払受託者報酬	480,547	424,946
未払委託者報酬	5,766,489	5,099,297
その他未払費用	27,806	25,394
流動負債合計	23,162,370	25,784,375
負債合計	23,162,370	25,784,375
純資産の部		
元本等		
元本	697,171,539	546,964,087
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	190,387,202	234,627,165
（分配準備積立金）	174,954,183	208,260,698
元本等合計	887,558,741	781,591,252
純資産合計	887,558,741	781,591,252
負債純資産合計	910,721,111	807,375,627

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第13期		第14期	
	自	平成24年11月17日 平成25年11月18日	自	平成25年11月19日 平成26年11月17日
営業収益				
受取利息		19,560		16,913
有価証券売買等損益		356,411,660		115,508,019
営業収益合計		356,431,220		115,524,932
営業費用				
受託者報酬		930,818		850,393
委託者報酬		11,169,665		10,204,614
その他費用		27,806		25,394
営業費用合計		12,128,289		11,080,401
営業利益又は営業損失（ ）		344,302,931		104,444,531
経常利益又は経常損失（ ）		344,302,931		104,444,531
当期純利益又は当期純損失（ ）		344,302,931		104,444,531
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		61,013,072		10,096,919
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		113,506,183		190,387,202
剰余金増加額又は欠損金減少額		34,546,956		17,959,622
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		26,429,137		-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		8,117,819		17,959,622
剰余金減少額又は欠損金増加額		-		56,581,026
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		56,581,026
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
分配金		13,943,430		11,486,245
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		190,387,202		234,627,165

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1.有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2.収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3.その他	前計算期間末及び当計算期間末に該当する日が休業日のため、当計算期間は平成25年11月19日から平成26年11月17日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目		第13期 平成25年11月18日現在	第14期 平成26年11月17日現在
1.	投資信託財産に係る元本の状況		
	期首元本額	845,451,709円	697,171,539円
	期中追加設定元本額	62,096,723円	57,580,274円
	期中一部解約元本額	210,376,893円	207,787,726円
2.	計算期間の末日における受益権の総数	697,171,539口	546,964,087口
3.	一口当たり純資産額 (一万口当たり純資産額)	1.2731円 (12,731円)	1.4290円 (14,290円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第13期	第14期
	自平成24年11月17日 至平成25年11月18日	自平成25年11月19日 至平成26年11月17日
1.信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用として、委託者報酬の中から支弁している額	計算期間を通じて毎日、J A 海外株式マザーファンドの信託財産の純資産総額に年10,000分の75以内の率を乗じて得た報酬の総額に、親投資信託の受益権総口数に占める信託財産に属する親投資信託の受益権口数の持分割合を乗じて得た額及び、J A 海外債券マザーファンドの信託財産の純資産総額に年10,000分の50以内の率を乗じて得た報酬の総額に、親投資信託の受益権総口数に占める信託財産に属する親投資信託の受益権口数の持分割合を乗じて得た額とします。	同左
2.分配金の計算過程	計算期間末における費用控除後の配当等収益(14,065,432円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(130,086,747円)、信託約款に規定される収益調整金(174,208,629円)及び分配準備積立金(44,745,434円)より、分配対象収益は363,106,242円(一万口当たり5,208.28円)であり、うち13,943,430円(一万口当たり200円)を分配いたしました。	計算期間末における費用控除後の配当等収益(11,450,598円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(82,897,014円)、信託約款に規定される収益調整金(149,033,537円)及び分配準備積立金(125,399,331円)より、分配対象収益は368,780,480円(一万口当たり6,742.32円)であり、うち11,486,245円(一万口当たり210円)を分配いたしました。

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	第13期 自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日	第14期 自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日
1．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2．金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権であります。 当ファンドが保有する有価証券は全て売買目的で保有しており、これらの詳細は、「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 当該金融商品は、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク、カントリーリスク、流動性リスク等に晒されています。	同左
3．金融商品に係るリスクの管理体制	フロント部門では、ポジションリスク管理及びパフォーマンス管理を行っています。また、決定された運用計画に基づいた運用（あるいはポジション組成）となっているか管理を行っています。 ミドル部門は、ファンド運用状況の日々のモニタリングや定期的なフィードバックを行ないフロント部門を牽制しております。法令等のルールや組織的に決定された運用計画に従って運用されるよう、日常的な管理を行うほか、運用管理会議を開催してこれらの遵守状況を検証しております。また、各種運用リスクとパフォーマンスの計測・管理を行うほか、運用リスク管理会議を開催してこれらの管理状況を検証しております。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	第13期 平成25年11月18日現在	第14期 平成26年11月17日現在
1．貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2．時価の算定方法	親投資信託受益証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権 短期で決済されるため、帳簿価額を時価としております。	同左
3．金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

第13期(自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日)

売買目的有価証券

(単位:円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	263,688,540
合計	263,688,540

第14期(自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日)

売買目的有価証券

(単位:円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	94,430,890
合計	94,430,890

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受 益証券	J A 日本株式マザーファンド	264,027,438	347,064,067	
	J A 日本債券マザーファンド	89,864,858	117,534,247	
	J A 海外株式マザーファンド	87,071,594	195,170,977	
	J A 海外債券マザーファンド	27,076,987	78,769,662	
合計		468,040,877	738,538,953	

(注1) 券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考情報）

当ファンドは、「J A日本株式マザーファンド」受益証券、「J A日本債券マザーファンド」受益証券、「J A海外株式マザーファンド」受益証券及び「J A海外債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「J A日本株式マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

（1）貸借対照表

	平成25年11月18日現在	平成26年11月17日現在
	金額（円）	金額（円）
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	77,352,104	14,504,017
株式	22,963,298,100	22,286,145,800
未収入金	271,728,201	409,993,117
未収配当金	166,733,300	167,668,580
未収利息	93	13
流動資産合計	23,479,111,798	22,878,311,527
資産合計	23,479,111,798	22,878,311,527
負債の部		
流動負債		
未払金	248,192,415	340,302,326
未払解約金	24,838,461	19,740,016
流動負債合計	273,030,876	360,042,342
負債合計	273,030,876	360,042,342
純資産の部		
元本等		
元本	18,975,784,032	17,130,990,012
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	4,230,296,890	5,387,279,173
元本等合計	23,206,080,922	22,518,269,185
純資産合計	23,206,080,922	22,518,269,185
負債純資産合計	23,479,111,798	22,878,311,527

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は第一種金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 受取配当金は、原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目		平成25年11月18日現在	平成26年11月17日現在
1.	投資信託財産に係る元本の状況		
	本書における開示対象ファンドの期首	平成24年11月17日	平成25年11月19日
	同期首元本額	25,232,081,207円	18,975,784,032円
	同期中追加設定元本額	1,817,544,050円	1,683,011,468円
	同期中一部解約元本額	8,073,841,225円	3,527,805,488円
	元本の内訳		
	JA日本株式ファンド	586,084,966円	452,209,285円
	JA資産設計ファンド（安定型）	109,389,351円	70,162,623円
	JA資産設計ファンド（成長型）	251,726,082円	179,754,753円
	JA資産設計ファンド（積極型）	315,610,606円	264,027,438円
	JA日本株式私募ファンド（適格機関投資家専用）	9,172,349,182円	9,001,905,251円
	JAグローバルバランス私募ファンド（適格機関投資家専用）	8,540,623,845円	7,162,930,662円
	合計	18,975,784,032円	17,130,990,012円
2.	本書における開示対象ファンドの計算期間の末日における受益権の総数	18,975,784,032口	17,130,990,012口
3.	一口当たり純資産額 (一万口当たり純資産額)	1.2229円 (12,229円)	1.3145円 (13,145円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日	自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日
1．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2．金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権等であります。当ファンドが保有する有価証券は、全て売買目的で保有しており、これらの詳細は、「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。当該金融商品は、株価変動リスク、流動性リスク等に晒されています。	同左
3．金融商品に係るリスクの管理体制	フロント部門では、トラッキング・エラー（市場全体の動きとファンドが乖離するリスク）の水準を管理しています。また、資産ポートフォリオ委員会決められた方針の範囲内となるよう、管理を行っております。 ミドル部門は、ファンド運用状況の日々のモニタリングや定期的なフィードバックを行ないフロント部門を牽制しております。法令等のルールや組織的に決定された運用計画に従って運用されるよう、日常的な管理を行うほか、運用管理会議を開催してこれらの遵守状況を検証しております。また、各種運用リスクとパフォーマンスの計測・管理を行うほか、運用リスク管理会議を開催してこれらの管理状況を検証しております。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	平成25年11月18日現在	平成26年11月17日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	株式 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権 短期で決済されるため、帳簿価額を時価としております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

（自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日）

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	2,032,813,859
合計	2,032,813,859

（自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日）

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	1,309,917,060
合計	1,309,917,060

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

(3) 附属明細表
第1 有価証券明細表
株式

(単位:円)

銘柄	株式数	評価額		備考
		単価	金額	
国際石油開発帝石	66,200	1,341.00	88,774,200	
大成建設	485,000	581.00	281,785,000	
清水建設	349,000	768.00	268,032,000	
明治ホールディングス	25,200	10,000.00	252,000,000	
麒麟ホールディングス	125,200	1,442.00	180,538,400	
味の素	89,000	2,194.50	195,310,500	
日本たばこ産業	86,300	3,832.00	330,701,600	
東洋紡	126,000	168.00	21,168,000	
住友化学	460,000	405.00	186,300,000	
信越化学工業	34,600	7,482.00	258,877,200	
日油	123,000	743.00	91,389,000	
花王	74,500	4,362.00	324,969,000	
富士フィルムホールディングス	48,300	3,951.50	190,857,450	
日東電工	40,200	6,021.00	242,044,200	
アステラス製薬	237,500	1,772.00	420,850,000	
日本新薬	29,000	3,245.00	94,105,000	
中外製薬	92,500	3,250.00	300,625,000	
大塚ホールディングス	53,000	3,869.00	205,057,000	
JXホールディングス	324,200	436.50	141,513,300	
太平洋セメント	199,000	357.00	71,043,000	
日本特殊陶業	82,000	3,350.00	274,700,000	
新日鐵住金	239,000	300.40	71,795,600	
ジェイ エフ イー ホールディングス	34,100	2,351.50	80,186,150	
三井金属鉱業	841,000	295.00	248,095,000	
DOWAホールディングス	76,000	916.00	69,616,000	
フジクラ	529,000	432.00	228,528,000	
S M C	4,000	30,295.00	121,180,000	
小松製作所	127,600	2,690.50	343,307,800	
日立建機	39,000	2,428.00	94,692,000	
クボタ	143,000	1,713.00	244,959,000	
T H K	64,800	2,711.00	175,672,800	
三菱重工業	280,000	668.50	187,180,000	
日立製作所	602,000	859.60	517,479,200	
東芝	904,000	484.40	437,897,600	
三菱電機	222,000	1,395.00	309,690,000	
日本電産	69,700	7,349.00	512,225,300	
富士通	281,000	620.00	174,220,000	

パナソニック	92,100	1,426.50	131,380,650	
ソニー	85,600	2,329.00	199,362,400	
堀場製作所	47,600	3,975.00	189,210,000	
キーエンス	1,800	54,200.00	97,560,000	
ファナック	9,700	19,760.00	191,672,000	
村田製作所	25,600	12,685.00	324,736,000	
デンソー	21,700	5,380.00	116,746,000	
いすゞ自動車	188,200	1,472.00	277,030,400	
トヨタ自動車	255,900	6,825.00	1,746,517,500	
日野自動車	193,900	1,546.00	299,769,400	
マツダ	51,900	2,733.00	141,842,700	
富士重工業	54,500	4,061.50	221,351,750	
HOYA	24,100	4,174.50	100,605,450	
ヤマハ	90,400	1,570.00	141,928,000	
ピジョン	30,800	7,220.00	222,376,000	
任天堂	6,400	12,570.00	80,448,000	
中部電力	63,800	1,390.50	88,713,900	
関西電力	58,200	1,186.00	69,025,200	
九州電力	31,200	1,240.00	38,688,000	
電源開発	36,600	3,960.00	144,936,000	
東京瓦斯	210,000	635.00	133,350,000	
東日本旅客鉄道	22,400	8,668.00	194,163,200	
西日本旅客鉄道	38,100	5,600.00	213,360,000	
東海旅客鉄道	13,800	17,120.00	236,256,000	
日本通運	350,000	533.00	186,550,000	
日本郵船	188,000	305.00	57,340,000	
日本航空	51,200	3,190.00	163,328,000	
ANAホールディングス	438,000	263.20	115,281,600	
日本電信電話	39,800	6,430.00	255,914,000	
KDDI	33,900	7,358.00	249,436,200	
NTTドコモ	158,300	1,837.00	290,797,100	
ソフトバンク	100,400	7,956.00	798,782,400	
三井物産	352,600	1,614.00	569,096,400	
日立ハイテクノロジーズ	8,500	3,375.00	28,687,500	
三菱商事	156,700	2,277.00	356,805,900	
MonotaRO	16,800	2,893.00	48,602,400	
セブン&アイ・ホールディングス	50,600	4,467.00	226,030,200	
良品計画	5,800	14,170.00	82,186,000	
ドンキホーテホールディングス	15,200	7,350.00	111,720,000	
ユニテッドアローズ	54,300	3,440.00	186,792,000	
青山商事	37,100	2,524.00	93,640,400	
ファーストリテイリング	3,700	42,615.00	157,675,500	
三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,311,400	659.00	864,212,600	

三井住友フィナンシャルグループ	199,600	4,360.50	870,355,800	
みずほフィナンシャルグループ	1,695,000	200.40	339,678,000	
野村ホールディングス	465,700	704.50	328,085,650	
MS&ADインシュアランスグループ ホールディングス	67,100	2,473.00	165,938,300	
オリックス	406,600	1,555.00	632,263,000	
三井不動産	132,000	3,564.50	470,514,000	
三菱地所	116,000	2,777.50	322,190,000	
総合警備保障	110,000	2,449.00	269,390,000	
ケネディクス	243,000	593.00	144,099,000	
オリエンタルランド	2,600	23,985.00	62,361,000	
合 計	16,070,100		22,286,145,800	

株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

「J A日本債券マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

(1) 貸借対照表

	平成25年11月18日現在	平成26年11月17日現在
	金額（円）	金額（円）
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	559,158,927	151,102,257
国債証券	33,728,894,000	41,138,392,500
地方債証券	5,530,240,520	4,330,919,680
特殊債券	7,790,288,900	4,192,068,980
社債券	5,344,260,000	4,169,178,000
未収入金	1,462,377,000	-
未収利息	204,332,030	162,509,562
前払費用	29,504,853	12,813,414
流動資産合計	54,649,056,230	54,156,984,393
資産合計	54,649,056,230	54,156,984,393
負債の部		
流動負債		
未払金	1,179,332,000	-
未払解約金	19,009,918	13,592,973
流動負債合計	1,198,341,918	13,592,973
負債合計	1,198,341,918	13,592,973
純資産の部		
元本等		
元本	41,895,948,580	41,395,757,116
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	11,554,765,732	12,747,634,304
元本等合計	53,450,714,312	54,143,391,420
純資産合計	53,450,714,312	54,143,391,420
負債純資産合計	54,649,056,230	54,156,984,393

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価は以下のいずれかから入手した価額によっております。 日本証券業協会発表の店頭売買参考統計値（平均値） 金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用いたしません。） 価格情報会社の提供する価額</p>
2. 収益及び費用の計上基準	<p>有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	平成25年11月18日現在	平成26年11月17日現在
1. 投資信託財産に係る元本の状況		
本書における開示対象ファンドの期首	平成24年11月17日	平成25年11月19日
同期首元本額	42,790,987,157円	41,895,948,580円
同期中追加設定元本額	6,392,224,739円	4,757,646,766円
同期中一部解約元本額	7,287,263,316円	5,257,838,230円
元本の内訳		
JA日本債券ファンド	764,202,825円	739,008,200円
JA資産設計ファンド（安定型）	275,631,872円	209,373,009円
JA資産設計ファンド（成長型）	204,853,180円	179,594,730円
JA資産設計ファンド（積極型）	105,964,854円	89,864,858円
JA日本債券私募ファンド（適格機関投資家専用）	8,324,005,385円	8,356,563,941円
JAグローバルバランス私募ファンド（適格機関投資家専用）	32,221,290,464円	31,821,352,378円
合計	41,895,948,580円	41,395,757,116円
2. 本書における開示対象ファンドの計算期間の末日における受益権の総数	41,895,948,580口	41,395,757,116口
3. 一口当たり純資産額 (一万口当たり純資産額)	1.2758円 (12,758円)	1.3079円 (13,079円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日	自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日
1．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2．金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権等であります。当ファンドが保有する有価証券は、全て売買目的で保有しており、これらの詳細は、「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。当該金融商品は、金利変動リスク、信用リスク、流動性リスク等に晒されています。	同左
3．金融商品に係るリスクの管理体制	フロント部門では、ポジションリスク管理及びパフォーマンス管理を行っています。また、決定された運用計画に基づいた運用（あるいはポジション組成）となっているか管理を行っています。ミドル部門は、ファンド運用状況の日々のモニタリングや定期的なフィードバックを行ないフロント部門を牽制しております。法令等のルールや組織的に決定された運用計画に従って運用されるよう、日常的な管理を行うほか、運用管理会議を開催してこれらの遵守状況を検証しております。また、各種運用リスクとパフォーマンスの計測・管理を行うほか、運用リスク管理会議を開催してこれらの管理状況を検証しております。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	平成25年11月18日現在	平成26年11月17日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	国債証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。 地方債証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。 特殊債券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。 社債券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権 短期で決済されるため、帳簿価額を時価としております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

（自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日）

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	328,364,500
地方債証券	45,883,960
特殊債証券	64,310,650
社債証券	34,396,000
合計	472,955,110

（自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日）

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	261,017,000
地方債証券	64,343,530
特殊債証券	59,970,440
社債証券	43,555,000
合計	428,885,970

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

(3) 附属明細表

第 1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

(単位 : 円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	第 3 3 7 回利付国債 (2 年)	1,500,000,000	1,501,665,000	
	第 8 8 回利付国債 (5 年)	600,000,000	600,984,000	
	第 9 3 回利付国債 (5 年)	300,000,000	301,593,000	
	第 1 0 2 回利付国債 (5 年)	1,800,000,000	1,810,872,000	
	第 1 0 3 回利付国債 (5 年)	1,400,000,000	1,409,296,000	
	第 1 0 9 回利付国債 (5 年)	600,000,000	600,996,000	
	第 1 1 3 回利付国債 (5 年)	3,300,000,000	3,327,720,000	
	第 1 1 5 回利付国債 (5 年)	1,600,000,000	1,607,328,000	
	第 1 1 6 回利付国債 (5 年)	1,400,000,000	1,405,978,000	
	第 1 1 7 回利付国債 (5 年)	1,600,000,000	1,606,192,000	
	第 5 回利付国債 (4 0 年)	600,000,000	675,018,000	
	第 2 8 0 回利付国債 (1 0 年)	2,700,000,000	2,780,784,000	
	第 2 8 6 回利付国債 (1 0 年)	1,200,000,000	1,254,984,000	
	第 2 8 9 回利付国債 (1 0 年)	1,200,000,000	1,254,168,000	
	第 3 0 0 回利付国債 (1 0 年)	1,000,000,000	1,060,150,000	
	第 3 0 5 回利付国債 (1 0 年)	900,000,000	953,190,000	
	第 3 1 5 回利付国債 (1 0 年)	2,300,000,000	2,447,844,000	
	第 3 2 0 回利付国債 (1 0 年)	1,400,000,000	1,473,094,000	
	第 3 2 3 回利付国債 (1 0 年)	600,000,000	626,922,000	
	第 3 2 5 回利付国債 (1 0 年)	600,000,000	622,248,000	
	第 3 2 9 回利付国債 (1 0 年)	600,000,000	621,462,000	
	第 3 3 0 回利付国債 (1 0 年)	1,000,000,000	1,035,460,000	
	第 3 3 3 回利付国債 (1 0 年)	700,000,000	710,675,000	
	第 3 3 4 回利付国債 (1 0 年)	1,200,000,000	1,216,536,000	
	第 1 5 回利付国債 (3 0 年)	200,000,000	243,936,000	
	第 2 6 回利付国債 (3 0 年)	400,000,000	481,988,000	
	第 2 7 回利付国債 (3 0 年)	300,000,000	367,923,000	
	第 3 0 回利付国債 (3 0 年)	200,000,000	238,512,000	
	第 3 2 回利付国債 (3 0 年)	450,000,000	537,799,500	
	第 3 5 回利付国債 (3 0 年)	300,000,000	339,414,000	
	第 3 7 回利付国債 (3 0 年)	300,000,000	332,373,000	
	第 7 2 回利付国債 (2 0 年)	1,200,000,000	1,387,788,000	
	第 7 3 回利付国債 (2 0 年)	300,000,000	344,526,000	
	第 1 0 3 回利付国債 (2 0 年)	900,000,000	1,080,621,000	
第 1 0 7 回利付国債 (2 0 年)	900,000,000	1,056,798,000		
第 1 1 3 回利付国債 (2 0 年)	300,000,000	351,951,000		

	第119回利付国債（20年）	300,000,000	338,286,000	
	第124回利付国債（20年）	600,000,000	692,730,000	
	第132回利付国債（20年）	500,000,000	551,470,000	
	第148回利付国債（20年）	1,600,000,000	1,677,936,000	
	第149回利付国債（20年）	200,000,000	209,182,000	
国債証券 合計		39,050,000,000	41,138,392,500	
地方債証券	第8回東京都公募公債	1,000,000,000	1,185,490,000	
	平成22年度第1回福岡県公募公債（20年）	600,000,000	665,154,000	
	平成25年度第4回大阪市公募公債	200,000,000	216,624,000	
	平成17年度第11回大阪市公募公債	100,000,000	101,932,000	
	第4回横浜市公募公債（30年）	400,000,000	478,172,000	
	平成23年度第2回千葉市公募公債	387,000,000	407,371,680	
	第21回地方公共団体金融機構債券（20年）	600,000,000	658,854,000	
	第45回地方公共団体金融機構債券	600,000,000	617,322,000	
地方債証券 合計		3,887,000,000	4,330,919,680	
特殊債券	第16回政府保証株式会社日本政策投資銀行社債	501,000,000	519,326,580	
	第43回道路債券	200,000,000	242,176,000	
	第99回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	900,000,000	1,059,291,000	
	第192回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	500,000,000	539,050,000	
	第50回政府保証地方公共団体金融機構債券	798,000,000	831,755,400	
	第158号商工債（3年）	1,000,000,000	1,000,470,000	
特殊債券 合計		3,899,000,000	4,192,068,980	
社債券	第4回日本高速道路保有・債務返済機構債券	600,000,000	716,874,000	
	第49回一般担保住宅金融支援機構債券	400,000,000	460,172,000	
	第122回一般担保住宅金融支援機構債券	200,000,000	212,746,000	
	第38回中日本高速道路株式会社社債	500,000,000	509,800,000	
	第39回中日本高速道路株式会社社債	600,000,000	628,062,000	
	第134回株式会社三菱東京UFJ銀行無担保社債	1,000,000,000	1,007,120,000	
	第72回東日本旅客鉄道株式会社社債	100,000,000	105,929,000	
	第61回日本電信電話株式会社電信電話債券	500,000,000	528,475,000	
社債券 合計		3,900,000,000	4,169,178,000	
合計		50,736,000,000	53,830,559,160	

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表
該当事項はありません。

「J A 海外株式マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

(1) 貸借対照表

	平成25年11月18日現在	平成26年11月17日現在
	金額（円）	金額（円）
資産の部		
流動資産		
預金	524,311,467	819,982,398
コール・ローン	94,252,812	113,496,286
株式	21,555,650,057	27,024,761,785
未収配当金	34,744,566	44,206,950
未収利息	113	109
流動資産合計	22,208,959,015	28,002,447,528
資産合計	22,208,959,015	28,002,447,528
負債の部		
流動負債		
未払金	-	32,285,077
未払解約金	11,856,974	10,578,915
流動負債合計	11,856,974	42,863,992
負債合計	11,856,974	42,863,992
純資産の部		
元本等		
元本	13,651,071,361	12,473,831,758
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	8,546,030,680	15,485,751,778
元本等合計	22,197,102,041	27,959,583,536
純資産合計	22,197,102,041	27,959,583,536
負債純資産合計	22,208,959,015	28,002,447,528

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、外国金融商品市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。</p>
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>原則として、わが国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値で評価しております。</p>
3. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	<p>信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。</p>
4. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金</p> <p>原則として、株式の配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を計上し、未だ確定していない場合には入金日基準で計上しております。</p> <p>有価証券売買等損益</p> <p>約定日基準で計上しております。</p> <p>派生商品取引等損益</p> <p>約定日基準で計上しております。</p>
5. その他	<p>外貨建取引等の会計処理</p> <p>外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

項目		平成25年11月18日現在	平成26年11月17日現在
1.	投資信託財産に係る元本の状況		
	本書における開示対象ファンドの期首	平成24年11月17日	平成25年11月19日
	同期首元本額	15,848,487,808円	13,651,071,361円
	同期中追加設定元本額	1,122,223,709円	1,833,141,529円
	同期中一部解約元本額	3,319,640,156円	3,010,381,132円
	元本の内訳		
	JA 海外株式ファンド	279,794,129円	233,305,713円
	JA 資産設計ファンド（安定型）	42,057,502円	20,836,820円
	JA 資産設計ファンド（成長型）	82,377,637円	57,826,850円
	JA 資産設計ファンド（積極型）	143,467,145円	87,071,594円
	JA 海外株式私募ファンド（適格機関投資家専用）	8,639,774,912円	8,880,635,541円
	JA グローバルバランス私募ファンド（適格機関投資家専用）	4,463,600,036円	3,194,155,240円
	合計	13,651,071,361円	12,473,831,758円
2.	本書における開示対象ファンドの計算期間の末日における受益権の総数	13,651,071,361口	12,473,831,758口
3.	一口当たり純資産額 (一万口当たり純資産額)	1.6260円 (16,260円)	2.2415円 (22,415円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日	自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日
1．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2．金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	当ファンドの保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権等であります。 当ファンドが保有する有価証券は、すべて売買目的で保有しており、デリバティブ取引は、投資信託財産に属する外貨建資産について、実需に対応し効率的な運用に資することを目的として行っております。また、これらの詳細は、「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）有価証券の評価基準及び評価方法、デリバティブ等の評価基準及び評価方法」に記載しております。 当該金融商品は、株価変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、流動性リスク等に晒されています。	同左
3．金融商品に係るリスクの管理体制	フロント部門では、トラッキング・エラー（市場全体の動きとファンドが乖離するリスク）の水準や、国別配分・業種別配分等のリスク配分の分散状況を管理しています。また、各銘柄の保有ウェイトや業種配分が、個別ファンド運用会議で定められた方針の範囲内となるよう、管理を行っております。 ミドル部門は、ファンド運用状況の日々のモニタリングや定期的なフィードバックを行いフロント部門を牽制しております。法令等のルールや組織的に決定された運用計画に従って運用されるよう、日常的な管理を行うほか、運用管理会議を開催してこれらの遵守状況を検証しております。また、各種運用リスクとパフォーマンスの計測・管理を行うほか、運用リスク管理会議を開催してこれらの管理状況を検証しております。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	平成25年11月18日現在	平成26年11月17日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	株式 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権 短期で決済されるため、帳簿価額を時価としております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

（自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日）

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	1,068,589,109
合計	1,068,589,109

（自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日）

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	640,204,643
合計	640,204,643

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

(3) 附属明細表

第1 有価証券明細表

株式

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
米ドル	CARRIZO OIL&GAS INC	21,700	51.59	1,119,503.00	
	CHEVRONTEXACO CORP	45,121	116.32	5,248,474.72	
	CONCHO RESOURCES INC	12,400	117.84	1,461,216.00	
	CONTINENTAL RESOURCES INC/OK	9,000	53.97	485,730.00	
	HALLIBURTON CO	33,600	55.08	1,850,688.00	
	HOLLYFRONTIER CORP	17,500	42.83	749,525.00	
	LAREDO PETROLEUM INC	49,600	17.71	878,416.00	
	MURPHY OIL CORP	36,500	51.94	1,895,810.00	
	NABORS INDUSTRIES LTD	24,600	16.59	408,114.00	
	PIONEER NATURAL RESOURCES CO	7,500	170.63	1,279,725.00	
	SOUTHWESTERN ENERGY CO	77,400	33.75	2,612,250.00	
	CONSTELLIUM NV-CLASS A	15,800	21.13	333,854.00	
	NEW GOLD INC	142,100	4.08	579,768.00	
	ESTERLINE TECHNOLOGIES CORP	5,800	114.88	666,304.00	
	GENERAL DYNAMICS CORP	14,300	142.66	2,040,038.00	
	LOCKHEED MARTIN CORP	27,400	186.60	5,112,840.00	
	MOOG INC-CLASS A	26,200	74.32	1,947,184.00	
	RAYTHEON COMPANY	54,400	104.63	5,691,872.00	
	DIRECTV	68,100	87.55	5,962,155.00	
	ADVANCE AUTO PARTS INC	4,628	144.81	670,180.68	
	AUTOZONE INC	6,400	567.11	3,629,504.00	
	DOLLAR TREE INC	21,100	62.05	1,309,360.50	
	ROSS STORES INC	57,400	81.38	4,671,212.00	
	TJX COMPANIES INC	44,600	62.32	2,779,472.00	
	CVS HEALTH CORP	64,300	89.13	5,731,059.00	
	WALGREEN CO	49,400	66.93	3,306,342.00	
	INGREDION INC	66,500	80.34	5,342,610.00	
	LORILLARD INC	44,301	61.59	2,728,498.59	
	MONSTER BEVERAGE CORP	48,900	107.92	5,277,288.00	
	ESTEE LAUDER COMPANIES-CL A	8,000	71.33	570,640.00	
	AETNA INC	39,700	83.81	3,327,257.00	
	UNITEDHEALTH GROUP INC	36,293	95.11	3,451,827.23	
	BRISTOL-MYERS SQUIBB CO	115,800	57.95	6,710,610.00	
	ELI LILLY & CO	72,014	67.33	4,848,702.62	
GILEAD SCIENCES INC	7,354	102.06	750,549.24		
MERCK & CO. INC.	91,000	59.07	5,375,370.00		
REGENERON PHARMACEUTICALS, INC.	3,200	395.20	1,264,640.00		
TEVA PHARMACEUTICAL-SP ADR	43,200	57.07	2,465,424.00		

	PNC FINANCIAL SERVICES GROUP	72,614	87.41	6,347,189.74	
	WELLS FARGO & COMPANY	25,700	53.35	1,371,095.00	
	CITIGROUP INC	29,500	53.38	1,574,710.00	
	ACE LTD	18,300	110.62	2,024,346.00	
	XL GROUP PLC	120,400	34.56	4,161,024.00	
	CHECK POINT SOFTWARE TECH	10,400	76.39	794,456.00	
	F5 NETWORKS INC	11,900	128.88	1,533,672.00	
	JACK HENRY & ASSOCIATES INC	23,800	60.26	1,434,188.00	
	MICROSOFT CORP	60,500	49.58	2,999,590.00	
	RED HAT INC	9,400	62.36	586,184.00	
	APPLE INC	65,900	114.18	7,524,462.00	
	CISCO SYSTEMS INC	131,400	26.32	3,458,448.00	
	TELUS CORP	50,800	37.80	1,920,240.00	
	IDACORP INC	26,500	60.86	1,612,790.00	
	PINNACLE WEST CAPITAL	86,200	60.79	5,240,098.00	
	PORTLAND GENERAL ELECTRIC CO	15,400	35.69	549,626.00	
	PUBLIC SERVICE ENTERPRISE GP	70,100	39.48	2,767,548.00	
	WESTAR ENERGY INC	20,100	38.39	771,639.00	
	米ドル 小計	2,362,025		151,205,319.32 (17,606,347,381)	
カナダドル	IMPERIAL OIL LTD	89,500	54.25	4,855,375.00	
	METHANEX CORP	17,700	64.60	1,143,420.00	
	QUEBECOR INC -CL B	28,400	29.58	840,072.00	
	BANK OF NOVA SCOTIA	12,800	68.66	878,848.00	
	NATIONAL BANK OF CANADA	17,200	54.61	939,292.00	
	BCE INC	32,900	52.87	1,739,423.00	
	カナダドル 小計	198,500		10,396,430.00 (1,072,391,754)	
ユーロ	MAUREL ET PROM	104,685	8.64	905,420.56	
	TOTAL SA	41,587	45.57	1,895,327.52	
	AKZO NOBEL	19,425	53.53	1,039,820.25	
	HOCHTIEF AG	6,900	57.48	396,612.00	
	OESTERREICHISCHE POST AG	7,596	39.21	297,839.16	
	POSTNL NV	181,998	2.96	539,078.07	
	PROSIEBEN SAT.1 MEDIA AG-REG	92,206	32.64	3,010,064.87	
	CARREFOUR SA	74,500	24.03	1,790,607.50	
	SUEDZUCKER AG	103,001	12.57	1,294,722.57	
	DEUTSCHE ANNINGTON IMMOBILIEN	113,511	24.94	2,830,964.34	
	CAP GEMINI SA	61,505	55.02	3,384,005.10	
	ユーロ 小計	806,914		17,384,461.94 (2,536,740,686)	
英ポンド	DRAGON OIL PLC	278,348	5.29	1,472,460.92	
	RIO TINTO PLC	40,944	30.40	1,244,697.60	

	MELROSE INDUSTRIES PLC	101,500	2.62	266,437.50	
	BERENDSEN PLC	76,191	9.54	726,862.14	
	CARNIVAL PLC	20,232	26.00	526,032.00	
	BRITISH SKY BROADCASTING PLC	127,340	8.47	1,079,206.50	
	MARKS & SPENCER GROUP PLC	777,913	4.69	3,648,411.97	
	BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	9,697	36.58	354,764.74	
	IMPERIAL TOBACCO GROUP PLC	97,836	28.47	2,785,390.92	
	TATE & LYLE PLC	60,296	6.44	388,306.24	
	ASTRAZENECA PLC	61,453	46.55	2,860,944.41	
	英ポンド 小計	1,651,750		15,353,514.94 (2,803,551,828)	
スイスフラン	PARGESA HOLDING SA-BR	7,564	75.20	568,812.80	
	SWISS RE AG	26,379	80.85	2,132,742.15	
	ZURICH FINANCIAL SERVICES AG	11,108	291.50	3,237,982.00	
	スイスフラン 小計	45,051		5,939,536.95 (721,416,157)	
スウェーデン クローネ	BILLERUDKORSNAS AB	45,765	107.70	4,928,890.50	
	SVENSKA CELLULOSA AB-B SHS	88,164	170.00	14,987,880.00	
	スウェーデンクローネ 小計	133,929		19,916,770.50 (314,087,470)	
ノルウェーク ローネ	KONGSBERG GRUPPEN ASA	40,987	133.50	5,471,764.50	
	ノルウェークローネ 小計	40,987		5,471,764.50 (94,387,937)	
デンマークク ローネ	DSV A/S	51,133	179.60	9,183,486.80	
	デンマーククローネ 小計	51,133		9,183,486.80 (180,088,176)	
オーストラリ アドル	BEACH ENERGY LTD	1,746,124	1.06	1,859,622.06	
	CHALLENGER LTD	255,619	6.79	1,735,653.01	
	オーストラリアドル 小計	2,001,743		3,595,275.07 (366,861,868)	
ニュージーラ ンドドル	SPARK NEW ZEALAND LTD	341,964	3.27	1,118,222.28	
	ニュージーランドドル 小計	341,964		1,118,222.28 (103,502,654)	
香港ドル	HONGKONG & SHANGHAI HOTELS	466,600	12.12	5,655,192.00	
	HSBC HOLDINGS PLC HKD	303,774	77.85	23,648,805.90	
	CHEUNG KONG HOLDINGS LTD	164,100	140.40	23,039,640.00	
	HYSAN DEVELOPMENT CO	187,500	36.85	6,909,375.00	
	KERRY PROPERTIES LTD	130,200	26.75	3,482,850.00	
	SWIRE PROPERTIES LTD	286,400	25.05	7,174,320.00	

香港ドル 小計		1,538,574		69,910,182.90 (1,050,050,947)
シンガポール ドル	JARDINE CYCLE & CARRIAGE LTD	31,000	40.50	1,255,500.00
	UOL GROUP LTD	107,000	6.51	696,570.00
シンガポールドル 小計		138,000		1,952,070.00 (175,334,927)
合 計		9,310,570		27,024,761,785 (27,024,761,785)

(注1)通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

(注3)外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入株式 時価比率	合計金額に 対する比率
米ドル	株式 56銘柄	63.0%	65.1%
カナダドル	株式 6銘柄	3.8%	4.0%
ユーロ	株式 11銘柄	9.1%	9.4%
英ポンド	株式 11銘柄	10.0%	10.4%
スイスフラン	株式 3銘柄	2.6%	2.7%
スウェーデンクローネ	株式 2銘柄	1.1%	1.2%
ノルウェークローネ	株式 1銘柄	0.3%	0.3%
デンマーククローネ	株式 1銘柄	0.6%	0.7%
オーストラリアドル	株式 2銘柄	1.3%	1.3%
ニュージーランドドル	株式 1銘柄	0.4%	0.4%
香港ドル	株式 6銘柄	3.8%	3.9%
シンガポールドル	株式 2銘柄	0.6%	0.6%

株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

「J A 海外債券マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

(1) 貸借対照表

	平成25年11月18日現在	平成26年11月17日現在
	金額（円）	金額（円）
資産の部		
流動資産		
預金	529,696,718	855,211,922
コール・ローン	131,103,811	86,514,262
国債証券	15,637,432,670	18,062,960,730
地方債証券	50,297,594	-
特殊債券	126,970,788	136,165,539
社債券	1,132,709,611	1,224,310,009
派生商品評価勘定	83,898,600	246,802,235
未収入金	219,954,084	252,728,329
未収利息	120,121,991	129,360,291
前払費用	12,648,999	30,142,940
流動資産合計	18,044,834,866	21,024,196,257
資産合計	18,044,834,866	21,024,196,257
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	67,408,537	232,154,497
未払金	279,197,893	200,946,702
未払解約金	8,443,556	4,777,666
流動負債合計	355,049,986	437,878,865
負債合計	355,049,986	437,878,865
純資産の部		
元本等		
元本	7,267,959,318	7,076,460,982
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	10,421,825,562	13,509,856,410
元本等合計	17,689,784,880	20,586,317,392
純資産合計	17,689,784,880	20,586,317,392
負債純資産合計	18,044,834,866	21,024,196,257

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価は以下のいずれかから入手した価額によっております。 日本証券業協会発表の店頭売買参考統計値（平均値） 金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用いたしません。） 価格情報会社の提供する価額</p>
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引 原則として、わが国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値で評価しております。</p>
3. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	<p>信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。</p>
4. 収益及び費用の計上基準	<p>有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。 派生商品取引等損益 約定日基準で計上しております。</p>
5. その他	<p>外貨建取引等の会計処理 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

項目	平成25年11月18日現在	平成26年11月17日現在
1. 投資信託財産に係る元本の状況		
本書における開示対象ファンドの期首	平成24年11月17日	平成25年11月19日
同期首元本額	8,189,318,602円	7,267,959,318円
同期中追加設定元本額	193,977,057円	402,067,869円
同期中一部解約元本額	1,115,336,341円	593,566,205円
元本の内訳		
JA 海外債券ファンド	155,317,862円	131,313,477円
JA 資産設計ファンド（安定型）	12,677,966円	8,176,724円
JA 資産設計ファンド（成長型）	30,985,835円	25,990,240円
JA 資産設計ファンド（積極型）	35,422,896円	27,076,987円
JA 海外債券ファンド（隔月分配型）	81,395,549円	57,004,483円
JA 海外債券私募ファンド（適格機関投資家専用）	5,870,445,786円	5,700,266,593円
JA グローバルバランス私募ファンド（適格機関投資家専用）	1,081,713,424円	1,126,632,478円
合計	7,267,959,318円	7,076,460,982円
2. 本書における開示対象ファンドの計算期間の末日における受益権の総数	7,267,959,318口	7,076,460,982口
3. 一口当たり純資産額 （一万口当たり純資産額）	2.4339円 (24,339円)	2.9091円 (29,091円)

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日	自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日
1．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2．金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権等であります。 当ファンドが保有する有価証券は、全て売買目的で保有しており、デリバティブ取引は、ヘッジ目的以外にも利用する場合があります。また、これらの詳細は「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）有価証券の評価基準及び評価方法、デリバティブ等の評価基準及び評価方法」に記載しております。 当該金融商品は、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク、カントリーリスク、流動性リスク等に晒されています。	同左
3．金融商品に係るリスクの管理体制	フロント部門では、国別配分・通貨配分等のリスク配分の分散状況を管理しています。また、投資ガイドラインや個別ファンド運用会議で決められた方針の範囲内となるよう、管理を行っております。 ミドル部門は、ファンド運用状況の日々のモニタリングや定期的なフィードバックを行ないフロント部門を牽制しております。法令等のルールや組織的に決定された運用計画に従って運用されるよう、日常的な管理を行うほか、運用管理会議を開催してこれらの遵守状況を検証しております。また、各種運用リスクとパフォーマンスの計測・管理を行うほか、運用リスク管理会議を開催してこれらの管理状況を検証しております。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	平成25年11月18日現在	平成26年11月17日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	<p>国債証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。</p> <p>地方債証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。</p> <p>特殊債券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。</p> <p>社債券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。</p> <p>為替予約取引 「（デリバティブ取引等に関する注記）」に記載しております。</p> <p>コール・ローン等の金銭債権 短期で決済されるため、帳簿価額を時価としております。</p>	<p>国債証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。</p> <p>特殊債券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。</p> <p>社債券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。</p> <p>為替予約取引 「（デリバティブ取引等に関する注記）」に記載しております。</p> <p>コール・ローン等の金銭債権 短期で決済されるため、帳簿価額を時価としております。</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

（自 平成24年11月17日 至 平成25年11月18日）

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	92,364,363
地方債証券	4,630
特殊債券	568,837
社債券	3,169,981
合計	96,107,811

（自 平成25年11月19日 至 平成26年11月17日）

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	116,926,501
特殊債券	311,685
社債券	5,253,959
合計	122,492,145

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

(通貨関連)

(平成25年11月18日現在)

(単位：円)

区分	種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建				
	米ドル	2,190,267,017	-	2,242,953,797	52,686,780
	カナダドル	186,528,851	-	191,427,650	4,898,799
	メキシコペソ	25,785,282	-	26,660,000	874,718
	ユーロ	179,184,271	-	182,349,703	3,165,432
	英ポンド	389,499,933	-	399,625,220	10,125,287
	スイスフラン	77,087,774	-	77,204,550	116,776
	スウェーデン	27,984,299	-	27,472,610	511,689
	クローネ				
	ノルウェーク	56,975,291	-	56,523,800	451,491
	ローネ				
	デンマークク	9,852,082	-	9,893,520	41,438
	ローネ				
	ポーランドズ	28,585,568	-	28,699,110	113,542
	ロチ				
	オーストラリ	274,323,002	-	275,379,370	1,056,368
	アドル				
	シンガポール	318,051,949	-	325,340,210	7,288,261
	ドル				
	南アフリカラ	11,019,488	-	10,922,400	97,088
	ンド				
	売建				
	米ドル	1,584,877,790	-	1,626,489,077	41,611,287
	カナダドル	43,370,600	-	43,702,750	332,150
	メキシコペソ	60,009,400	-	61,457,500	1,448,100
	ユーロ	1,022,391,890	-	1,029,589,890	7,198,000
	英ポンド	103,983,000	-	106,609,800	2,626,800
スイスフラン	130,571,800	-	131,412,000	840,200	
スウェーデン	122,453,152	-	120,547,190	1,905,962	
クローネ					
ノルウェーク	78,490,000	-	77,546,400	943,600	
ローネ					
デンマークク	1,582,875	-	1,585,500	2,625	
ローネ					
オーストラリ	106,798,050	-	107,034,600	236,550	
アドル					
シンガポール	520,616,250	-	531,987,170	11,370,920	
ドル					

合計	7,550,289,614	-	7,692,413,817	16,490,063
----	---------------	---	---------------	------------

(平成26年11月17日現在)

(単位:円)

区分	種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建				
	米ドル	2,339,917,319	-	2,503,224,954	163,307,635
	ユーロ	938,852,711	-	999,989,760	61,137,049
	英ポンド	108,645,734	-	109,170,880	525,146
	スイスフラン	114,434,919	-	120,245,400	5,810,481
	スウェーデン				
	クローネ	5,137,314	-	5,487,960	350,646
	ポーランドズ				
	ロチ	19,244,872	-	20,698,440	1,453,568
	オーストラリ				
	アドル	348,233,309	-	360,052,080	11,818,771
	ニュージーラ				
	ンドドル	62,519,534	-	63,143,350	623,816
	南アフリカラ				
	ンド	24,727,845	-	26,420,080	1,692,235
	売建				
	米ドル	1,621,796,238	-	1,710,893,508	89,097,270
	カナダドル	30,033,000	-	30,933,000	900,000
	メキシコペソ	87,879,900	-	93,029,700	5,149,800
	ユーロ	392,426,340	-	409,159,680	16,733,340
	英ポンド	866,803,519	-	912,497,558	45,694,039
	スウェーデン				
	クローネ	30,105,600	-	30,909,200	803,600
	ノルウェーク				
	ローネ	43,857,500	-	45,686,000	1,828,500
	デンマークク				
ローネ	6,148,220	-	6,628,180	479,960	
ポーランドズ					
ロチ	17,832,400	-	18,769,800	937,400	
オーストラリ					
アドル	397,975,440	-	432,327,540	34,352,100	
ニュージーラ					
ンドドル	173,874,200	-	190,447,000	16,572,800	
シンガポール					
ドル	292,981,200	-	312,504,000	19,522,800	
合計	7,923,427,114	-	8,402,218,070	14,647,738	

(注) 時価の算定方法

1. 本書における開示対象ファンドの計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

本書における開示対象ファンドの計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該仲値で評価しております。

本書における開示対象ファンドの計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 本書における開示対象ファンドの計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち受渡日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
- ・ 本書における開示対象ファンドの計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合には、発表されているもので為替予約の受渡日に最も近い先物相場の仲値で評価しております。

2. 本書における開示対象ファンドの計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、本書における開示対象ファンドの計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

上記取引で、ヘッジ会計が適用されているものではありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(3) 附属明細表

第 1 有価証券明細表
株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

通貨	種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考	
米ドル	国債証券	T-BOND 2.75 421115	185,000.00	174,434.76		
		T-BOND 2.875 430515	570,000.00	550,584.37		
		T-BOND 3.625 430815	2,765,000.00	3,076,926.55		
		T-BOND 3.625 440215	1,655,000.00	1,842,092.56		
		T-BOND 4.5 360215	1,880,000.00	2,393,474.98		
		T-NOTE 0.75 171231	1,585,000.00	1,571,007.42		
		T-NOTE 0.875 161231	15,295,000.00	15,378,644.53		
		T-NOTE 1.0 190930	7,950,000.00	7,727,027.37		
		T-NOTE 1.5 180831	6,400,000.00	6,446,000.00		
		T-NOTE 1.625 190331	3,870,000.00	3,892,978.12		
		T-NOTE 2.5 240515	6,755,000.00	6,869,518.38		
		国債証券 小計		48,910,000.00	49,922,689.04 (5,812,997,911)	
		社債券	ANHEUSER 5.5 180115	205,000.00	229,046.50	
			BAC 2.65 190401	400,000.00	403,120.00	
			BP CAPITAL 2.241 180926	500,000.00	504,000.00	
			CHEVRON 1.104 171205	445,000.00	441,840.50	
			ELI LILLY&CO 1.95 190315	430,000.00	429,441.00	
			GEN ELEC CO 5.25 171206	525,000.00	580,965.00	
			GEN ELECTRIC 0.85 151009	300,000.00	301,320.00	
			GEORGIAPOWER 0.75 150810	550,000.00	551,009.36	
			GLAXOSMITH 1.5 170508	425,000.00	427,656.25	
			GOLDMAN 6.15 180401	400,000.00	451,080.00	
			HESS CORP 1.3 170615	155,000.00	153,667.00	
			IBM 0.55 150206	520,000.00	520,342.31	
			MERCK & CO 1.3 180518	310,000.00	307,427.00	
			NORTHEAST 1.45 180501	255,000.00	251,689.08	
			PEPSICO INC 0.75 150305	1,050,000.00	1,051,260.00	
	PEPSICO INC 2.5 160510		530,000.00	544,301.57		
	PHILIP MORRIS 2.5 160516	525,000.00	538,807.50			
	TOYOTA 1.375 180110	400,000.00	398,440.00			
	TRANSCANADA 0.75 160115	450,000.00	449,956.12			
	TRANSCANADA 0.875 150302	520,000.00	520,712.24			
	VW CREDIT 1.875 161013	526,000.00	533,890.00			
	社債券 小計		9,421,000.00	9,589,971.43 (1,116,656,273)		

米ドル小計			58,331,000.00	59,512,660.47 (6,929,654,184)
カナダドル	国債証券	CAN GOV 1.25 160201	1,400,000.00	1,404,186.00
		CAN GOV 1.5 230601	315,000.00	304,157.70
		CAN GOV 1.75 190901	1,295,000.00	1,308,986.00
		CAN GOV 2.5 240601	350,000.00	363,895.00
		CAN GOV 3.5 451201	85,000.00	101,320.00
		CAN GOV 4.0 410601	145,000.00	183,693.25
		CAN GOV 5.75 330601	665,000.00	986,361.25
カナダドル小計			4,255,000.00	4,652,599.20 (479,915,607)
メキシコペソ	国債証券	MBONO 7.5 270603	9,240,700.00	10,214,669.78
		MBONO 8.0 200611	14,638,700.00	16,578,327.75
メキシコペソ小計			23,879,400.00	26,792,997.53 (230,419,778)
ユーロ	国債証券	AUSTRIA 1.15 181019	275,000.00	286,742.50
		AUSTRIA 1.65 241021	140,000.00	148,806.00
		AUSTRIA 1.75 231020	215,000.00	232,157.00
		AUSTRIA 3.15 440620	350,000.00	456,155.00
		AUSTRIA 3.5 150715	700,000.00	716,149.00
		AUSTRIA 3.65 220420	515,000.00	629,484.50
		BELGIUM 1.25 180622	475,000.00	495,092.50
		BELGIUM 2.6 240622	385,000.00	437,764.63
		BELGIUM 3.25 160928	985,000.00	1,044,671.30
		BELGIUM 3.5 170628	300,000.00	327,360.00
		BELGIUM 3.75 200928	681,000.00	815,565.60
		BELGIUM 4.25 410328	65,000.00	92,644.50
		BELGIUM 5.0 350328	610,000.00	921,405.00
		BTAN 1.0 170725	505,000.00	518,332.00
		BTPS 1.15 170515	560,000.00	566,328.00
		BTPS 2.5 190501	3,455,000.00	3,666,446.00
		BTPS 2.75 161115	1,765,000.00	1,839,588.90
		BTPS 3.5 300301	1,875,000.00	1,993,125.00
		BTPS 3.75 240901	1,085,000.00	1,219,540.00
		BTPS 4.0 370201	875,000.00	953,400.00
		BTPS 4.75 210901	93,000.00	111,097.80
		BTPS 4.75 440901	225,000.00	267,750.00
		BTPS 5.0 220301	885,000.00	1,073,416.50
		BTPS 5.5 220901	870,000.00	1,089,153.00
BTPS 5.5 221101	750,000.00	939,900.00		
BUND 1.5 240515	2,965,000.00	3,168,992.00		
BUND 2.5 440704	740,000.00	881,932.00		
BUND 3.5 190704	1,185,000.00	1,374,185.25		

	BUND 4.75 340704	915,000.00	1,422,550.50	
	BUND 5.50 310104	150,000.00	240,615.00	
	FINNISH 1.5 230415	300,000.00	318,630.00	
	FINNISH 4.375 190704	650,000.00	776,490.00	
	IRISH 3.4 240318	275,000.00	317,625.00	
	IRISH 4.5 181018	770,000.00	889,619.50	
	NETHER 1.25 190115	955,000.00	1,000,696.75	
	NETHER 2.0 240715	860,000.00	944,108.00	
	NETHER 3.75 420115	215,000.00	311,578.00	
	NETHER 4.0 370115	360,000.00	520,632.00	
	OAT 0.5 191125	1,560,000.00	1,577,472.00	
	OAT 1.0 181125	960,000.00	991,872.00	
	OAT 1.0 190525	2,600,000.00	2,694,120.00	
	OAT 1.75 241125	505,000.00	533,835.50	
	OAT 2.25 240525	2,175,000.00	2,412,075.00	
	OAT 2.5 300525	840,000.00	923,496.00	
	OAT 3.25 450525	510,000.00	623,628.00	
	OAT 4.0 600425	220,000.00	318,120.00	
	OAT 4.75 350425	755,000.00	1,108,189.00	
	OAT 5.0 161025	1,740,000.00	1,908,606.00	
	OBL 0.5 190412	1,180,000.00	1,203,128.00	
	OBL 1.0 190222	400,000.00	416,440.00	
	SPA GOVT 2.75 190430	840,000.00	904,848.00	
	SPA GOVT 2.75 241031	595,000.00	627,308.50	
	SPA GOVT 3.3 160730	705,000.00	739,122.00	
	SPA GOVT 4.2 370131	95,000.00	109,411.50	
	SPA GOVT 4.5 180131	1,080,000.00	1,207,764.00	
	SPA GOVT 4.7 410730	525,000.00	644,542.50	
	SPA GOVT 5.5 210430	1,235,000.00	1,548,134.25	
	SPA GOVT 5.85 220131	480,000.00	620,448.00	
	SPA GOVT 6.0 290131	625,000.00	857,812.50	
	国債証券 小計	48,604,000.00	54,980,101.48 (8,022,696,407)	
特殊債券	CADES 1.875 150216	400,000.00	401,600.00	
	EURO UNION 3.25 180404	480,000.00	531,552.00	
	特殊債券 小計	880,000.00	933,152.00 (136,165,539)	
社債券	MCDONALD'S 4.25 160610	400,000.00	424,040.00	
	社債券 小計	400,000.00	424,040.00 (61,875,916)	
ユーロ小計		49,884,000.00	56,337,293.48 (8,220,737,862)	
英ポンド	国債証券 GILT 1.0 170907	605,000.00	606,300.75	

		GILT 1.75 190722	2,545,000.00	2,579,612.00	
		GILT 2.0 200722	1,000,000.00	1,019,710.00	
		GILT 2.00 160122	615,000.00	625,621.05	
		GILT 2.75 240907	2,990,000.00	3,146,975.00	
		GILT 3.25 440122	1,350,000.00	1,444,851.00	
		GILT 3.5 450122	215,000.00	240,198.00	
		GILT 3.75 520722	410,000.00	492,750.30	
		GILT 4.25 271207	665,000.00	805,068.95	
		GILT 4.25 360307	1,100,000.00	1,360,590.00	
		国債証券 小計	11,495,000.00	12,321,677.05 (2,249,938,229)	
	社債券	VOLKSWAGEN 1.25 160523	250,000.00	250,700.00	
		社債券 小計	250,000.00	250,700.00 (45,777,820)	
英ポンド小計			11,745,000.00	12,572,377.05 (2,295,716,049)	
スイスフラン	国債証券	SWISS 1.5 420430	80,000.00	88,704.00	
		SWISS 2.0 220525	280,000.00	317,744.00	
スイスフラン小計			360,000.00	406,448.00 (49,367,174)	
スウェーデンクローネ	国債証券	SWEDEN 1.5 231113	1,910,000.00	1,990,678.40	
		SWEDEN 4.25 190312	4,180,000.00	4,896,911.80	
スウェーデンクローネ小計			6,090,000.00	6,887,590.20 (108,617,297)	
ノルウェークローネ	国債証券	NORWAY GOV 4.5 190522	3,610,000.00	4,088,325.00	
ノルウェークローネ小計			3,610,000.00	4,088,325.00 (70,523,606)	
デンマーククローネ	国債証券	DENMARK 1.5 231115	1,305,000.00	1,392,826.50	
		DENMARK 2.5 161115	2,265,000.00	2,379,767.55	
		DENMARK 4.0 191115	2,125,000.00	2,530,025.00	
		DENMARK 4.5 391115	1,460,000.00	2,304,697.60	
デンマーククローネ小計			7,155,000.00	8,607,316.65 (168,789,479)	
ポーランドズロチ	国債証券	POLGB 4.0 231025	480,000.00	532,320.00	
		POLGB 5.5 191025	2,650,000.00	3,061,280.00	
ポーランドズロチ小計			3,130,000.00	3,593,600.00 (123,871,392)	
オーストラリアドル	国債証券	AUD GOV 2.75 240421	1,140,000.00	1,086,192.00	
		AUD GOV 3.25 290421	185,000.00	177,119.00	
		AUD GOV 4.75 160615	670,000.00	692,445.00	

		AUD GOV 5.25 190315	1,495,000.00	1,645,845.50	
		AUD GOV 5.5 180121	340,000.00	369,172.00	
オーストラリアドル小計			3,830,000.00	3,970,773.50	(405,177,727)
シンガ ポールド ル	国債証券	SINGAPORE 2.375 170401	1,885,000.00	1,966,903.25	
		SINGAPORE 3.125 220901	820,000.00	883,632.00	
シンガポールドル小計			2,705,000.00	2,850,535.25	(256,035,076)
南アフリ カランド	国債証券	SOUTH AFRICA 8.0 300131	8,275,000.00	8,058,195.00	
南アフリカランド小計			8,275,000.00	8,058,195.00	(84,611,047)
合計				19,423,436,278	(19,423,436,278)

(注1)通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

(注3)外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入債券 時価比率	合計金額に 対する比率
米ドル	国債証券 11銘柄	28.2%	29.9%
	社債券 21銘柄	5.4%	5.7%
カナダドル	国債証券 7銘柄	2.3%	2.5%
メキシコペソ	国債証券 2銘柄	1.1%	1.2%
ユーロ	国債証券 59銘柄	39.0%	41.3%
	特殊債券 2銘柄	0.7%	0.7%
	社債券 1銘柄	0.3%	0.3%
英ポンド	国債証券 10銘柄	10.9%	11.6%
	社債券 1銘柄	0.2%	0.2%
スイスフラン	国債証券 2銘柄	0.2%	0.3%
スウェーデンクローネ	国債証券 2銘柄	0.5%	0.6%
ノルウェークローネ	国債証券 1銘柄	0.3%	0.4%
デンマーククローネ	国債証券 4銘柄	0.8%	0.9%
ポーランドズロチ	国債証券 2銘柄	0.6%	0.6%
オーストラリアドル	国債証券 5銘柄	2.0%	2.1%
シンガポールドル	国債証券 2銘柄	1.2%	1.3%
南アフリカランド	国債証券 1銘柄	0.4%	0.4%

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

当表に記載すべき内容は、「(2)注記表(デリバティブ取引等に関する注記)」に開示しておりますので、記載を省略しております。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

J A 資産設計ファンド（安定型）

（平成26年12月30日現在）

資産総額	474,156,285円
負債総額	5,120,176円
純資産総額（ - ）	469,036,109円
発行済口数	366,735,547口
1万口当たり純資産額（ / ）	12,789円

J A 資産設計ファンド（成長型）

（平成26年12月30日現在）

資産総額	718,012,900円
負債総額	1,014,804円
純資産総額（ - ）	716,998,096円
発行済口数	506,517,845口
1万口当たり純資産額（ / ）	14,155円

J A 資産設計ファンド（積極型）

（平成26年12月30日現在）

資産総額	803,278,326円
負債総額	1,514,821円
純資産総額（ - ）	801,763,505円
発行済口数	545,190,815口
1万口当たり純資産額（ / ）	14,706円

（参考）

J A 日本株式マザーファンド

純資産額計算書

（平成26年12月30日現在）

資産総額	23,560,584,534円
負債総額	354,894,335円
純資産総額（ - ）	23,205,690,199円
発行済口数	17,146,111,521口
1万口当たり純資産額（ / ）	13,534円

J A 日本債券マザーファンド

純資産額計算書

(平成26年12月30日現在)

資産総額	58,919,632,330円
負債総額	3,638,145,265円
純資産総額(-)	55,281,487,065円
発行済口数	41,674,553,810口
1万口当たり純資産額(/)	13,265円

J A 海外株式マザーファンド

純資産額計算書

(平成26年12月30日現在)

資産総額	28,812,256,742円
負債総額	295,155,138円
純資産総額(-)	28,517,101,604円
発行済口数	12,120,876,325口
1万口当たり純資産額(/)	23,527円

J A 海外債券マザーファンド

純資産額計算書

(平成26年12月30日現在)

資産総額	21,230,929,387円
負債総額	105,305,145円
純資産総額(-)	21,125,624,242円
発行済口数	7,032,708,706口
1万口当たり純資産額(/)	30,039円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

（1）受益証券の名義書換手続き

該当事項はありません。

ファンドの受益権は、振替受益権となり、委託者は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

（2）受益者に対する特典

該当事項はありません。

（3）受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託者は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

（4）受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

（5）受益権の再分割

社振法に定めるところにしたがい、受託者と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

（6）償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に支払います。

（7）質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額（平成26年12月30日現在）

34億2千万円

発行する株式の総数：116,400株（普通株式101,400株、A種種類株式15,000株）

発行済株式総数：53,400株（普通株式38,400株、A種種類株式15,000株）

最近5年間における資本金の額の増減

・平成24年7月26日 A種種類株式15,000株を発行し15億円増資（資本金34億2千万円）

（注）A種種類株式は議決権を有しません。

(2) 委託会社等の機構

a. 委託会社等の機構（委託会社等の意思決定機構）

定款に基づき、10名以内の取締役が、株主総会において選任されます。取締役の選任は、総株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもってこれを行い、累積投票によらないものとします。

取締役の任期は、就任後2年内の最終の決算期に関する定時株主総会の終結のときまでとし、補欠により選任された取締役の任期は、退任者の残存期間とします。

取締役会はその決議をもって、取締役の中より取締役社長1名を置くとともに、取締役会長、取締役副社長、専務取締役および常務取締役若干名を選任することができます。また取締役の中より代表取締役を選任します。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、代表取締役が招集し、議長となります。代表取締役に事故がある時は、あらかじめ取締役会の定めた順序により、他の取締役がこれに代わります。取締役会の招集通知は、開催日の3日前までに発することとします。また、取締役および監査役全員の同意がある場合は、招集の手続きを経ないで取締役会を開催することができます。

取締役会は、法令または定款に定められた事項を決議します。その決議は、取締役の過半数が出席し、その出席取締役の過半数をもって行います。

b. 運用プロセス（投資運用の意思決定機構）

運用に関する会議等

1. 投資戦略委員会

原則として月1回以上開催し、投資環境や市場動向等を踏まえ、最適な資産配分を決定します。

2. 資産ポートフォリオ委員会

原則として月1回以上開催し、個別資産毎にセクター、スタイル、ファクター等のリスク配分を決定します。

3. 銘柄会議

必要に応じ開催し、ポートフォリオ構築に必要な銘柄の相対的な優位性等を決定します。

4. 個別ファンド運用会議

運用担当役員が、特に必要と認めたファンドの運用方針を、個別に審議し決定します。

5. 運用リスク管理会議

原則として月1回開催し、ファンド運用資産に係るリスクを的確に把握・管理することを目的に、運用リスクや運用パフォーマンスの状況について報告・審議を行います。

6. 運用管理会議

原則として月1回開催し、ファンドの法令等（法令、協会ルール、信託約款等）の遵守状況の検証および運用計画と実績の検証を行います。

運用の流れ

1．運用方針の決定

経済環境や市場環境等グローバルな投資情報の分析等に基づき、最適な資産配分を決定した後、個別資産毎のリスク配分および資産構成銘柄等を組織的な意思決定プロセスを通じて決定しています。

2．運用の実践

ファンドマネージャーは、ファンド毎のリスク許容度やガイドライン等を考慮しながら、上記決定を受けた運用方針に基づいた運用を行います。

3．運用状況の評価

ファンドの運用状況については、運用リスク管理会議や運用管理会議による運用状況等の評価を通じ、最適な投資行動を実践しているかの確認を行っています。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託者は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務および第二種金融商品取引業を行っています。

平成26年12月30日現在、委託者が運用を行っている証券投資信託は以下のとおりです。

種別（基本的性格）	本数	純資産総額
株式投資信託	128本	2,430,621百万円
公社債投資信託	2本	119,306百万円
合計	130本	2,549,928百万円

3【委託会社等の経理状況】

1．当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により、作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。以下「中間財務諸表等規則」という。）、ならびに同規則第38条第1項及び第57条第1項の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。

2．当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第22期中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の中間財務諸表については新日本有限責任監査法人の中間監査を受けております。

1. 財務諸表

(1) 【貸借対照表】

区分	注記 番号	前事業年度 (平成25年3月31日)		当事業年度 (平成26年3月31日)	
		金額 (千円)		金額 (千円)	
(資産の部)					
流動資産					
現金及び預金	1	4,857,868		3,585,705	
分別金信託		10,000		10,000	
1年内償還予定のその他の関係会 社有価証券		750,000		1,000,000	
前払費用		73,545		83,049	
未収委託者報酬		425,911		604,176	
未収運用受託報酬		208,432		192,526	
未収投資助言報酬		74,270		103,074	
未収収益		9,059		7,780	
繰延税金資産		73,927		79,274	
その他		870		3,575	
流動資産計		6,483,885		5,669,161	
固定資産					
有形固定資産		151,483		135,569	
建物	2	120,705		110,174	
器具備品	2	30,777		25,394	
無形固定資産		7,104		7,066	
電話加入権等		7,104		7,066	
投資その他の資産		7,773,192		7,846,903	
投資有価証券		611,734		694,440	
その他の関係会社有価証券		7,000,000		7,000,000	
長期差入保証金		83,764		82,164	
長期前払費用		1,036		1,702	
会員権		6,700		6,700	
繰延税金資産		44,242		36,179	
その他		25,715		25,715	
固定資産計		7,931,780		7,989,538	
資産合計		14,415,666		13,658,700	

区分	注記 番号	前事業年度 (平成25年3月31日)		当事業年度 (平成26年3月31日)	
		金額 (千円)		金額 (千円)	
(負債の部)					
流動負債					
預り金			2,973,900		1,307,972
未払金			181,102		264,716
未払収益分配金		13		13	
未払償還金		3,132		3,132	
未払手数料		173,122		257,468	
その他未払金		4,832		4,101	
未払費用			71,347		81,053
未払法人税等			205,433		344,876
未払消費税等			30,144		45,191
賞与引当金			123,641		126,797
流動負債計			3,585,569		2,170,607
固定負債					
退職給付引当金			123,920		122,305
役員退任慰労引当金			40,700		37,600
固定負債計			164,620		159,905
負債合計			3,750,189		2,330,512
(純資産の部)					
株主資本					
資本金			3,420,000		3,420,000
資本剰余金					
資本準備金		1,500,000		1,500,000	
資本剰余金計			1,500,000		1,500,000
利益剰余金					
利益準備金		74,040		74,040	
その他利益剰余金		5,634,748		6,284,575	
別途積立金		5,305,000		5,505,000	
繰越利益剰余金		329,748		779,575	
利益剰余金計			5,708,788		6,358,615
株主資本計			10,628,788		11,278,615
評価・換算差額等					
その他有価証券評価差額金			36,688		49,572
評価・換算差額等計			36,688		49,572
純資産合計			10,665,476		11,328,188
負債純資産合計			14,415,666		13,658,700

（２）【損益計算書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日)	
		金額 (千円)		金額 (千円)	
営業収益					
委託者報酬			2,276,792		3,357,672
運用受託報酬			863,879		1,017,193
投資助言報酬			132,965		188,093
営業収益計			3,273,636		4,562,958
営業費用					
支払手数料			361,966		553,412
広告宣伝費			350		13,498
調査費			601,037		973,290
調査費		318,604		389,080	
委託調査費		280,426		582,044	
図書費		2,006		2,165	
委託計算費			122,246		132,977
営業雑経費			59,451		56,236
通信費		20,701		20,579	
印刷費		25,623		23,710	
協会費		6,484		7,947	
諸会費		1,216		1,482	
その他営業雑経費		5,425		2,516	
営業費用計			1,145,051		1,729,414
一般管理費					
給料			1,040,156		1,080,977
役員報酬		84,042		85,618	
給料・手当		688,933		727,876	
賞与		128,239		126,384	
賞与引当金繰入額		123,641		126,797	
役員退任慰労引当金繰入額		15,300		14,300	
福利厚生費			137,983		144,015
交際費			10,538		9,142
旅費交通費			20,124		22,475
租税公課			36,606		29,721
不動産賃借料			161,753		161,753
賃借料			178		11
退職給付費用			19,226		19,558
固定資産減価償却費			30,190		22,368
業務委託費			197,727		237,897
諸経費			92,721		84,000
一般管理費計			1,747,208		1,811,921
営業利益			381,376		1,021,623

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日)	
		金額 (千円)		金額 (千円)	
営業外収益					
受取配当金			4,512		34,001
有価証券利息	1		40,145		43,192
受取利息			473		371
投資有価証券売却益			17,762		-
還付加算金			5		-
その他			1,154		51
営業外収益計			64,053		77,617
営業外費用					
支払利息	1		6,083		9,143
投資有価証券売却損			13,038		-
投資有価証券償還損			3,526		639
その他			0		0
営業外費用計			22,648		9,783
經常利益			422,781		1,089,457
特別損失					
固定資産除却損	2		194		173
会員権評価損			5,974		-
特別損失計			6,169		173
税引前当期純利益			416,612		1,089,284
法人税、住民税及び事業税			192,531		422,230
法人税等調整額			16,670		3,473
法人税等合計			175,860		418,756
当期純利益			240,752		670,527

（ 3 ） 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：千円）

項目	株主資本							株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
					別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	1,920,000			74,040	5,305,000	88,996	5,468,036	7,388,036
当期変動額								
新株の発行	1,500,000	1,500,000	1,500,000					3,000,000
当期純利益						240,752	240,752	240,752
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計	1,500,000	1,500,000	1,500,000			240,752	240,752	3,240,752
当期末残高	3,420,000	1,500,000	1,500,000	74,040	5,305,000	329,748	5,708,788	10,628,788

項目	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	54,195	54,195	7,333,841
当期変動額			
新株の発行			3,000,000
当期純利益			240,752
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	90,883	90,883	90,883
当期変動額合計	90,883	90,883	3,331,635
当期末残高	36,688	36,688	10,665,476

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：千円）

項目	株主資本							株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
					別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	3,420,000	1,500,000	1,500,000	74,040	5,305,000	329,748	5,708,788	10,628,788
当期変動額								
剰余金の配当						20,700	20,700	20,700
別途積立金の積立					200,000	200,000		
当期純利益						670,527	670,527	670,527
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計					200,000	449,827	649,827	649,827
当期末残高	3,420,000	1,500,000	1,500,000	74,040	5,505,000	779,575	6,358,615	11,278,615

項目	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	36,688	36,688	10,665,476
当期変動額			
剰余金の配当			20,700
別途積立金の積立			
当期純利益			670,527
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	12,884	12,884	12,884
当期変動額合計	12,884	12,884	662,711
当期末残高	49,572	49,572	11,328,188

重要な会計方針

1．有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定）を採用しております。

2．固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法（ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（附属設備は除く。）については定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 5～50年

器具備品 4～15年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

3．引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払いに備えるため、支給見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

(3) 役員退任慰労引当金

役員の退任慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

表示方法の変更

前事業年度において、「営業収益」の「運用受託報酬」に含めていた「投資助言報酬」は、事業運営の実態をより適切に表示するため、当事業年度より独立掲記することとしました。これに伴い「流動資産」の「未収運用受託報酬」に含めていた「未収投資助言報酬」についても、当事業年度より独立掲記することとしました。これらの表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業収益」の「運用受託報酬」に表示していた996,844千円は「運用受託報酬」863,879千円、「投資助言報酬」132,965千円として組み替えております。また、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「未収運用受託報酬」に表示していた282,702千円は、「未収運用受託報酬」208,432千円、「未収投資助言報酬」74,270千円として組み替えております。

注記事項

（貸借対照表関係）

前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
<p>1 関係会社に対する資産及び負債 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれて いるものは次のとおりであります。</p> <p style="padding-left: 20px;">預金 4,845,581千円</p>	<p>1 関係会社に対する資産及び負債 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれて いるものは次のとおりであります。</p> <p style="padding-left: 20px;">預金 3,572,752千円</p>
<p>2 有形固定資産の減価償却累計額</p> <p style="padding-left: 20px;">建物 31,792千円</p> <p style="padding-left: 20px;">器具備品 96,035千円</p> <hr style="width: 100%;"/> <p style="padding-left: 20px;">合計 127,827千円</p>	<p>2 有形固定資産の減価償却累計額</p> <p style="padding-left: 20px;">建物 43,503千円</p> <p style="padding-left: 20px;">器具備品 91,779千円</p> <hr style="width: 100%;"/> <p style="padding-left: 20px;">合計 135,283千円</p>

（損益計算書関係）

前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当事業年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
<p>1 各科目に含まれている関係会社に対する ものは次のとおりであります。</p> <p style="padding-left: 20px;">有価証券利息 40,145千円</p> <p style="padding-left: 20px;">支払利息 6,083千円</p>	<p>1 各科目に含まれている関係会社に対する ものは次のとおりであります。</p> <p style="padding-left: 20px;">有価証券利息 43,192千円</p> <p style="padding-left: 20px;">支払利息 9,143千円</p>
<p>2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであ ります。</p> <p style="padding-left: 20px;">器具備品 194千円</p> <hr style="width: 100%;"/> <p style="padding-left: 20px;">合計 194千円</p>	<p>2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであ ります。</p> <p style="padding-left: 20px;">器具備品 173千円</p> <hr style="width: 100%;"/> <p style="padding-left: 20px;">合計 173千円</p>

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末
普通株式（株）	38,400			38,400
A種種類株式（株）（注）		15,000		15,000
合計（株）	38,400	15,000		53,400

（注）A種種類株式の発行済株式総数の増加15,000株は、第三者割当による新株の発行による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	19,200	利益剰余金	500	平成25年3月31日	平成25年6月28日
	A種種類株式	1,500	利益剰余金	100	平成25年3月31日	平成25年6月28日

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末
普通株式（株）	38,400			38,400
A種種類株式（株）	15,000			15,000
合計（株）	53,400			53,400

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	19,200	500	平成25年3月31日	平成25年6月28日
	A種種類株式	1,500	100	平成25年3月31日	平成25年6月28日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	336,000	利益剰余金	8,750	平成26年3月31日	平成26年6月27日
	A種種類株式	18,000	利益剰余金	1,200	平成26年3月31日	平成26年6月27日

(リース取引関係)

前事業年度 平成25年3月31日	当事業年度 平成26年3月31日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（金融商品関係）

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1．金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

資金運用については、主に安全性の高い金融商品により行っております。証券投資信託の取得については社内規定により、取得金額の上限を定めるとともに、当社が設定する証券投資信託について、当初設定時における取得、または商品性を適正に維持するための取得に限定しております。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は証券投資信託で、市場リスクに晒されております。

なお、その他の関係会社有価証券は金融債で、資金運用を目的に、年度方針を策定のうえ定期的に取得しているものであり、満期保有を目的にしております。

（3）金融商品に係るリスク管理体制

投資有価証券及びその他の関係会社有価証券については、定期的に時価や発行体の格付等を把握し、経営会議へ報告、または関係部長へ報告を行っております。

2．金融商品の時価等に関する事項

平成25年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注2）をご参照ください。）。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	4,857,868	4,857,868	-
(2)投資有価証券 その他有価証券	611,734	611,734	-
(3)その他の関係会社有価証券(*) 満期保有目的の債券	7,750,000	7,806,275	56,275
合計	13,219,602	13,275,877	56,275

(*) 1年内償還予定のその他の関係会社有価証券を含んでおります。

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1)現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2)投資有価証券

証券投資信託の時価は、当期の決算日における基準価額によっております。

(3)その他の関係会社有価証券

金融債の時価は、取引金融機関の提示する参考時価情報によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

該当事項はありません。

（注3）金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預金	4,857,575	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期のあるもの	-	185,278	80,160	-
その他の関係会社有価証券 満期保有目的の債券	750,000	7,000,000	-	-
合計	5,607,575	7,185,278	80,160	-

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

資金運用については、主に安全性の高い金融商品により行っております。証券投資信託の取得については社内規定により、取得金額の上限を定めるとともに、当社が設定する証券投資信託について、当初設定時における取得、または商品性を適正に維持するための取得に限定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は証券投資信託で、市場リスクに晒されております。

なお、その他の関係会社有価証券は金融債で、資金運用を目的に、年度方針を策定のうえ定期的に取得しているものであり、満期保有を目的にしております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

投資有価証券及びその他の関係会社有価証券については、定期的に時価や発行体の格付等を把握し、経営会議へ報告、または関係部長へ報告を行っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成26年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注2）をご参照ください。）。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	3,585,705	3,585,705	-
(2)投資有価証券 その他有価証券	694,440	694,440	-
(3)その他の関係会社有価証券（*） 満期保有目的の債券	8,000,000	8,034,500	34,500
合計	12,280,145	12,314,645	34,500

（*）1年内償還予定のその他の関係会社有価証券を含んでおります。

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1)現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2)投資有価証券

証券投資信託の時価は、当期の決算日における基準価額によっております。

(3)その他の関係会社有価証券

金融債の時価は、取引金融機関の提示する参考時価情報によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

該当事項はありません。

（注3）金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預金	3,585,384	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期のあるもの	-	251,345	75,206	3,011
その他の関係会社有価証券 満期保有目的の債券	1,000,000	7,000,000	-	-
合計	4,585,384	7,251,345	75,206	3,011

（有価証券関係）

前事業年度（平成25年3月31日）

1．満期保有目的の債券

（単位：千円）

	種類	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	金融債	7,750,000	7,806,275	56,275
	小計	7,750,000	7,806,275	56,275
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	金融債	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		7,750,000	7,806,275	56,275

2．その他有価証券

（単位：千円）

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	その他	424,556	358,032	66,523
	小計	424,556	358,032	66,523
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	その他	187,177	195,703	8,525
	小計	187,177	195,703	8,525
合計		611,734	553,735	57,998

（注）時価が取得原価に比べて著しく下落したものについては、回復可能性があるとは判断される銘柄を除き、当該時価をもって貸借対照表価額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理（以下、「減損処理」という。）することとしておりますが、当事業年度においては、該当事項はありません。

また、時価が著しく下落したと判断するための根拠を定めており、その概要は、原則として以下のとおりであります。

時価が取得原価の50%以下の銘柄

時価が取得原価の50%超70%以下の水準で一定期間推移している銘柄

3．売却したその他有価証券

当事業年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他	190,240	17,762	13,038
合計	190,240	17,762	13,038

当事業年度（平成26年3月31日）

1．満期保有目的の債券

（単位：千円）

	種類	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	金融債	7,250,000	7,284,975	34,975
	小計	7,250,000	7,284,975	34,975
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	金融債	750,000	749,525	475
	小計	750,000	749,525	475
合計		8,000,000	8,034,500	34,500

2．その他有価証券

（単位：千円）

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	その他	522,542	433,235	89,307
	小計	522,542	433,235	89,307
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	その他	171,897	184,132	12,234
	小計	171,897	184,132	12,234
合計		694,440	617,368	77,072

（注）時価が取得原価に比べて著しく下落したものについては、回復可能性があるかと判断される銘柄を除き、当該時価をもって貸借対照表価額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理（以下、「減損処理」という。）することとしておりますが、当事業年度においては、該当事項はありません。

また、時価が著しく下落したと判断するための根拠を定めており、その概要は、原則として以下のとおりであります。

時価が取得原価の50%以下の銘柄

時価が取得原価の50%超70%以下の水準で一定期間推移している銘柄

3．売却したその他有価証券

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引関係）

前事業年度（平成25年3月31日）

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

当事業年度（平成26年3月31日）

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

（退職給付関係）

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1．採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しております。

2．退職給付債務に関する事項

（単位：千円）

(1) 退職給付債務	123,920
(2) 年金資産	
(3) 未積立退職給付債務(1) + (2)	123,920
(4) 会計基準変更時差異の未処理額	
(5) 未認識数理計算上の差異	
(6) 未認識過去勤務債務(債務の減額)	
(7) 貸借対照表計上額純額(3) + (4) + (5) + (6)	123,920
(8) 前払年金費用	
(9) 退職給付引当金(7) - (8)	123,920

3．退職給付費用に関する事項

（単位：千円）

退職給付費用	19,226
(1)勤務費用	19,226
(2)利息費用	
(3)期待運用収益(減算)	
(4)会計処理基準変更時差異の費用処理額	
(5)数理計算上の差異の費用処理額	
(6)過去勤務債務の費用処理額	
上記(2)から(6)については、簡便法を採用しておりますので記載を省略しております。	

4．退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1)割引率	
(2)期待運用収益率	
(3)退職給付見込額の期間配分方法	
(4)過去勤務債務の額の処理年数	
(5)会計基準変更時差異の処理年数	
(6)数理計算上の差異の処理年数	
上記(1)から(6)については、簡便法を採用しておりますので記載を省略しております。	

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1．採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度（非積立型制度であります。）を採用しております。

当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2．確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表（単位：千円）

退職給付引当金の期首残高	123,920
退職給付費用	19,558
退職給付の支払額	21,173
退職給付引当金の期末残高	122,305

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表（単位：千円）

非積立型制度の退職給付債務	122,305
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	122,305
退職給付引当金	122,305
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	122,305

(3) 退職給付費用（単位：千円）

簡便法で計算した退職給付費用	19,558
----------------	--------

(税効果会計関係)

(単位：千円)

前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)																																																												
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>ソフトウェア償却超過額</td><td style="text-align: right;">21,117</td></tr> <tr><td>敷金償却否認</td><td style="text-align: right;">1,187</td></tr> <tr><td>会員権評価損否認</td><td style="text-align: right;">3,016</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">46,996</td></tr> <tr><td>役員退任慰労引当金</td><td style="text-align: right;">14,505</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">44,435</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">3,038</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">18,470</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">8,460</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">161,229</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">19,349</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">141,879</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">23,709</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">23,709</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right;">118,169</td></tr> </table>	ソフトウェア償却超過額	21,117	敷金償却否認	1,187	会員権評価損否認	3,016	賞与引当金	46,996	役員退任慰労引当金	14,505	退職給付引当金	44,435	その他有価証券評価差額金	3,038	未払事業税	18,470	その他	8,460	繰延税金資産小計	161,229	評価性引当額	19,349	繰延税金資産合計	141,879	その他有価証券評価差額金	23,709	繰延税金負債合計	23,709	繰延税金資産の純額	118,169	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>ソフトウェア償却超過額</td><td style="text-align: right;">19,234</td></tr> <tr><td>敷金償却否認</td><td style="text-align: right;">1,758</td></tr> <tr><td>会員権評価損否認</td><td style="text-align: right;">3,016</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">45,190</td></tr> <tr><td>役員退任慰労引当金</td><td style="text-align: right;">13,400</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">43,589</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">4,360</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">26,121</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">7,961</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">164,634</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">17,351</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">147,282</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">31,829</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">31,829</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right;">115,453</td></tr> </table>	ソフトウェア償却超過額	19,234	敷金償却否認	1,758	会員権評価損否認	3,016	賞与引当金	45,190	役員退任慰労引当金	13,400	退職給付引当金	43,589	その他有価証券評価差額金	4,360	未払事業税	26,121	その他	7,961	繰延税金資産小計	164,634	評価性引当額	17,351	繰延税金資産合計	147,282	その他有価証券評価差額金	31,829	繰延税金負債合計	31,829	繰延税金資産の純額	115,453
ソフトウェア償却超過額	21,117																																																												
敷金償却否認	1,187																																																												
会員権評価損否認	3,016																																																												
賞与引当金	46,996																																																												
役員退任慰労引当金	14,505																																																												
退職給付引当金	44,435																																																												
その他有価証券評価差額金	3,038																																																												
未払事業税	18,470																																																												
その他	8,460																																																												
繰延税金資産小計	161,229																																																												
評価性引当額	19,349																																																												
繰延税金資産合計	141,879																																																												
その他有価証券評価差額金	23,709																																																												
繰延税金負債合計	23,709																																																												
繰延税金資産の純額	118,169																																																												
ソフトウェア償却超過額	19,234																																																												
敷金償却否認	1,758																																																												
会員権評価損否認	3,016																																																												
賞与引当金	45,190																																																												
役員退任慰労引当金	13,400																																																												
退職給付引当金	43,589																																																												
その他有価証券評価差額金	4,360																																																												
未払事業税	26,121																																																												
その他	7,961																																																												
繰延税金資産小計	164,634																																																												
評価性引当額	17,351																																																												
繰延税金資産合計	147,282																																																												
その他有価証券評価差額金	31,829																																																												
繰延税金負債合計	31,829																																																												
繰延税金資産の純額	115,453																																																												
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(%)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">38.01</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">1.23</td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">0.55</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増加額</td><td style="text-align: right;">1.46</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.97</td></tr> <tr><td>税効果適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">42.21</td></tr> </table>	法定実効税率	38.01	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	1.23	住民税均等割	0.55	評価性引当額の増加額	1.46	その他	0.97	税効果適用後の法人税等の負担率	42.21	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。</p>																																														
法定実効税率	38.01																																																												
(調整)																																																													
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.23																																																												
住民税均等割	0.55																																																												
評価性引当額の増加額	1.46																																																												
その他	0.97																																																												
税効果適用後の法人税等の負担率	42.21																																																												
	<p>3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正</p>																																																												

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成26年法律第10号）が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の38.01%から35.64%になります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は6,054千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

（資産除去債務関係）

前事業年度 （自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日）	当事業年度 （自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日）
<p>本社は不動産賃貸借契約により、退去時における原状回復に係る債務を有しております。</p> <p>当該賃貸借契約については、敷金が資産計上されておりますので、「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」第9項、第15項に基づき、資産除去債務の負債計上及びこれに対応する除去費用の資産計上に代えて、原状回復に係る費用を敷金の回収が見込めない金額として合理的に見積もり、そのうち当期の負担に属する金額を営業費用に計上しております。</p>	<p>本社は不動産賃貸借契約により、退去時における原状回復に係る債務を有しております。</p> <p>当該賃貸借契約については、敷金が資産計上されておりますので、「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」第9項、第15項に基づき、資産除去債務の負債計上及びこれに対応する除去費用の資産計上に代えて、原状回復に係る費用を敷金の回収が見込めない金額として合理的に見積もり、そのうち当期の負担に属する金額を営業費用に計上しております。</p>

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

投資信託委託会社としての投資運用業、投資一任契約及び投資助言契約に係る投資運用業それぞれの営業収益は損益計算書に記載されております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

(単位：千円)

日本	ケイマン	その他	合計
2,581,135	564,283	128,217	3,273,636

(注) 営業収益の地域区分は、契約相手方の所在地（ファンドの場合は組成地）を基礎として分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称	営業収益	関連するセグメント名
農林中央金庫	754,920	投資運用業
全国共済農業協同組合連合会	681,708	投資運用業
State Street Cayman Trust Company, Ltd.	469,947	投資運用業

(注) 営業収益は、当社が直接募集により販売した投資信託に係る委託者報酬、投資一任契約による運用受託報酬及び投資助言契約による投資助言報酬を顧客ごとに集計しております。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

投資信託委託会社としての投資運用業、投資一任契約及び投資助言契約に係る投資運用業それぞれの営業収益は損益計算書に記載されております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

（単位：千円）

日本	ケイマン	その他	合計
3,743,361	783,275	36,321	4,562,958

（注）営業収益の地域区分は、契約相手方の所在地（ファンドの場合は組成地）を基礎として分類してあります。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略してあります。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称	営業収益	関連するセグメント名
農林中央金庫	1,082,852	投資運用業
全国共済農業協同組合連合会	862,207	投資運用業
State Street Cayman Trust Company, Ltd.	508,938	投資運用業

（注）営業収益は、当社が直接募集により販売した投資信託に係る委託者報酬、投資一任契約による運用受託報酬及び投資助言契約による投資助言報酬を顧客ごとに集計してあります。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれんの発生益に関する情報]

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

該当事項はありません。

（関連当事者情報）

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1．関連当事者との取引

（1）親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称 又は 氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の 内容又 は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	農林中央 金庫	東京都 千代田区	3,425,909	金融業	被所有 直接 50.91%	当社投資信託の 購入、募集・販 売の取扱等 役員の兼任	支払利息 (*1)	6,083	短期借入 金	-

（2）兄弟会社等

属性	会社等の名称 又は 氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の 内容又 は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
当社と 同一の 親会社 をもつ 会社	農中信託 銀行(株)	東京都 千代田区	20,000	金融業	-	当社投資信託に 係る受託業務、 投資信託の運用 助言等 役員の兼任	第三者割当 増資(*2)	3,000,000	-	-

（注）取引条件及び取引条件の決定方針等

（*1）資金の借入については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。なお、担保は差し入れておりません。

（*2）1株につき200千円で、15,000株の第三者割当増資を実施したものであります。

2．親会社又は重要な関連会社に関する注記

（1）親会社情報

農林中央金庫（非上場）

（2）重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 関連当事者との取引

(1) 親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称 又は 氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の 内容又 は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	農林中央 金庫	東京都 千代田区	3,425,909	金融業	被所有 直接 50.91%	当社投資信託の 購入、募集・販 売の取扱等 役員の兼任	支払利息 (*)	9,143	短期借入 金	-

(2) 兄弟会社等

属性	会社等の名称 又は 氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の 内容又 は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
当社と 同一の 親会社 をもつ 会社	農中信託 銀行㈱	東京都 千代田区	20,000	金融業	-	当社投資信託に 係る受託業務、 投資信託の運用 助言等 役員の兼任	投資助言報 酬の支払	416,505	未払手数 料	45,115

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

(*) 資金の借入については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。なお、担保は差し入れておりません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

農林中央金庫（非上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

（１株当たり情報）

	前事業年度 （自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日）	当事業年度 （自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日）
1株当たり純資産額	199,582円72銭	216,411円15銭
1株当たり当期純利益金額	6,230円52銭	16,992円89銭

（注）１．潜在株式調整後１株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

２．１株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 （自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日）	当事業年度 （自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日）
当期純利益金額（千円）	240,752	670,527
普通株主に帰属しない金額（千円）	1,500	18,000
（うちA種種類株式配当額(千円)）	(1,500)	(18,000)
普通株式に係る当期純利益金額 （千円）	239,252	652,527
普通株式の期中平均株式数（株）	38,400	38,400

３．１株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 （平成25年3月31日）	当事業年度 （平成26年3月31日）
純資産の部の合計額（千円）	10,665,476	11,328,188
純資産の部の合計額から控除する金額 （千円）	3,001,500	3,018,000
（うちA種種類株式払込金額(千円)）	(3,000,000)	(3,000,000)
（うちA種種類株式配当額(千円)）	(1,500)	(18,000)
普通株式に係る期末の純資産額（千円）	7,663,976	8,310,188
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数（株）	38,400	38,400

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2. 中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

		第22期中間会計期間 (平成26年9月30日)
科 目	注記 番号	金 額 (千円)
(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金		2,078,286
分別金信託		10,000
1年内償還予定のその他の 関係会社有価証券		1,000,000
前払費用		97,273
未収委託者報酬		900,726
未収運用受託報酬		226,506
未収投資助言報酬		117,273
未収収益		7,028
繰延税金資産		70,389
その他		2,664
流動資産計		4,510,149
固定資産		
有形固定資産	1	133,488
建物		105,216
器具備品		28,272
無形固定資産		7,047
投資その他の資産		7,936,581
投資有価証券		795,656
その他の関係会社有価証券		7,000,000
長期差入保証金		81,364
長期前払費用		1,256
会員権		6,700
繰延税金資産		25,888
その他		25,715
固定資産計		8,077,117
資産合計		12,587,266

		第22期中間会計期間 (平成26年9月30日)
科目	注記 番号	金額 (千円)
(負債の部)		
流動負債		
預り金		140,411
未払金		348,007
未払費用		93,475
未払法人税等		225,116
未払消費税等		50,325
前受運用受託報酬		51,334
賞与引当金		123,270
その他		1,960
流動負債計		1,033,902
固定負債		
退職給付引当金		128,918
役員退任慰労引当金		25,100
固定負債計		154,018
負債合計		1,187,920
(純資産の部)		
株主資本		
資本金		3,420,000
資本剰余金		
資本準備金		1,500,000
資本剰余金計		1,500,000
利益剰余金		
利益準備金		74,040
その他利益剰余金		6,335,035
別途積立金		5,805,000
繰越利益剰余金		530,035
利益剰余金計		6,409,075
株主資本計		11,329,075
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		70,270
評価・換算差額等計		70,270
純資産合計		11,399,346
負債純資産合計		12,587,266

(2) 中間損益計算書

		第22期中間会計期間 (自 平成26年4月 1日 至 平成26年9月30日)
科 目	注記 番号	金 額 (千円)
営業収益		
委託者報酬		1,728,036
運用受託報酬		523,588
投資助言報酬		102,948
営業収益計		2,354,573
営業費用		
支払手数料		328,985
その他		486,692
営業費用計		815,677
一般管理費	1	935,671
営業利益		603,224
営業外収益	2	27,461
営業外費用	3	834
経常利益		629,851
特別損失	4	1,691
税引前中間純利益		628,160
法人税、住民税及び事業税		215,956
法人税等調整額		7,743
法人税等合計		223,700
中間純利益		404,459

(3) 中間株主資本等変動計算書

第22期中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

（単位：千円）

項目	株主資本							株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金 別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	3,420,000	1,500,000	1,500,000	74,040	5,505,000	779,575	6,358,615	11,278,615
当中間期変動額								
剰余金の配当						354,000	354,000	354,000
別途積立金の積立					300,000	300,000		
中間純利益						404,459	404,459	404,459
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)								
当中間期変動額合計					300,000	249,540	50,459	50,459
当中間期末残高	3,420,000	1,500,000	1,500,000	74,040	5,805,000	530,035	6,409,075	11,329,075

項目	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	49,572	49,572	11,328,188
当中間期変動額			
剰余金の配当			354,000
別途積立金の積立			
中間純利益			404,459
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)	20,698	20,698	20,698
当中間期変動額合計	20,698	20,698	71,157
当中間期末残高	70,270	70,270	11,399,346

重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定）を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法（ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（附属設備は除く。）については定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 5～50年

器具備品 4～15年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払いに備えるため、支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る中間期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(3) 役員退任慰労引当金

役員の退任慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当中間期末要支給額を計上しております。

4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

注記事項

（中間貸借対照表関係）

第22期中間会計期間 （平成26年9月30日）	
1 有形固定資産の減価償却累計額	138,112千円

（中間損益計算書関係）

第22期中間会計期間 （自 平成26年4月 1日 至 平成26年9月30日）	
1 減価償却実施額	
有形固定資産	10,343千円
無形固定資産	19千円
2 営業外収益の主要項目	
受取配当金	8,575千円
有価証券利息	18,225千円
受取利息	133千円
3 営業外費用の主要項目	
支払利息	779千円
4 特別損失の主要項目	
固定資産除却損	1,691千円

（中間株主資本等変動計算書関係）

第22期中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	当中間会計期間 増加	当中間会計期間 減少	当中間会計期間末
普通株式（株）	38,400			38,400
A種種類株式（株）	15,000			15,000
合計（株）	53,400			53,400

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	336,000	8,750	平成26年3月31日	平成26年6月27日
	A種種類株式	18,000	1,200	平成26年3月31日	平成26年6月27日

(2) 基準日が当中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

（金融商品関係）

第22期中間会計期間（平成26年9月30日）

金融商品の時価等に関する事項

平成26年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（注2）をご参照ください。）。

（単位：千円）

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,078,286	2,078,286	-
(2) 投資有価証券			
その他有価証券	795,656	795,656	-
(3) その他の関係会社有価証券（*）			
満期保有目的の債券	8,000,000	8,032,975	32,975
資産計	10,873,943	10,906,918	32,975

（*）1年内償還予定のその他の関係会社有価証券を含んでおります。

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 投資有価証券

証券投資信託の時価は、平成26年9月30日における基準価額によっております。

(3) その他の関係会社有価証券

金融債の時価は、取引金融機関の提示する参考時価情報によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

該当事項はありません。

（有価証券関係）

第22期中間会計期間(平成26年9月30日)

1. 満期保有目的の債券

(単位：千円)

	種類	中間貸借対照表計上額	時価	差額
時価が中間貸借対照表計上額を超えるもの	金融債	7,750,000	7,783,300	33,300
	小計	7,750,000	7,783,300	33,300
時価が中間貸借対照表計上額を超えないもの	金融債	250,000	249,675	325
	小計	250,000	249,675	325
合計		8,000,000	8,032,975	32,975

2. その他有価証券

(単位：千円)

	種類	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	その他	599,986	470,154	129,832
	小計	599,986	470,154	129,832
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	その他	195,669	216,300	20,630
	小計	195,669	216,300	20,630
合計		795,656	686,454	109,202

(注) 時価が取得原価に比べて著しく下落したのものについては、回復可能性があるとは判断される銘柄を除き、当該時価をもって貸借対照表価額とするとともに、評価差額を当中間会計期間末の損失として処理（以下、「減損処理」という。）することとしておりますが、当中間会計期間末においては、該当事項はありません。

また、時価が著しく下落したと判断するための根拠を定めており、その概要は、原則として以下のとおりであります。

時価が取得原価の50%以下の銘柄

時価が取得原価の50%超70%以下の水準で一定期間推移している銘柄

（デリバティブ取引関係）

第22期中間会計期間(平成26年9月30日)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

（資産除去債務関係）

第22期中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

本社は、不動産賃貸借契約により、退去時における原状回復に係る債務を有しております。

当該賃貸借契約については、敷金が資産計上されておりますので、「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」第9項、第15項に基づき、資産除去債務の負債計上及びこれに対応する除去費用の資産計上に代えて、原状回復に係る費用を敷金の回収が見込めない金額として合理的に見積もり、そのうち当中間会計期間の負担に属する金額を営業費用に計上しております。

（セグメント情報等）

〔セグメント情報〕

第22期中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

〔関連情報〕

第22期中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

投資信託委託会社としての投資運用業、投資一任契約及び投資顧問(助言)契約に係る投資運用業それぞれの営業収益は中間損益計算書に記載されております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

（単位：千円）

日本	ケイマン	合計
1,927,590	426,983	2,354,573

（注）営業収益の地域区分は、契約相手方の所在地（ファンドの場合は組成地）を基礎として分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称	営業収益	関連するセグメント名
農林中央金庫	575,746	投資運用業
全国共済農業協同組合連合会	467,536	投資運用業

（注）営業収益は、当社が直接募集により販売した投資信託にかかる委託者報酬及び投資一任契約による運用受託報酬ならびに投資顧問(助言)契約による投資助言報酬を顧客ごとに集計しております。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

第22期中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

第22期中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれんの発生益に関する情報]

第22期中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1株当たり純資産額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第22期中間会計期間 (平成26年9月30日)
1株当たり純資産額	218,732円97銭
(算定上の基礎)	
純資産の部の合計額(千円)	11,399,346
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	3,000,000
(うちA種種類株式払込金額)(千円)	(3,000,000)
普通株式にかかる中間期末の純資産額(千円)	8,399,346
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末の普通株式の数(株)	38,400

1株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第22期中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり中間純利益金額	10,532円80銭
(算定上の基礎)	
中間純利益金額(千円)	404,459
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式にかかる中間純利益金額(千円)	404,459
普通株式の期中平均株式数(株)	38,400

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託者は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託者の親法人等（委託者の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下

において同じ。）又は子法人等（委託者が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は金融デリバティブ取引を行うこと。

委託者の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記 に掲げるもののほか、委託者の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

（1）定款の変更、事業譲渡又は事業譲受、出資の状況その他の重要事項について

- ・平成26年3月26日付で、A種種類株式の配当上限を撤廃するため、定款の一部変更を行いました。

（2）訴訟事件その他の重要事項

本書提出日現在、委託者およびファンドに重要な影響を与えた事実、または、与えると予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託者

名称

三菱UFJ信託銀行株式会社

資本金の額（平成26年9月末日現在）

324,279百万円

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

< 再信託受託会社の概況 >

名称

日本マスタートラスト信託銀行株式会社

資本金の額（平成26年9月末日現在）

10,000百万円

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名称	資本金の額 (平成26年9月末日現在)	事業の内容
農林中央金庫	3,425,909百万円	全国の農業協同組合、漁業協同組合、森林組合などの協同組織の全国金融機関として、余裕資金の効率運用と資金の需給調整、当該協同組織の信用力の維持向上及び業務機能の補完を図っています。
みずほ証券株式会社	125,167百万円	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

(3) 投資顧問会社

名称

Wellington Management Company LLP

資本金の額（平成25年12月末日現在）

866百万ドル

事業の内容

米国を中心に50カ国以上にわたり、一任契約に基づくポートフォリオ運用業務およびポートフォリオ運用に関する助言業務を行っています。

2【関係業務の概要】

(1) 受託者（三菱UFJ信託銀行株式会社（再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社））

当証券投資信託契約の受託者として、委託者との信託契約の締結、信託財産の保管・管理・計算業務等を行います。

なお、信託事務の一部につき日本マスタートラスト信託銀行株式会社に委託することができます。

(2) 販売会社(農林中央金庫^(注)、みずほ証券株式会社)

当証券投資信託の販売会社として、受益権の募集の取扱い・販売、目論見書および運用報告書の交付、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

なお、農林中央金庫と募集・販売等の取扱い等にかかる契約を締結している取次登録金融機関においても販売会社として上記各業務の全部または一部を行います。

(注) 農林中央金庫は本書提出日現在、新規の募集の取扱い・販売を中止しております。

(3) 投資顧問会社

委託会社から、親投資信託における外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限の委託を受け、運用の指図、投資判断、発注等を行います。

3【資本関係】

農林中央金庫は委託者が発行する普通株式を保有しており、持株比率は36.61%、議決権保有比率は50.91%です。

なお、その他の関係法人と委託者との間には資本関係はありません。

(注) 委託者においては普通株式のほか議決権を有しないA種種類株式を発行しているため、持株比率と議決権保有比率が一致しません。

第3【その他】

(1) 目論見書の表紙から本文の前までの記載等について

金融商品取引法の規定に基づく目論見書である旨を記載することがあります。

交付目論見書または請求目論見書である旨を記載することがあります。

委託会社等の情報、受託会社に関する情報を記載することがあります。

詳細な情報の入手方法として、以下の事項を記載することがあります。

- ・委託会社のホームページアドレス、電話番号及び受付時間等
- ・請求目論見書の入手方法及び投資信託約款が請求目論見書に掲載されている旨

使用開始日を記載することがあります。

届出の効力に関する事項について、次に掲げるいずれかの内容を記載することがあります。

- ・届出をした日及び当該届出の効力の発生の有無を確認する方法
- ・届出をした日、届出が効力を生じている旨及び効力発生日

次の事項を記載することがあります。

- ・投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨
- ・請求目論見書は投資者の請求により販売会社から交付される旨及び当該請求を行った場合にはその旨の記録をしておくべきである旨
- ・「ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。」との趣旨を示す記載
- ・ファンドの内容に関して重大な変更を行う場合には、投信法に基づき事前に投資者の意向を確認する旨
- ・投資信託は預貯金や保険契約と異なり、預金（貯金）保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではない旨
- ・投資信託は元本が保証されているものではなく、投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託を購入されたお客様に負っていただく旨
- ・登録金融機関の販売の場合には、投資者保護基金の対象とはならない旨
- ・課税上の取扱いに関する事項

委託会社、当ファンドのロゴ・マーク等を記載することがあります。

ファンドの形態等を記載することがあります。

図案を採用することがあります。

(2) 目論見書は別称として「投資信託説明書」と称して使用することがあります。

(3) 交付目論見書にクーリング・オフに関する事項を記載することがあります。

(4) 目論見書は電子媒体等として使用される他、インターネット等に掲載される場合があります。

(5) 請求目論見書に当ファンドの投資信託約款の全文を記載します。

独立監査人の監査報告書

平成26年6月26日

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大村	真敏	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	長尾	礎樹	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている農林中金全共連アセットマネジメント株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第21期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBR Lデ-タは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年1月14日

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社

取締役会御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 和田 渉 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているJA資産設計ファンド（安定型）の平成25年11月19日から平成26年11月17日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、JA資産設計ファンド（安定型）の平成26年11月17日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注1）上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

（注2）XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年1月14日

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社

取締役会御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 和田 渉 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているJA資産設計ファンド（成長型）の平成25年11月19日から平成26年11月17日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、JA資産設計ファンド（成長型）の平成26年11月17日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注1）上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

（注2）XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年1月14日

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社

取締役会御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 和田 渉 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているJA資産設計ファンド（積極型）の平成25年11月19日から平成26年11月17日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、JA資産設計ファンド（積極型）の平成26年11月17日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注1）上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

（注2）XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

平成26年12月19日

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 大村 真敏 印
業務執行社員
指定有限責任社員 公認会計士 長尾 礎樹 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている農林中金全共連アセットマネジメント株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第22期事業年度の中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBR Lデータは中間監査の対象には含まれていません。